

洋諸島ノ宣教僧正ヲ被拜スルニ當テハ一モ陛下ノ辭令書勅命ヲ藉ラス唯タ其旨ヲ殖民部尙書トニニューシーランド檢事長トニ照會セシノミナリキ

第四款 教務畫一令ニ對スル義務

チャーレス二世第四号十三款十四款ノ法律ハ別紙ヲ以テ祈禱書ヲ公布シ英國寺院ノ僧徒ヲシテ悉ク之ヲ遵奉セシメ書中ノ定式ニ違フヲ禁ス人之ヲ稱シテ畫一令ト謂フ寺院ノ主治役員ハ該書ヲ奉承賛成スルヲ明言セサル可ラス猶ホ寺院ノ宗旨國家ノ政府ヲ保守スルヲ明言スルニ同シ但シ此令ノ行ハルハ所ハ英吉蘭ウエールス及ヒパーウツク、オン、トッパード邑ニ限ル愛爾蘭議院モ亦更ニ同様ノ布令ヲ發セリ方今輿論大ニ進ニ宗教上ノ事益々自由ニ趨ク議院豈

僧徒署名ノ新辭

ニ獨リ此令ニ於テ空文ヲ墨守スルノ理アラシヤ千八百六十二年八月七日下院ハ政府ニ對シテオクスフォード僧正ガ僧徒ニ布キタル某令ハ畫一令ニ合スルヤ否ヤヲ問フ檢事長之ニ答テ曰ク某令ノ如キハ事ノ僧正ト僧侶トニ關スル者ニシテ政府ニ關係スル者ニ非ス故ニ政府ハ質問ニ答辨スルヲ要セスト凡ソ人神聖ノ品流昔者人ノ甚ダ熱心セシ所ナリニ入ル者ハ制立寺院ノ式目拜儀ニ署名スルニ當テ約辭アリ千八百六十五年勅命事務掛ヲ置テ之ヲ考窮セシム議院因テ其建言ニ從ヒ署名ノ新式ヲ出シ一般ノ約辭ヲ定ム蓋シ信仰躬行ノ疑義ニシテ未ダ寺院ノ確定明言ヲ經サル者或ハ之ヲ輕視シテ主治役員ノ論議ハ一定スルヲ要セスト爲ス者ハ

陸海軍ニ關スル王權

皆ナ多少ニ異説ヲ容ルシ以テ僭徒全体ノ良心ノ危疑ヲ安
 定セシメンガ爲メナリ
 次ニ余輩ノ考案ヲ要スル王權ノ條件ハ陸海軍ノ養置及ヒ
 統御ニ關スル者ナリ兵力ヲ蓄フルハ邦國ヲ保護防衛スル
 所以ニシテ其多少ヲ論セス皆ナ社會ノ康安ニ缺ク可ラサ
 ル者タリ而メ國內軍戎ノ總權ハ必ス之ヲ君主ニ統掌ス是
 ノ特權ハチヤトレス二世第六章第十三號ノ布令ヲ以テ確
 定セラレタリ至尊カ軍國ノ全權ヲ掌握スルハ君主國ノ寧
 靜ニ缺ク可ラサル者ニシテ英國ノ王位ヲ踐ム者ハ此權利
 ナ有ス可キヲ疑テ容レス然ルニ千六百八十八年ノ革命ニ
 際シテ憲法上此王權ノ制限ヲ定メテ英國人民ノ自由ヲ妨
 害スルカ爲メニ之ヲ使用スル能ハサラシメタリ權理法典

ニ云ヘルアリ平和ノ時ニ當リ議院ノ承諾ヲ經スル王國內
 ニ常備軍ヲ徵發養置スルハ法律違背ノ事タリト下院ハ其
 議決ヲ以テ常備軍ノ兵員ヲ定メ一年間之ヲ養置スルヲ
 認許ス下院ノ此議決ハ上ニ擧ケタル權理法典中ノ條件ト
 共ニ之ヲ年々議定スル所ノ軍防令ノ序言ニ編輯セ且ツ明
 書シテ云フ陛下ト現議院トハ聯合王國ノ寧靜ヲ保テ陛下
 ノ所領ヲ防衛シ并ニ歐洲ニ於テ權力ヲ平衡ヲ保持センカ
 爲メニ軍備ヲ置クヲ以テ必要ト裁定セリ此軍備ハ若干ノ
 兵員ヨリ成ル可シト議院既ニ兵員ヲ定メテ軍備ヲ存續ス
 ルヲ許可セルヲ公告スルノ後チ軍防令ハ軍事犯罪者ハ
 緩慢錯綜ナル尋常法廷ノ裁判ヲ經由セス直ニ軍律ニ據テ
 刑罰セラレ可キ權理ヲ與ヘ以テ軍戎ノ規律ヲ申明ス始メ

軍防令

軍防令ヲ通過セシハ千六百八十九年ニシテ爾後會期毎
ニ之ヲ更新セリ、但タ千六百九十八年ヨリ千七百一年マテ
人間ハ殆ント中廢シ之ヲ制定セサリシカ如シ、革命ノ翌年
ハ軍防令ヲ以テ軍ニ規律申明ノ用ニ供シ軍備ノ存續ニ關
スル議院ノ許可ハ供度委員會ニ於ケル下院ノ決議ヲ以テ
之ヲ附與シ其人員及ヒ養備支給ニ要スル費額ノ如キモ亦
供度委員會ニ於テ之ヲ決定セリウヰリヤム三世ノ治世中下
院カ供度委員會ノ決議ヲ以テ常備軍ノ員數ヲ減少セシ例
ニアリ而シテ其ハ軍防令中廢ノ日ニ起レリ、近來ノ實行ニ
據レハ陸海軍ノ人員ハ毎年供度委員會ノ決議ヲ以テ之ヲ
限定シ、然ル後テ其陸軍ニ關スル者ハ之ヲ軍防令ニ記入シ
其海軍ニ關スル者ハ之ヲ經費配當令ニ記入ス、此ノ如クメ

常備軍

下院カ至尊ノ手ニ在ル可キ軍備ノ員數ヲ限定セル此決議
ハ上院ノ認承ヲ得ルニ至リ、然レテハ議院ノ許可ヲ經スル常備軍ヲ養置スル
權理法典ニ所謂ル議院ノ許可ヲ經スル常備軍ヲ養置スル
ヲ不法トストハ明カニ平和ノ時ニ限レル者ナルヲ省記セ
サル可ラス、且ツ軍備ヲ整理スルカ爲メニ非常ノ大權ヲ與
フル所ノ軍防令ハ平和ノ時ニ非スルハ軍律ヲ以テ軍人ヲ
處斷スルヲ以テ不法ト爲サ、ルノ意義ヲ包蓄ス故ニ戰爭
ノ日ニ當リ王國ヲ防衛スル爲メニ軍戎ヲ編制統御スルノ
王權ハ憲法上此等ノ限界アルニ因テ毫モ毀損スル所ナク
依然常法ノゴトキヲ得ルナリ、此常法ノ境域ハ今マ此ニ論
究スルヲ要セス、何トナレハ革命後英國君主ハ常ニ軍備ノ
整理ヲ舉テ平時ト戰時トヲ問ハス皆テ軍防令ノ權力ニ依

頼スルヲ以テ満足シ又常ニ大英國與ル所ノ戦争執行費ハ
 年々其支給ヲ議院ニ仰クノ必要ナルヲ熟知スレハナリ北
 米ノ役ニ際シ各個人ニ與フルニ議院ノ許可ヲ經スシテ隊
 伍ヲ編制シ之ヲ保持ス可キ權力ヲ以テスルコトヲ得ルヤ否
 ヤノ疑問起リ執政官ハ之ヲ可決セント欲シタレモ議院ハ
 終ニ之ヲ否決セリ否決ノ理由ハ頗ル強大ニシテ即チ國家
 緊要ノ事ヲ斷シ之カ準備ヲ爲スハ是レ議院ノ本色ナリ議
 院ノ預諾ヲ經スシテ恣ニ是ヲ冒ス者ハ其權力ヲ害スルヲ
 其權理ヲ奪フナリト言フニ在リ然レモ己レノ分ニ應セ
 ル武器ヲ操テ已レテ防衛スルハ又英人古常ノ權理自由ノ
 一ニシテ法律ノ許ス所タリ且ツ英人ハ武器ヲ使用スルノ
 知識ヲ具フ可キ義務アルコトハ國法ノ丁寧反覆スル所ナリ

義勇兵

左レハ義勇兵ハ君主ノ或ル約束ノ下ニ人民ヨリ兵役ノ獻
 納ヲ受領スルコトヲ許ス所ノ議院ノ法令ニ因テ之ヲ編制ス
 今日英國ニ於テ重要ノ地ヲ占ムル所ノ義勇兵ハ千八百五
 十九年ノ春ニ起レリ當時ノ軍務尙書セテラル、ヒルハニ
 通ノ布達ヲ發シテ、一ハテヨ一チ三世第四十四號ノ舊義勇
 兵令ニ循テ政府ハ義勇兵ノ勤役ヲ受納スヘキコトヲ告示シ
 一ハ政府之ヲ受納スル所以ノ主義ヲ明示セリ千八百六十
 二年救命事務掛ヲ置テ義勇兵ノ現狀ヲ調査セシメ、之ヲ
 國衛ノ裨助ヲラシムルニ更ラニ其基ヲ固クシ其勢力ヲ
 増スヲ要スルカ否カヲ報告セシム、事務掛ハ是ノ旨ヲ奉シ
 テ諸般ノ意見ヲ錄聞セシ中ニ、若シ義勇兵ノ全員ニ制限ヲ
 置カント欲セハ之ヲ置クノ責ハ專ラ責任輔佐官ニ委テサ

陸海軍統御ニ
關スル執政官
ノ責任

ル可ラスト云ヘル憲法上ノ規律ヲ加ヘタリ
軍務尙書ハ是ノ主義ニ據リ義勇兵ノ增添編入ヲ禁スルノ
布達ヲ發セリ
國家ヲ防衛スル爲メ至尊ノ軍戎ヲ課賦養置スルノ權理ノ
明確ナルコト凡ソ右ノ如シ今當サニ進テ軍戎ヲ指揮統御
スル王權ノ境域ヲ考察シ之ニ關スル憲法上議院ノ權力ノ
及フ所ヲ講究スヘシ
余輩前ニ己ニ言ヘルトアリ軍戎ノ事ハ責任執政官ノ掌握
ニ交付スヘキ最後ノ王權ナリト近年ニ至リ猶ホ說ヲ作シ
テ云フ者アリ王國陸海軍ノ統理ハ固ヨリ當サニ行政部ニ
委ス可キ者ナリ上下議院ノ是ニ干涉スルハ之ヲ違法トシ
テ斥ケテ可ナリト然リト雖モ王室ノ權力ヲ使用スルニ當

テ陸海軍ト他ノ國事トノ間ニ別テ立ツルハ定説ノ禁スル
所タリ上下議院モ亦其意見ヲ上ルニ方テ是ノ間ニ別アル
ヘカラサルナリ況ンヤ諸官局行フ所ノ事ニシテ執政官ノ
議院ニ責ヲ負フ者ナキハアラサルチヤ若シ陸海軍ノ事ハ
常例外ナリト謂ハ、則チ其責任ヲ以テ直ニ君主ニ歸セサ
ルチ得ス是レ所謂ル國王ハ惡ヲ爲ス能ハス躬自ラ世間ノ
法庭ニ管セラル、者ニ非ストノ憲法上ノ格言ニ反違スル
ナリ說者或ハ云フ軍政ノ責任ハ大総督ヲシテ悉ク之ヲ負
擔セシメ執政官ヲシテ與ラシム可ラストロイド、クレイモ
嘗テ固執セルカ如ク此法ハ未タ困難ヲ減少スルニ足ラサ
ルナリ氏カ言ニ曰ク假シ議院ノ爲メニ其措置ヲ尋問セラ
ル、ニ當テ執政官ノ保持ヲ受クルチ得サラシメハ將帥ハ

軍戎ノ將帥

甚ク不安ノ地ニ立ツ者ト謂フヘシ然レモ將帥タル者若シ其職務上ノ施爲ヲ執政官ニ通知シ執政官ヲシテ其維護ニ勝ヘサル所ノ措置ハ能ク之ヲ制シ若クハ之ヲ禁スルヲ得セシムルニ非スンハ決シテ執政官ノ保持ヲ望ムコトヲ得サルナリト千八百五十四年ヨリ翌年ニ彌レル露西亞戰爭ノ初ニ方テ我軍ニ過失多カリシハ以テ十分ニ國家ノ安寧ニ對シテ斯ク重要ナル軍政執行ノ責任ヲシテ益々直接ナラシメ又一手ニ統合セシムルコトノ必要ヲ明示セリ議院ハク

リミア戰爭ノ執行法ヲ檢察シテ大ニ軍政ヲ改革シ下院ヲシテ新法ニ因テ執行セラル、軍務部ノ事務ヲ監視セシメタルニ忽チ著大ノ効驗ヲ見ハセリ

執政官カ軍戎統御ニ對シテ負擔スル所ノ責任ハ既ニ確立

是ノ特權ニ關スル議院ノ管理

シテ復タ爭フヘカラサルニ至リタレハ其議院ニ向テ之カ責ヲ負フコト固ヨリナリ然リト雖モ陸海軍ノ指揮ハ行政權ニ附帶スル一種ノ特許ナリ強力ナリ全ク王政ヲ覆滅スルニ非スンハ之ヲ議院ニ讓與ス可サル者ナリ故ニ議院ハ是ノ特權ノ使用ヲ點檢スルニ方テ極メテ戒慎ヲ加ヘサル可ラス然ラスンハ憲法上ノ點檢輔佐ノ限界ヲ超越シテ行政權上ノ職務ヲ侵犯ス可レハナリ憲法上是ノ特權ノ濫用ヲ保障スル所以ノ者ニアリ執政官ノ責任ヲ負擔スル一ナリ

曰ク年々經費配當令ト軍防令トノ議定ヲ得ルニ非スンハ海陸軍ヲ存續スル能ハサルニナリ

武官若クハ行政部ニ權力濫用ノ事アル毎ニ尋問、論争、及ヒ譴責ヲ以テ之ニ干渉スルハ議院ノ權理ナリ女王ノ敵ヲ討

スルコ方テ我ガ軍ニ不幸アレハ議院ハ其原由及ヒ成迹ヲ
 尋問スルノ權理ヲ有ス議院ハ亦陸海軍ノ康安其内部ノ財
 計及ヒ勢力等ニ關スル疑問ヲ討議シ忠告スルノ權理ヲ有
 ス但シ是ノ權理ハ最モ戒慎持重シテ使用スヘキ者ナリ
 至尊ヲ己ノ旨ニ隨テ陸海軍ノ士官ヲ貶左シ若クハ罷免
 シ而シテ事宜ニ因レハ其理由ヲ告ケサルモ可ナルノ權力
 ナ有セシムルハ軍國ニ必要欠ク可ラサルナリ是ノ權力
 ハ毎ニ責任執政官ノ手ニ由テ之ヲ使用シ若シ十分ノ理由
 ナク妄ニ使用セシノ形迹アレハ執政官其責ヲ負フ者トス
 上下議院ニシテ或ヒハ陸海軍ノ整理指揮ニ影響スル事ニ
 干涉シ或ヒハ某ノ士官ノ登庸ニ影響スル所ノ原由ヲ窮狀
 シ或ヒハ某ノ人ニ對スル所ノ賞若シクハ刑ノ施行ヲ窮狀

議院ヨリノ調
 査管理

シ或ヒハ軍律法院ノ判決及ヒ是ニ關係セル陸海軍執政者
 ノ行爲ヲ檢按スル如キハ皆是レ權力操執ノ極メテ危險ナ
 ル者ナリ議院ハ斯ル權力ヲ使用セサル可シトス但シ不正
 非議ノ意趣行爲ノ明ニ効斥ス可キ者アルハ此限ニ非ラ
 ス將々兩院ハ政府ノ特ニ之ヲ求ムルアルニ非スマハ決シ
 テ陸海軍ノ使用ニ供ス可キ最モ適當且ツ銳利ナル武器ヲ
 調査スルノ權利ヲ探持ス可ラス
 議院ハ陸海軍ノ計算ニ就テ慎重ニシテ明達ノ論議ヲ爲ス
 ヲ得シカ爲メニ戎事ニ關スル完全ノ報告ヲ徵求スルノ
 權理アリ然レモ是ノ權理ヲ推シテ軍政ノ細事ニ不當ノ干
 渉ヲ及ホス可キニ非ラス之ヲ例スルニ或ハ陸海軍士官ニ
 贈リタル訓示ハ士官其事ヲ終ユル迄ハ之ヲ公ニスルヲ禁

之ヲ終ルモ猶ホ公ニセサルヲ多シ或ヒハ叛逆若クハ戰
 争ニ關スル文書ハ平和ヲ復スルマテハ之ヲ發露スルヲ禁
 シ或ヒハ政府ノ特ニ之ヲ容スニ非レハ殖民地ノ武官ヨリ
 シテ本國軍務執政者ニ送贈セル報告ヲ公ニスルヲ禁シ或
 ハ軍人ニ顯榮ヲ頒與スル所ノ方法ヲ漏スヲ禁スルカ如キ
 ハ皆是レ最良ノ理據アリテ制定セル不易ノ法規ナリ
 時アリテ陸海軍内部ノ財計ニ關スル事物ニ就テ詳細ノ調
 査ヲ爲スヲ要セハ前輩ノ精論セル如ク必ス先ツ至尊ニ命
 シタル事務掛ヲシテ之ヲ調査報告セシメ然ル後テ此報告
 ナ下院ノ求ムル所ノ或ル目的ヲ達スルカ爲メニ下院ニ通
 セサル可ラス下院ハ此ノ如キノ調査ヲ爲ス可キ職權ナキ
 ナリ然レモ議院ハ斯ル目的ノ爲メニ事務掛ヲ任命セラレ

是ノ項ニ於ケ
 ル執政官ノ説
 明

ンヲ至尊ニ奏請スルヲ得可シ
 執政官ハ往々動議ヲ利用シテ陸海軍ノ措置ヲ連結セル事
 項ニ關スル王權使用ノ情狀ヲ議院ニ説明スルノ機會ニ供
 ス例ハ千八百六十一年六月七日供度委員會ヲ開クノ動議
 アルニ方リ下院ハ近日大佐職ニ就ケル一士官ヲ視テ斯ル
 顯職ニ登用セラル可キ者ニ非スト倣シ爲メニ議論ヲ生シ
 タルニ軍務大輔ハ乃チ拜任ノ情狀ヲ説明シテ其正經ナル
 所以ヲ論辨セリ少許ノ議論後動議ハ終ニ消滅ス又千八百
 六十二年六月五日下院中政府ハ何故ニ女王ノ制規ニ背テ
 某士官ヲシテ半俸ヲ受ケテ退職セシメタルヤヲ尋問スル
 者アリシニ執政官ハ之ニ答辨シテ凡ソ變例ノ事起ルキハ
 至尊ハ必スシモ其定メタル制規ヲ遵守セサル可ラサルノ

理由アルニ非ラス且ツ此ノ如キ場合ニ於テハ軍務尙書議院ニ對シテ其責任ヲ負擔スト云ヘリ又千八百六十三年四月三十日上院ハ海軍卿ニ向テ海軍調査局ノ處置ニ關スル事項ヲ質問シ之カ爲メ議論ヲ生シテ終ニ御艦グザラント號ノ艦將ロード、エルフストーンノ職務怠慢ヲ譴責スルニ至レリ五月十九日下院モ亦是ノ件ニ就テ全様ノ議論ヲ起セリ

議院調査ノ先例

今ヤ既ニ王權ノ此條項ニ關スル兩議院ノ權理ヲ記述シタレハ左ニ數項ノ先例ヲ掲テ之カ説明ト爲ス可シ
ケンペンフェルトドット征討ノ其功ヲ奏セサルヤ千七百八十二年兩議院ハ其原由ヲ論議セリ一月廿二日フックスノ動議ニ由リ執政官ノ同意ヲ得テ是ノ戰爭中特ニ前年中

海軍會議局ノ施爲

海軍ノ奏功セサリシ原由ヲ調査スヘキ全會委員ヲ命シタリ委員ハ諸般ノ文書ヲ檢閲セシ後チ二月七日フックス動議ヲ發シテ曰ク本委員ハ千七百八十一年ノ海軍ノ施爲ニ甚ダシキ失計アルヲ見ルト是レ直チニ海軍卿サソドウツチチ侯ヲ譴責セル者ニシテ下院ハ次テ侯ノ退職ヲ促ス可キ奏議ヲ提出スルノ意ナリシモ動議終ニ否決セラレタリ二月廿日下院ハ再ヒ之ヲ提出シテ而モ再ヒ廢棄セラレ

千七百八十八年海軍會議局ノ其意見ヲ以テ登庸ニ適セスト斷信セル同僚ヲ超ヘテ某佐官ヲ將官ニ拔擢スルヤ上院ハ二月廿五日ヲ以テ右放置セラレタル佐官ノ爲メニ奏議ヲ上テ其登庸ヲ請フ可シトノ動議ヲ發セリ執政

官之ヲ駁スルノ言ニ曰ク議院ハ海軍卿ニ應分ノ信憑ヲ置キ之ヲシテ議院ノ干涉ノ爲メニ苦メラル、トナク其地位ニ屬スル所ノ取捨權ヲ使用セシメサル可ラス責任既ニ海軍卿ト會議局トニ在レハ取捨權モ亦此ニ存セサル可ラス制規ニ依テ行政部ノ責任吏員ニ不信若クハ不當ノ行アルトシテ訟難スル者アレハ輒テ議院ハ之カ調査ヲ命スルノ權理ヲ有シ又實蹟ノ證左ニ據リ陛下ニ向テ失行アル執政官ヲ遷移セラレントテ奏請スルノ權理ヲ有ス是レ憲法上ノ權力ニシテ又其至要至健ナル特許中ノ一ナリ然レモ是レ議院カ自ラ行政府ノ職務ヲ操執スルトハ大ニ逕庭アリ決シテ混同ス可ラスト動議者ハ余固ヨリ他ノ特權ニ干涉スルノ意アルニ非ス此ノ如キハ

余モ亦大ニ之ヲ不可失當トス、余ハ唯タ功勞アル士官ヲ放置セリト認ムルカ故此動議ヲ起セリトノ言ヲ以テ其說ヲ維持シタレモ動議ハ否決セラル翌日ハスタードハ下院ニ於テ會テ其勇武ナル行爲ニ由リ議院ノ謝詞ヲ受ケタル二名ノ佐官バルフオール、ダムソンニ陛下寵顧ノ証章ヲ賜ハレントテ奏請ス可シト云ヘル動議ヲ起セリ執政官ハ之ヲ駁シテ曰ク是レ至尊カ常ニ其責任執政官ノ手ヲ經テ使用セル海軍士官進退褒貶ノ權ヲ陛下ヨリ移シテ責任ヲ負ハス管理ヲ受ケスシテ使用スルヲ得ル所ノ下院ニ委テント欲スル者ナリ此ノ如キ篡奪ハ公衆ノ自由ト我カ自由制度トテ殘害スル者ナリ何トナレハ斯ノ憲法ハ人民ノ代議士カ行政權ヲ操執スルノ時ニ崩

解スト言ヘルヨリ明白ナル至理ナケレハナリト下院ノ
意見ハ之ニ反對セルヲ明カナリシカ故勳議者自ラ其説
ヲ引ケリ然ルニ四月十八日ニ至リバスタードハ勳議形
貌ヲ一變シテ委員ヲ設ケテ前キノ將官登庸ニ關スル海
軍ノ行爲ヲ調査セシム可キ旨ヲ發議ス大宰相ビット曰ク
諸官局中其權力ヲ誤用セル者アリト疑フニ足ル可キ充
分ノ理由アレハ下院ハ何時ニテモ譴責若クハ懲罰ノ目
的ヲ以テ其所爲ヲ調査スルヲ得可キ憲法上ノ權理ヲ有
スルヲ疑フ容レスト雖モ今日ノ事ハ未ダ以テ調査ノ理
由ト爲スニ足ラストフックスハ議院憲法上ノ地位ニ關
セル是ノ意見ヲ贊成シ且ツ明言シテ曰ク軍戎ノ顯榮及
ヒ賞褒ノ頒與ニ關スル特權ヲ尊重スルヲ世間恐クハ余

ニ如ク者ナカル可シ又下院ヲ以テ武官ノ登庸ヲ論議ス
可キ所ニ非ルヲ信スルヲ世間恐クハ余ヨリ深キ者ナカ
ル可シ勳議ノ旨趣ヲシテ若シ至尊ニ奏表スルニ在ラシ
メハ余固ヨリ之ヲ贊成セサルナリ然レヒ其旨趣ハ奏表
ニ在ラスシテ海軍省ノ權力誤用ヲ調査スルニ在リ而シ
テ海軍卿ニ偏頗抑制ノ行爲アリシヲ疑フ可キ十分ノ
理ハ余モ之ヲ認メタリ故ニ余ハ之ヲ贊成セサルヲ得ス
ト勳議ハ遂ニ否決セラルト雖トモバスタードハ尙ホ屈
セシテ持論ヲ固執シ四月二十九日決議案ヲ發シテ云
フ主旗士官ヲ登庸スルニ當リ其登庸ヲ拒メル陛下ノ命
令アルニ非スシテ著シキ功勞善行アル者ヲ舍ツルハ甚
ク大英國ノ海軍ニ有害ナリト該勳議者ハ其主意下院ヲ

ウアルチエレン
遠征

シテ海軍士官ノ案内保護ト爲ル可キ法規ヲ設ケ以テ專横恣意ノ登庸ヲ防禁セシムルニ在リト明言セリ下院ハ是ノ動議ヲ以テ妄ニ海軍會議會ノ取捨ヲ羈束シ又海軍卿ヲ譴責セント欲スル者ト爲シ終ニ之ヲ否決ス是ニ於テ余輩ノ舉クル所ノ先例ハ英國史上甚々著明ナル者ニシテ即チ千八百九年ノ不幸ナルウアルチエレン遠征ナリ是遠征ハ一ハナボレオンヲシテ左ラスタニ澳大利ノ對抗スル能ハサルダニユーブノ兵ヲ増援セシメサランカ爲メ一ハ日ニ益々英國ノ安固ヲ危フセントスル所ノステエルドットナル佛國海軍ヲ襲撃セシメンカ爲メニ出セシ者ナリ内閣執政官ロード、チャタムヲシテ之ヲ總督セシムフラッソングノ修船場武庫ヲ擊破シテ稍々功ヲ奏スト雖モ

之ヲウアルチエレン島占據ノ不幸ニ比スレハ利害固ヨリ相ヒ償フ能ハサリキ該島ハ風土極メテ不健康ナリシカ故兵士ノ疾病ニ罹レル者甚々多ク終ニ中途ニシテ之ヲ捨テ殘兵ヲ率ヒテ本國ニ還ルノ止ム可ラサルニ至レリ翌年場ヲ開クヤ兩院ハ至尊ノ演說ニ奉答スヘキ奏表ヲ議スルニ方リ之カ修正說トシテ決議案ヲ提出シ前年ノ遠征ニ就テ執政官ヲ譴責セントセリ時ニ執政官ハ豫メ尋問ヲ受ケスシテ罪責セラル可キ者ニ非ストノ說出テ、動議ハ否決セラル然ルニ千八百十年一月廿六日ロード、ポーチエスターハ下院ニ於テ向キノステルトッド遠征ノ謀畧指揮ヲ調査センカ爲メニ全會ノ委員ヲ命ス可シト發議セリ執政官ハ是ニ關スル書類ノ議院ニ回附セラル、

迄ハ調査ニ着手ス可ラサル旨ヲ争フト雖モ下院ハ毫モ猶豫ヲ容レヌ九人ノ多數ヲ以テ動議ヲ下決ス後チ幾何モナク政府ハ此遠征ニ關スル文書ヲ回附シタルカ故下院ハ証據人ヲ審問シテ百方調査ヲ遂ク三月廿六日ロイド、ポーチエスターハ證左中ノ重要ナル事實ヲ陳述シ「征師ノ失計ヨリ起レル巨大ノ災害ハ下院ノ嚴ニ譴責セサル可ラサルニシテ執政官其責ニ任セサル可ラス」トノ決議案ヲ提出ス之ヲ討議スルコト久クシテ終ニ否決シセテラ
 ル、クラウフアードノ發シタル反對ノ決議案ハ二十三票ヨリ五十一票ノ多數ヲ以テ可決セラル、是レ意外ノ結果ニシテ其原因蓋シ討議中執政官ノ發論セル者甚タ多キニ在リト云フ

軍中ノ秘密結社

千八百三十五年八月四日ヒモームハ下院ニ訟難スルニ陸軍大將カムベルランド殿下ハ總督ノ公令ニ反シテ軍中「オレンヂ」會ヲ設立スルノ事ニ與カレル旨ヲ以テ又是コ於テ下院ハ之ニ關スル決議案ヲ通過シ且ツ陛下ノ省慮ヲ請ハンカ爲メ奏表ヲ上ルノ議ヲ決セリ國王之ニ答テ云ク軍中ニ秘密結社ヲ導入セントスル企圖ヲ制止スル爲メニ朕ハ最モ効力アル可キ方法ヲ用ウヘシト内務卿ロイド、ジョン、ラッセルモ亦下院ニ報告シテ云フ余ハ奏表ト御答ノ寫トヲカムベルランド殿下ニ通知シタルニ殿下ハ大英國及ヒ愛蘭ニ於ケル「オレンヂ」會ヲ直チニ解散ス可キ方法ニ着手セリト保言シタリト

千八百三十六年三月三日「サー、ウヰリアム、モールスウナル

指令長官ノ行

爲

ス「ハロード、ブルード」子ルテ第十一龍驤隊ノ佐官ニ任シタルヲニ就キ委員ヲ命ジテ指令長官ノ行爲ヲ調査セシメンコトヲ發議セリ
 ロード、ブルード子ルハ今ヲ去ルコト二年
 前、人ヲ軍律法廷ニ告訴シテ却テ該法廷ノ譴責ヲ被レルノ故ヲ以テ聯隊ノ指揮職ヲ褫ハレシカ如シ、斯ル情狀アレハ之ヲ全一ノ地位ニ再任スルハ不當ナリト考ヘラレシナリ
 執政官之ニ答テ曰ク氏カ既往ノ行爲ハ充分ニ之ヲ懲罰シタレハ氏ヲ再任スル毫モ不可ナル所ナシ是レ指令長官ノ行爲ヲ失當トス可キ理由ナキナリ
 既ニ此理由ナクシテハ議院ノ之カ爲メニ調査委員ヲ任命ス可キ理由モ亦アルコトヲ得スト
 又曰ク此貴人ノ再任ハ事ノ規律ニ關スル者ニシテ官爵賜與ノ部類ニ入ル可キ者ニ非ラ

シリミヤ遠征

ス下院ノ斯ル行爲ニ干涉スルハ不正ニシテ先例ノナキ所ナリト尙ホ多少ノ議論アリシ後テ動議ハ引去セラル
 千八百五十四年魯西亞ト戰ヲ開キレ初ニ當テシリミヤナル英國遠征軍ノ受ケタル不幸ノ巨大ナリシヤ議院ハ翌年ノ會期ニ於テ嚴密ニ陸軍ノ形勢ト戰爭ノ執行法トニ注意シ兩院皆激切ノ議論ヲ起スニ至レリ
 千八百五十五年一月廿六日ローバツクハ下院ニ於テ委員ヲ命ジテセバストポールノ役以前ノ我カ陸軍ノ形勢ト政府中其實用ヲ辨スルノ職ニ當レル部局ノ所爲トヲ調査セシム可シト發議セリ
 此ノ動議ハ甚タ激烈ノ性質ヲ帶ヒ戰爭ノ執行ニ關シテ政府ヲ譴責セント欲スル者ト雖モ尙ホ正シク憲法上爲スコトヲ得可キ調査ノ區域内ニ在ル者ナ

リ討議ノ起ルニ先チ内閣議長兼下院ノ首領タルロイド、
 シヨン、ラツセルハ此調査説ニ抗拒スル能ハサルノ故ヲ
 以テ其辭職ヲ告ケタリ其言ニ曰ク糺問權ハ議院ノ特權
 中最モ重要ナル者ノ一ナリ議院若シ此特權ニ因テ調査
 ノ動議ヲ起ス時ハ之ニ反對スルノ道唯タニアルノミ現
 在ノ患害僅少ニシテ調査スルニ足ラサルト政府既ニ其
 救治法ヲ施セルト是レナリ余ハ今マ此二者中何レヲモ
 主張スル能ハサルカ故斷然辭職ニ決心セリト是ノ説明
 畢リテ討議起ルヤ執政官之ヲ駁シテ曰ク此レ尋常調査
 ノ境域ヲ越ユル者ニシテ遠征ノ管理權ヲ政府ノ手中ヨ
 リ奪ハントスル憲法違背ノ企ナリ斯ル調査委員ヲ設置
 セハ其公利ヲ害スル少小ナラス國家危急ノ日ニ當リ内

外ニ於テ行政部ノ動作ヲ沮ムヘシト政府ハ斯ク斷乎ト
 シテ之ニ反對セシカ故此議ハ遂ニ信任欠乏ノ意趣ヲ蓄
 有スル者ト爲レリ故ニ下院ノ大多數ヲ以テ之ヲ可決ス
 ルニ及ンテ執政官ハ皆直チニ辭職シロイド、パーメルス
 トン大宰相ト爲テ新ニ内閣ヲ組成ス氏ハ前内閣則チロ
 イド、アベルギーン執政ノ時内務卿ノ位ヲ占メタル者ニ
 シテ嚮キニ調査委員設置ノ動議ニ反抗シタル意見ハ尙
 ホ之ヲ保持セリ氏下院ニ告テ曰ク新任行政部ハ充分職
 チ執行スルカ爲メニ必要ナル施政上ノ改良ヲ施ス可レ
 ハ下院ハ宜シク前説ヲ捨テ、執政官ヲ信任ス可シト然
 ルニ下院ハ既ニ委員會ヲ命スルニ一決セルニ由リ調査
 チ廢スルヲ欲セスロイド、パーメルストンモ終ニ止ム

ヲ得ス之ヲ諾シ當初ノ權限目的ヲ牽制セスシテ委員ヲ指名セシメタリ該委員ハ第一ノ報告ヲ以テ秘密委員ト爲サレシメテ請求シタレトモ之ヲ贊成スル者少フシテ下院ノ允許ヲ得サリキ多日ニ互レル調査後委員ハ諸種ノ報告ヲ呈シテ戰爭執行ニ關スル内外執權者ノ悲ム可キ失計ヲ發露シ又軍制改良ノ爲メ諸種ノ意見ヲ述ヘタリ千八百五十五年七月十七日ローバックハ委員ノ報告ニ據リ決議按テ提出シテ云ク下院ハ深ク我軍カクリミヤ冬陳ノ間ニ親嘗セル辛苦ヲ哀ミ且ツ我軍ニ生シタル災厄ノ大原因ハ内閣ノ施措ニ在リト云ヘル委員ノ判斷ニ同意ス故ニ下院ハ嚴ニ斯ク不幸ナル結果ヲ來セル内閣諸員ヲ譴責ス可シト政府ハ諸般ノ理由ヲ擧テ此動議ヲ駁

撃セリ曰ク下院ハ正シククリミヤ遠征師ヲ判斷スヘキ方法ヲ有セス曰ク此戰爭ハ我同盟タル佛國皇帝ト共ニ執行セル者ナルカ故單ニ本邦ノ事態ノミヲ以テ其可否ヲ議ス可キニ非ス然ルニ委員ノ調査セル所ハ唯タ其一端ニ局シテ廣ク外交上ノ政策ニ涉ラス故ニ其判斷ハ茫漠ニシテ且ツ不充分ナラサルヲ得ス曰ク現任執政官ハ其就職前ニ生シ而モ既ニ頗ル之ヲ救回セル災厄ノ責任ヲ負フ可キ者ニ非ストホワイト、サイドハ之ニ答テ曰ク執政官責任ノ大經ヲ按スルニロード、パーメルストンハ曾テロード、アベルザーンノ政府ニ在リ且ツ近者内閣ノ變更後此調査ヲ諾シタルハ尙ホ既往ノ措置ニ對シテ責任ヲ負擔ス氏ハ又此ノ如キ失計ニ關係アリト指言スル

一ヲ得ル所ノ前政府ノ諸員今マ執政官ノ位ニ居ラサル者ト俱ニ免職ノ罪ヲ受ク可キ者ナリトロロイド、パーメル、ストンノ地位ニ關スル其意見ハロロイド、ジョン、ラッセル、檢事長サー、ジョー、グレイ等ノ爲メニ反抗セラレタリ其說ニ云ク訟難セラレタル行爲ノ責任ハロロイド、アベルグーンノ内閣ニ在リ而シテ此内閣ハ既ニ下院ノ罪狀ヲ被テ其職ヲ退ケリ今ヤロロイド、パーメル、ストンハ全ク舊政府ト關係ナキ新内閣ノ首領タリ決シテ之ニ負ハシムルニ前人ノ行爲ニ責任ヲ以テスルヲ得スト氏又曰ク内閣員中重要ノ點ニ於テ獨リ異義ヲ抱ク者ハマカウレノ說ノ如ク其職ヲ退カサル可ラス苟モ在職スル以上ハ其反對セル内閣ノ措置ト雖モ尙ホ之カ責ニ任セサルヲ得ス

是レ執政官責任法ノ大理ニシテ其境界蓋シ是ニ止マル其會テ之レニ居レルノ故ヲ以テ内閣ノ首領ニ前任内閣ノ行爲ノ罪ヲ歸スルハ正當ナラサルニ似タリト下院ハ是ノ說ニ同意シ議論兩夜ニ彌レル後遂ニ決議案ヲ否決ス虛心平氣ニシテ之ヲ考察スルニ下院ノ決議ノ允當ニシテロロイド、アベルグーン内閣ノ責任ハ其強迫退職ノ日ニ畢ハレル者ナルヲ明クシ議院若シ其措施ヲ點檢シテ格段ナル内閣員ヲ深責スルヲ可トセハ宜シク之ヲ議院ニ彈劾シ若クハ奏表ヲ上テ其罪狀ヲ擧ク可シ執政官責任法ヲ移シテ新内閣ノ一員ニ適用シ以テ其既往ノ行爲ヲ責メント欲セルハ不可ナリ

千八百六十年七月廿四日サージョン、パンキントンハ下院

ニ於テ海軍ノ黜陟褒貶ニ關スル現行法及ヒ海軍士官ノ俸給位他ヲ考究スル爲メ勅命事務掛ヲ任セラレシトシテ陛下ニ奏請セント發議セリ政府此動議ヲ駁シテ云ク假シ弊害アラシメハ其改良ヲ責任官局タル海軍會議局ニ委ヌ可シ是レ無責任ナル事務掛ヲ命シテ其建言ニ實行ス可ラサルノ空望ヲ屬セシメ却テ海軍ノ不安ヲ致スニ優ルヲ遠シト動議終ニ否決セラル是ヨリ先キ六月十二日將官ダンマンムハ海軍會議局ノ章程職制ヲ調査スヘキ選抜委員會ヲ命センコトヲ發議ス政府之ニ反對セルカ故動議者ハ次ノ會期ニ於テ再ヒ之ヲ提出セント欲スル旨ヲ公言シ自ラ其說ヲ引ケリ千八百六十一年三月一日再ヒ該動議ヲ提出ス是ヨリ先キ二月廿八日決議案ヲ出シテ

海軍ノ黜陟褒
貶

サ、シ、エルフ、スト、ノ發言セル海軍政ノ改正ト海軍會議局ノ章程更新トヲ贊成シ爲メニ議論ヲ生セリト雖モ幾クモナクシテ廢棄セラル政府ハ此疑問ニ關シ下院ヲ調和セント欲スルノ餘遂ニ海軍會議局ニ係ル委員ヲ命スルニ同意セント決心ス是レ政府ハ調査委員ノ能ク會議局組織ニ一大變革ヲ加フルノ必要ヲ證明シ得可シト期セルカ故ニ非ス議院ヲシテ自ラ其過ヲ悟ラシメ又該部局ニ關シテハ衆多ノ謬解アリテ存スルコトヲ證明セシメント欲セルカ爲メノミ故ニ政府ハ力ヲ委員ニ添ヘテ海軍ノ細目小件ニ至ル迄悉ク之ヲ調査セシメシ、期シ、議院ヲシテ委員ヲ任命セシム後十四日サ、シ、エルフ、スト、ノハ委員ヲ命シテ海軍ノ黜陟褒貶

及ヒ海軍士官ノ俸給位地等ヲ考究セシメ、ノヲ發言セリ、政府ハ之ニ反抗セシト雖モ、動議ハ小多數ヲ以テ可決セラル、然ルニ後チ一週日、大宰相ロイド、パーメル、ストーンノ發議ニ因テ下院ハ舉テ海軍俸給ノ疑問ヲ選抜委員ニ付スルヲ不可トシ、前ノ決議中俸給ノ一項ヲ取消セリ、調査ス可キ他ノ事項ニ就テハロイド、パーメル、ストーン復タ發議シテ云フ宜シク海軍會議局ニ係ル委員ニ訓示シテ海軍黜陟褒貶ノ現行制置ヲ考究セシメ其意見ヲ被告セシム可シト、此說亦可決セラル、該委員ハ數多クノ證左ヲ點檢セル後チ是ニ其說ヲ付セスシテ單ニ事實ノミヲ被告セリ、次會ニ於テハ一人ノ委員再命ノ動議ヲ起セル者ナシ、蓋シ海軍事務ノ處措法ハ頗ル前二年間ニ進歩シ復

タ議院ノ干涉ヲ要スルカ如キ巨弊大害ヲ遺サストノ感想益々長セシニ由ルナリ、千八百六十三年六月九日ニ至テ委員再命ノ動議ヲ起セル者アリシカ政府ノ反抗スル所ト爲リ、全月廿四日ヲ以テ廢棄セラル、又タ千八百六十三年二月廿四日サー、ジョン、ヘーハ黜陟褒貶ノ点ヨリ海軍士官ノ品位ニ就テ奏議ヲ上ル可キ旨ヲ發議シテ、現行法ヲ不可ナリト明言シ又據テ以テ是ヲ改良スヘキ主義ヲ條陳セリ、ロイド、パーメル、ストーンハ之ニ反抗シテ云フ此下院カ其本分ノ職任ヲ尊重スルト兩立ス可ラサル舉動ナリ、何トナレハ下院自ラ己レニ行政事務ヲ探執スルハ下院ノ爲メニ甚ク危險ナル行爲ナレハナリ、公費ノ一分部ニ増加ヲ生ス可キ事ヲ至尊ニ奏上スルハ下院ノ爲メ

ニ亦タ甚タ不利ナレハナリ抑モ適宜ノ時機ヲ計テ、公務ニ必要ナリト認定スル所ノ増出ヲ公費ニ加フルコトヲ議院ニ申述スルハ、行政府ノ事ニシテ其本分ノ責任ナリ、下院ハ唯タ當サニ其好ム所ニ從テ之ヲ容用シ若クハ拒斥スヘキノミト氏亦該議ニ對スル修正説トシテ意見ヲ述ヘテ曰ク下院ハ既ニ千八百六十一年三月十三日ヲ以テ海軍ノ黜陞進退ノ現制度ヲ考究セシメ、ソノカ爲メニ選抜委員ヲ命シタリ、故ニ其該題ヲ考究録聞スル迄ハ之カ可否ヲ斷スルヲ猶豫セサル可ラストロイド、ジョン、ヘーモ此説ニ同意シ修正説可決セラル、千八百六十一年六月十一日下院中一動議ヲ提出スル者アリテ云フクリミヤノ役ニ際シテ顯功アリシカ爲メ登職セル所ノ某大佐等

聯隊中ノ陞進

ハ聯隊中陞進ノ詮議ニ泄レタリ故ニ該大佐等顯功ノ光榮ハ實ニ殘壞セラレタリ請フ之ヲ女王ニ奏上シテ省慮ヲ仰カント、政府ハ自ラ此等ノ士官ハ過チテ之ヲ泄セシ者ナルヲ容認シ是ヲ考究ス可キ敕命事務掛ヲ命センコトヲ諾シテ動議可決セラル、事務掛ハ調査ノ後チ此等ノ士官ヲ以テ陞進セシム可キ限ニ非スト報告シ政府ハ之ニ因テ益々其措置ノ誤ラサルヲ知レリ然レモ下院中尙ホ之ニ關スル質問ヲ爲ス者アリ動議ヲ起ス者アリテ長ク政府ノ注意ヲ惹ケリ千八百六十三年四月二十八日ニ至リ動議出テ、是ノ事ヲ深ク調査セン爲メ敕命事務掛ヲ起スコト至尊ニ奏請セント云ヘリロイド、パーメルストンハ大ニ下院ノ軍戎ノ細務ニ干涉スルヲ不可トシ以爲

ラク是レ決シテ憲法上、下院ノ本職ニ關セサル者ニシテ且ツ當サニ艱難ノ結果ヲ來スヘキナリト然レモ又約スラク動議者自ラ其說ヲ引キナハ政府ハ事務掛ヲ設置スヘシデスレリハ動議ヲ護持シテ謂フ是レ正ニ允當ナルモノナリ又タ決ノ軍政ニ干涉スルハ下院ノ事ニ非スト云フ所ノ明白ナル憲法ノ施行ニ害アラサル者ナリ何トナレハ今日ノ事ハ唯タニ至尊ニ奏請スル者ナレハナリト然レモ動議者ハ大宰相ノ約ヲ信シテ其說ヲ引ケリ千八百六十三年五月十五日聯隊部長ノ地位ニ關セル文書ヲ徵スルノ動議ハ差ヤ軍戎整理ト連結セリト雖モ亦タ其中毎子ニ必ス會計ノ目ヲ存スレハ下院ノ考案ニ適當セル者ト認承セラルル千八百六十四年六月廿一日聯隊

部長

良民騎兵

部長ノ地位俸給等ヲ調査スルヲ請フノ奏議ハ政府ノ諾ヲ以テ下院ノ可決スル所ト爲レリ
 千八百六十二年三月三日下院中決議案ヲ提出スル者云フ今年間良民騎兵ノ恒例操練ヲ停廢スルハ不利ナリ必ス兵力ノ効ニ害アラソト公言ス可シト時ニ軍務大輔論シテ曰ク政府ハ軍用ヲ節約スル爲メ已ムヲ得ス此ヲ爲セリ然レモ政府ハ決シテ此ヲ以テ兵力ノ効ヲ實損スルノ事アルヲ思ハスト一人ノ多數ニ由テ動議ハ否決セラレ後チ政府ハニュー、ジールランドノ役ニ關スル費用ノ望外ニ少ナカリシヲ以テ乃チ良民操練ヲ爲スノ議ヲ下院ニ提出シ最多數ノ賛成ヲ得タリ
 千八百六十五年五月二日一議員ハ向キノ東印度商會ニ

印度軍ノ士官

仕へタル某士官ノ請願ニ下院ノ留意セシメテ發議ス該請願ハ政府信ヲ破テ其兵ヲ節シ之ヲ女王ノ親軍ト混一セルヲ懇フル者ナリ此等ノ士官ニ關スル事項ハ既ニ議院ノ討論ヲ經テ調査委員ヲ命スルノ動議アリ政府ハ爲メニ勅命事務掛ヲ命スルヲ諾シ事務掛ハ士官等ノ以テ疾苦トスル所ヲ報告シ而シテ政府ハ其報告セル疾苦ヲ救醫セシメテ圖レリ然ルニ訟難ノ事項ニ係ル救醫法ハ人多ク以テ偏頗シテ粗漏ナリト爲セリ是レ奏議ヲ上テ議院ノ議定條款ニ違フヨリ起リ而モ事務掛ノ現存スト認承セル疾苦ハ悉ク之ヲ救回セラレシメテ請ハシトノ説出テ執政官ニ反對シテ通過セラレタル所以ナリ印度部國部尙書ハ之ニ抗論シテ印度軍ノ地位ハ已ニ政府

ノ處置ニ由テ著シク利便ヲ得タル旨ヲ演ヘタレモ其効ナカリキ五月九日陛下ハ奏議ニ御答ヲ賜フテ曰ク其必要ナル所ニハ充分救回ヲ加ヘンカ爲メ有司ニ命シテ一層精密ニ該事項ヲ調査セシム可シト五月十五日ボンベ一聯隊士官ノ請願書ヲ得ルニ及ンテ上院モ亦印度軍士官ノ事ヲ詳議セリ時ニ軍務部國務尙書語テ云フ下議院説ニ從ヒ政府ハ新タニ委員ヲ命シテ前任委員ノ指摘セル疾苦ハ皆已ニ之ヲ除ケルヤ否ヤヲ調査セント欲スト六月廿九日下院ハ新委員命セラレテ既ニ其事ニ着手シタル旨ノ報告ヲ受ク千八百六十五年九月十四日ノ日附アル該委員ノ報告ハ次回ノ會期ニ於テ議院ニ下附セラレタリ千八百六十六年八月六日印度部國務尙書ロイド、

支那駐軍ノ死

グラフボールンハ印度地方軍士官ノ久シク忍受セシ所ノ疾苦ヲ救ハンカ爲メニ決定セルデルビー内閣ノ意見ヲ下院ニ報告ス此意見ハ後チ之ヲ千八百六十六年八月八日ノ日附ヲ以テ國務尙書ヨリ印度政府ニ發スル二通ノ公文中ニ編入セリ

千八百六十六年三月二十日政府ノ同意ヲ以テ下院ハ選抜委員ヲ命ジ支那駐軍ノ死亡之ヲ致スノ原由及ヒ政府中此等ノ用度ヲ支辯スルノ任ニ當レル部局ノ所爲等ヲ調査セシム此レ決シテ政黨ノ議論ト爲ル可キ者ニ非ラズシテ或ル不幸ノ事變ヨリ起レル者トス軍務大輔ハ是ノ事變ニ就テ語テ云フ政府ハ自ラ其責任ニ當ルヲ辭セスト雖ヒ委員ナシテ之ヲ調査セシムルノ賢レルニ如

軍律

カスト該委員ハ七月二十四日ヲ以テ調査セル事實ト之ニ關スル意見トヲ報告セリ委員ノ歸着セル意見ノ要旨ハ其陣營狹隘ニシテ且ツ病院甚下完全ナリシカ爲メ疾病死亡極メテ多カリシト言フニ在リ委員ハ能ク此等不幸ノ事變ニ關シ軍務部ノ冤訴ヲ雪ケリ然レヒ又其信スル所ノ訓示ニシテ若シ指麾ノ將帥ノ職權ヲ限抑セス却テ之ヲ増加セハ可ナリシニ似タリト

軍戎之法ハ議院ノ威權ニ因リ年々議定スル所ノ對捍令軍戎條例ヲ以テ之ヲ施行ス然レヒ非常ノ際ニ當テ君主別ニ軍律ヲ設クルコアリ是レ亦王權ノ一部ニシテ軍戎之法ト混同ス可キニ非ラス

外寇内變ノ時ニ際シテ平常ノ威權以テ騷擾ヲ定ムルニ足

ラス平常ノ審判以テ法律ヲ行フニ足ラサルノ地方アリ是
 ニ於テ乎天子古常ノ大權ニ因テ軍律ヲ制令スルノ資格ヲ
 有ス此ノ制令或ハ天子ニ出テ或ヒハ其代理ニ出ツ其行ハ
 ル、所ハ王國中何ノ地ヲ論セス皆十一時通法ヲ停止ス夫
 レ戰ヲ宣言スルハ王權ノ正經ナリ若シ反人戰ヲ至尊ニ試
 ミントスルノ明迹アラハ謀反ノ常例ハ君民ノ間ニ戰アル
 可キヲ認承ス既ニ叛亂干戈ヲ動カスニ至レハ政府ハ文權
 ノ下ニ働ク所ノ兵權ノ力ヲ借ルモ以テ之ニ抗スル能ハス
 故ニ至尊ハ内亂鎮定シテ常律安行スルヲ得ルノ日ニ至ル
 マテ軍律ヲ執行ス
 天子若クハ其代理既ニ軍律ヲ制定スレハ則チ之ヲ用テ撥
 亂反正スルノ處置ハ一ニ軍戎執權者ノ專斷スル所ニ在リ

此ニ對スル執
 政官ノ義務

シヤメイカノ

蓋シ軍律ハ不文法ナリ一定ノ主義ニ由ル者ニ非スシテ執
 法者ノ專斷ニ任ス可キ者ナリ故ニ平和ノ日審廷アリテ尋
 常法律ヲ執行シ人々皆チ其正理ヲ伸フルヲ得ルニ當テハ
 軍律ハ許行スヘキ者ニ非ス然リト雖モ平和ノ日或ヒハ尋
 常穩當ノ權ニ因テ國安ヲ保持シ激蕩破裂ノ患ヲ鎮壓スル
 能ハサルニ至レハ輒チ又軍律ヲ頒布執行シ以テ騷擾沈靜
 物情安堵ノ日ニ及フマテ之ヲ保ツヲ得
 執政官ハ此軍律ヲ通達スルノ機關タリ故ニ其行事ノ責ヲ
 議院ニ負フテ自ラ其行事ノ必要ヲ辨護セサル可ラス若シ
 其處置無用ニ流レ殘酷ニ失スレバ之ヲ審査シテ其證左チ
 舉ク以テ彈劾罷免ノ罰ヲ加フ

千八百六十五年勅命事務掛ヲ設置シテシヤメイカ知事

例

エール其地ノ叛亂ヲ制スルニ際シ軍律ヲ發布セシ事ヲ
 調査セシム該事務掛ノ録聞ニ依リ知事エールハ初メ疑
 タル如ク叛亂鎮壓ノ際異常不道ノ慘酷ナル處置ヲ聽用
 シタルノ故ヲ以其職ヲ罷免セラル然レ政府ハ其叛亂ノ
 初ニ方テ現シタル練達果敢勉強ヲ賞セリ蓋叛亂ノ速ニ
 鎮定セルハ職トシ此等ノ資質ヲ施用セラル、ニ由レハ
 ナリ右ノ録聞ハ之ヲ議院ニ提出シ全体ノ賛成ヲ得タリ
 余輩ノ次テ講究セント欲スル者ハ慈仁ノ王權ナリ慈仁ハ
 王者特有ノ資質ニシテ議定法之カ施用權ヲ英國君主ニ付
 與ス夫レ刑事ノ罪犯ハ一トシテ女王ノ寧和ヲ擾シ其實祚
 聖威ヲ瀆ス者ニ非ルハナシ故ニ之ヲ懲罰スル者女王ヨリ
 宜キハナキナリ是ヲ以テ之ヲ赦宥スルノ權ヲ執ル者亦女

慈仁ノ王權

赦免ノ權ハ獨
リ刑事ノ罪ニ
行ハル

王ヨリ適セルハナシ何ソヤ人ノ不敬ヲ恕スルハ唯ク不敬
 ヲ蒙ル者之ヲ能クス此權モ亦他ノ王權ノ如ク人民ノ幸福
 ヲ保持スルカ爲メニ存スル者ナリ故ニ責任執政官ノ議ヲ
 待テ始テ之ヲ用ウルヲ得議院ニ由テ其制ヲ受ク議院カ
 法令ヲ設テ赦宥權ノ用ヲ節限セシ例ハ一ニシテ足ラサル
 ナリ
 赦宥權ノ用ハ刑事ノ罪ニ行ハルモ私犯ノ罪ニ及フヲ得ス
 唯刑事ノ罪ハ國王ノ懲罰スル所ナレハ也是ノ故ニ議院民
 事訴訟ノ囚徒則チ民事裁判ノ罪人ノ爲メニ赦宥ヲ國王ニ
 奏乞スルハ其權利ニ非スト爲ス斯ル人ヲ放免スルハ國王
 權カノ外ニ在リ若シ議院之ヲ奏乞スルニ敢テセハ此レ自
 ラ律令秩叙ヲ破テ非法專意ノ權カノ施用ヲ召求スル者ナ

リ或ヒハ民事罪囚過實ノ刻罰ヲ被ムル者アルニ方リ尋常
 裁判ノ法ヲ以テ之ヲ救フヲ得スハ獨リ議院特種ノ令能
 ク之ヲ救フヘシ
 近日ニ至ル迄ハ天子ノ赦宥ヲ爲スヤ樞密院ノ議ニ從ヒ大
 璽ヲ鈐シテ之ヲ行ヘリ之ヲ行フニ先チ審理ニ上席セル判
 事ハ商議ノ爲メニ集會セル樞密院ニ意見書ヲ呈ス樞密院
 ハ時ニ君主ヲシテ其宣刑ヲ宥減セシム可キヤ否ヤノ議論
 ヲ起セルコトアリ今上御宇ノ始メ一切此慣行ヲ廢シ慈仁赦
 宥ノ政ヲ擧テ皆ナ内務部國務尙書ニ託シ之ヲシテ獨リ其
 責ヲ躬荷セシム爾後ハ樞密院ノ承諾ヲ得ルヲ要セサルカ
 故復タ之ニ謀ルコト無シ此今日ノ慣行ハチ^イ四世第二十
 五號第六款ノ布令ニ從フ者ナリ該布令ニ云ク凡ソ赦宥ノ

事ハ君王ノ批印ト國務尙書ノ連署トヲ以テ之ヲ行フヘシ
 別ニ他ノ書草ヲ添ユルヲ要セスト從來内務省ハ君主ノ旨
 ヲ承テ事物ヲ調査スルノ具ナリシモ今ヤ漸ク進テ刑事ノ
 獄ヲ覆按スルノ庭トナレリ然レモ此レ寧ロ赦宥ノ庭ト謂
 フヘクシテ上告ノ庭ト云フ可ラス何トナレハ内務尙書カ
 罪囚ヲ覆審シ原裁判ヲ破毀スル等ノ事ハ甚タ罕ナレハナ
 リ蓋シ内務尙書ノ審決スヘキ所ハ大抵唯タ其事情憫憐ス
 ヘキカ慈仁權ヲ以テ干涉スヘキカ否ヤニ在ルノミ原裁判
 ノ正否ヲ疑フ者ニ非ス故ニ原裁判ノ手續ハ再議セスシテ
 已ムコト多シ其ノ慈仁權ノ事ノ如キハ尋常裁判ノ決スルヲ
 得サル所ニシテ即チ君主カ其責任執政官ノ議ヲ參聽シ決
 ヲ取ル所以ナリ

此王權ノ施用

此王權ヲ施用スルニ當テ内務尙書ハ獨リ公道ニ據ルノミ
 ナラス併テ德義ヲ參考セサル可ラス又世上人心ノ影響如
 何ヲ慮ラサル可ラス或ハ同一ノ獄ニ對シテ此權ヲ復用ス
 ルコトアリ例ハ一人アリ大罪死ニ當ル時ニ此權ヲ用テ宥メ
 テ終身懲役トナス然ル後テ再ヒ干涉シテ之ヲ輕減スルヲ
 得然レモ此レ特ニ異常ノ例ノミ屢有ノ事ニ非ス
 又内務尙書國王ニ奏シテ死刑ノ宥減ヲ願フニ當リテ其願
 書中ノ事情若クハ他ニ獲ル所ノ實跡等苟モ確然罪囚ヲ回
 護シ判決ヲ左右スルニ足ル者アレハ別ニ意見ヲ付セス其
 儘之ヲ法官ニ轉送ス又内務尙書ハ徃々法官ト獄事ヲ商議
 スルヲ得加之ナラス太輔ノ才識閱歴ハ常ニ其尙書ヲ助ケ
 テ其未タ知ラサル所ヲ知ラシメ其擬刑ノ終決ヲ贊スルノ

便アリ尙書ハ此贊助ヲ以テ赦宥ヲ關白スルノ全責ヲ荷フ
 ヘシ或ハ赦宥施行ノ際ニ於テ不滿ヲ内務省ニ抱ク者アル
 ト雖モ識者ノ公論ハ今日ノ慣行ヲ是トシテ之ヲ變スルヲ
 非トス

ロイド、ブロー
 ハム赦宥權ヲ
 論ス

ロイド、ブローハムハ其英國憲法論ニ於テ刑事ノ罪ヲ赦宥
 輕減スルニ方テ内務省ノ當サニ奉スヘキ主義ヲ精説セリ
 其結末ニ及ヒ沉毅ノ言ヲ以テ之ヲ結ンテ曰ク内務省ノ
 貴重ナル職務ニ服スルニ方テハ政治上身事上其利害ヲ共
 ニスル者ヲシテ之ニ干涉セシム可ラス是レ幾ント余カ言
 ヲ待テ知ラサル所ナリ凡ソ專制ノ國ニ於テ吾人カ目撃ス
 ル所ノ弊何レカ此審決ヲ謬亂スルヨリ甚シキアラン苟モ
 民治ノ邦ニ於テ或ハ暴勢或ハ言論或ハ印行或ハ其他ノ方

議院ノ干涉

法ニ由リ群嘯狂呼シテ此審決ニ干涉シ法ノ爲ス所ヲ擾タルヲ得セシメハ其害豈ニ夫ノ專制國ニ異ナランヤト上下兩院ハ唯非常特殊ノ場合ニ於テノミ此王權ニ干涉スルヲ得可シマコーレイ曰ク余ハ最善ノ下院ヲシテ此施用ヲ司トラシメノヨリ寧ロ之ヲ古來至惡ノ執政官ニ託サント欲ストサト、ロベルト、ピール又曰ク余ハ此權ヲ執政官ノ手ニ委ヌルヲ可トス唯タ其審決ニ不正ノ誣枉アルニ疑ハシキ時ニ於テ之ニ干涉スルハ下院ノ權利義務ナルノミト

赦宥權ノ施用ニ關シテ議院カ天子ノ審斷ニ干涉スルハ特ダ其謬審顯著ノ時ニ限ルト雖也或ハ宣刑ノ日罪人ノ哀願若クハ罪人ノ爲メニスルノ哀願アルニ遇ハ、議院ハ之ヲ

執政官ニ對スル尋問

納聽スルヲ得可ク若シ充分ノ理由アリト認ムレハ委員ヲ設ケテ之ヲ調査スルヲ得可シ千七百九十四年バルマー蘇格蘭高等法院ニ於テ嘯聚ノ現行アル旨ヲ以テ宣刑ヲ被ル其宣刑ヲ不當過刻ト爲シ之ヲ下院ニ訴フ初ハピット此訴ヲ以テ不法不理トシ其納聽ヲ排撃ス然レ也討論中休セシ後ナ異議ナク納聽ヲ可決ス爾來罪人若クハ罪人ノ爲メニスル者或ハ法廷禁獄ノ寬猛ヲ訴へ或ハ宣刑ノ宥輕赦免ヲ願フアルニ遇へハ皆ナ異議ナク之ヲ納聽スルヲト爲レリ

一時ノ審斷權ヲ有スル巡回裁判所若クハ地方刑事裁判所ノ宣刑宥否ノ事ニ就テ衆人ノ心或ハ猜疑誤解ヲ内閣ノ處置ニ抱クコアリ是ノ時ニ當テ議院ハ其情狀ヲ尋問シ内閣ヲシテ猜疑誤解ヲ辨明スルノ機ヲ得セシムルヲ多シ唯タ

此ノ質問ニ對フルト否トハ政府ノ意見ニ存ス嘗テ政府ハ之ニ對フルヲ謝絶シタルヲアリ蓋シ之カ爲メ討議ヲ起スノ恐アリシニ因レリ加之ナラス責任執政官ノ因テ以テ其寬嚴ヲ斷セル情狀ヲ議院ニ通知スルハ既ニ得計ニ非スシテ亦常例ニ非ス

先例

ミユール、パルマー等ノ件

千七百九十四年ミユール、パルマー其他ノ者蘇格蘭ニ於テ嘯聚ノ行爲アル旨ヲ以テ十四年間ノ追放ヲ宣告セラレ此レ蘇國特有ノ律ニ因ル者ニシテ英國ノ律ニ比スレハ較ヤ嚴深ナリトス當時改進黨ハ熱心此獄ヲ庇保スロイド、スタンホープ上院ニ於テ發議シテ曰ク宜シク君王ニ奏請シテ該審罪宣刑ノ情狀ヲ調査シ且ツ其間該宣刑ノ

實施ヲ停ムヘシト大法官其他ノ司法官ハ皆ナ之ヲ評斥シテ云フ非例ナリ無根ナリ刑事裁判ノ處分ニ亂入スル者ナリ凡ソ人宣刑ニ服セスシテ助ヲ君王ニ奏乞スルニハ憲法自ラ其常經アリ今日ノ事之ニ違フト遂ニ該議ハ發議者ノ外贊成ナクシテ止ム尋テ下院ニ於テ蘇國ノ狀師アダム該題ヲ提出シ精巧ナル演說ヲ以テ裁判ノ不當ナルト宣告ノ不正過嚴ナルトヲ証明ス氏ハ又政府ニテ書類ノ下附ヲ請求シ終ニ其宣告ヲ壓抑不正ナリトスル理由ヲ列舉セル奏議ヲ上テ該罪囚ノ爲メニ其慈仁權ヲ使用セラレシヲ陛下ニ請願ス可シト發議ス内閣ハ之ヲ排撃シテ居然宣刑ノ適切至正ナルヲ主張シ裁判官ノ施設ヲ辯護シ大多數ニ因テ動議ヲ否決セシムルヲ

サー、マナッセ
ー、ロペズ

得タリ

千八百二十年七月十一日ロード、ジョン、ラッセルハマナッセ、
ー、ロペズノ赦免ヲ奏乞スルノ議ヲ提出ス時ニマナッセー
ロペズハ賄賂汚穢ノ故ヲ以テ下院ノ告訴ニ遭ヒキンダ
ス、ベンチ審判廳ノ宣刑ヲ被テ現ニ禁錮ノ中ニ在リ内務
卿ロード、カッスルリー動議ヲ駁シテ曰ク法律ヲ決行スル
ト否トハ王者ノ特權タリ苟モ其責任臣隸タル者ハ徒タ
ニ下院ノ告知ニ因テ其決行ニ仁慈ヲ請フヲ得サルハ
猶敢テ輕慢ノ語ヲ用ルニ非ス(國家至賤ナル私民ノ請ニ
因テ之ヲ爲スヲ得サル如キナリト稍討論アリシ後テ
動議者自ラ其説ヲ引ク然ルニ下院ハ尙ホロペズノ高齡
ナルト事情酌量スヘキ者アルトニ據テ銳意之ヲ庇論シ

愛蘭總裁

遂ニ其宣刑ノ宥減ヲ得タリ原刑ハ二年ノ禁錮ナリシモ
僅ニ八個月ヲ經テ釋免セラレ

千八百二十九年四月十三日クランカーター侯上院ニ於
テマクドネルノ獄ニ關スル記録類ヲ徵スルノ議ヲ發
ス初メマクドネルノ誹謗罪ヲ以テ禁錮ノ刑ヲ被ムル
ニ方リ愛蘭總裁ハ勅命ヲ借テ之ヲ赦免シタルニ人皆ナ
以テ其確據ナシト爲ス故ニ今其書類ヲ孛メテ事實ヲ說
明セント欲スルナリ大宰相ウエルリントン公動議ヲ論駁
シテ曰ク此類ノ事ハ全然議院ノ究問ト相ヒ關セサルニ
非ラスト雖モ王者ノ特權ニ至テハ議院ノ調査ヲ受クル
ヲ甚タ稀レナラサル可ラス今議院其慣行ノ常經ヲ離レ
テ時ニ王權ノ施用ヲ調査セント欲スルカ若クハ決シテ

其據ル所アルヲ見サルナリト總裁亦之ニ繼テ自ラ己レ
ノマクドントルニ對セル行爲ヲ辯護シテ曰ク此事タル
陛下ノ恩命ヲ賜フ以前ニ在テ十分調査ヲ經シ所ナリト
書類討求ノ動議ハ乃チ異議ナク否決ス

ロード、ブロー
ハムノ決議案

千八百三十九年八月六日上院ニ於テロード、ブローハム
決議案ヲ提出ス即チ愛蘭刑事裁判ノ事特ニ慈仁權施用
ノ主義ヲ論ジ並ニ其權ヲ舉行スヘキ方法ヲ言フ者アリ
政府之ニ抗セシト雖ヒ決議案ハ終ニ通過ス翌日大宰相
ロード、ジョン、ラッセル之ヲ論シテ曰ク該意見ニ所謂慈仁
權施用ノ方法ハ往常國務尙書、天子ニ關白シテ爲ス所ノ
方法ト氷炭相容レサル者ナリ今マ一旦ニシテ往常ノ方
法ヲ捨ツルハ其不便ニ勝ヘス故ニ余ハ一切變易ヲ爲ス

心ナキナリ若シ該議ヲシテ決議案タラシメズシテ議案
タラシメン乎既ニ之ヲ通過スレハ此レ法ヲ成スナリ余
豈ニ法ニ背カンヤ惟タ未タ法ヲ成サス故ニ自ラ信シテ
現在ノ慣行ヲ固守スルヲ得ヘシト爲スト次會ニ至テ議
院ハ内閣ニ問フニ罪刑減宥ノ事或ハ該決議案ニ定ムル
所ノ主義ト符合セシ者アリシヤ否ヤヲ以テス乃チ内閣
ハ之ニ答フルヲ拒謝シ唯報シテ曰ク若シ此題ニ就テ正
據ノ動議出ルアラハ政府ハ俱ニ之ヲ論議スルヲ憚ラサ
ルヘシト

「チャーナスト」
罪囚

千八百四十一年五月廿五日ダンコンム女王ニ奏言スル
ノ動議ヲ發ス曰ク望ムラクハ女王仁慈ノ心ヲ垂テ英蘭
ウエールスノ牢中ニ繋ケル政論ノ罪囚ヲ省察シ又特ニ「

ヤーテイスト派首領(現ニ罰ヲ被ムル者)ノ爲メニ誘惑註
 誤サレテ刑ニ罹レル者ヲ憐憫セシメテ動議ノ意ハ下院
 ノ干涉ニ頼テ該罪囚ノ宣刑ニ宥減ヲ得ント欲スルニ在
 リ此ヲ以テサー、ロベルト、ピールハ(時ニ政府ト反對ノ地ニ
 立シト雖也)毅然トシテ之ヲ排撃シ大ニ論シテ曰ク如此
 ノ事ハ獨リ之ヲ陛下ノ神慮ニ任スヘキノミ凡ソ慈仁權
 施用ノ際ニ在テハ政府決シテ下院ノ議論ニ聽動ス可キ
 ニ非ス、又下院ノ爲メニ計ルニ如此ノ事ニ就テ進言干奏
 以テ君王ノ神慮ヲ左右スルヲ爲サハ此レ自ラ危險ノ備
 ヲ作ル者ト謂フヘシ余カ國務尙書ノ任ニ膺レル日イル
 ナヌターニ禁獄セラレタルハントノ爲メニ殘期原宥ヲ
 奏乞スルノ議起ル、余ハ亦タ此主義ヲ採テ之ヲ排斥シタ

フロストウ
 リヤムス
 シヨ
 ノス

リ、當時ノ議タルヤ下院ヲシテ革命以後常執ノ慣行ニ背
 馳セシメントスル者ナリキ、即チ不得已ノ事情下院ニ逼
 ルニ非スンハ斯ル貴重ノ王權ニ干涉ス可ラスト云フノ
 旨ニ違ハシムル者ナリキト、殖民部國務尙書ロード、ジョン、
 ラッセル亦タ動議ヲ駁難シテ下院干涉ノ弊害ヲ指陳シ且
 ツ斯ル干涉ノ弊害ナキヲ得ルハ特ニ異常ノ時偶々然ル
 ノミト論セリ、可否中分シテ議長之ヲ否決ス曰ク余ハ該
 動議ヲ以テ王權ニ干涉スル者ト爲スト
 千八百四十六年三月十日ダコンム女王ニ奏言スルノ
 動議ヲ提出ス曰ク頃日議院カ受理セシ所ノ國事犯フロ
 ストウ、リヤムス、シヨンス、退放救復ノ哀願ハ女王ノ之ヲ飲
 可セシトテ望ムト時ニマコーレーサー、ロベルト、ピール

ロード、ジョン、ラッセル等ノ先進政治家ハ翕然皆之ヲ排斥ス
蓋シ下院カ一切ノ王權ニ關白ス可キ特壹ノ權理ヲ有ス
ルハ其稔知スル所ナリト雖モ該動議ニ至テハ乃チ以爲
ク此レ危險ノ趨勢アル者ナリ前ノ下院撰定ノ制規ニ背
ク者ナリ該制規ニ云ハスヤ王權ニシテ陛下ノ專斷度内
ニ在ル者ハ其施用ニ干涉ス可ラスト、動議ハ大多數ヲ以
テ否決ス

愛蘭總裁

千八百六十四年六月三十日上院ニ發議スル者アリ曰ク
上院ハ須ク協意シテ明言スヘシ云ク本院ハ愛蘭地方ノ
地主暴虐ノ熾シナルト其罪迹ヲ獲ルノ難キトニ觀テ甚
ダ愛蘭總裁ニ望ムラク罪迹既獲ノ者ノ刑ヲ減免スルノ
際ニ臨ンテハ深ク慎重精思アラソクナ、何ソ圖ラン總裁

トムノ獄

近ガ確據ナクシテ該罪囚某等(名ヲ舉ク)ヲ縱放セントハ、本
院大ニ之ヲ悲惜スト、政府ハ動議ヲ排斥シテ曰ク或ハ赦
宥權施用ノ際其審定ニ大謬アル歟或ハ之ヲ施用スル者
汚穢ノ行アル歟二者此ニ一アルニ非ンハ該院ハ動議ニ
聽從スルノ理アラスト、全院ノ意動議ニ反スルコト炳然タ
ルヲ以テ動議者自ラ其說ヲ引ケリ

千八百三十八年ニ至テ以上ノ例ニ異リタル一ノ重要緊
切ノ事起リ慈仁權ノ舉行ニ就テ上下議院論說盛騰シ遂
ニ下院ヲシテ調査委員ヲ命セシムルニ至レリ初メトム
ナル者アリ僞誓ノ罪アリテ六年ノ追放ヲ命セラル宣刑
ノ後未ダ幾ハクナラス其喪心者ナルヲ知テ之ヲ癡狂院
ニ徙ス居ルコト四年赦ヲ得テ釋サル既ニシテ其疾大ニ激

保正司平ノ王權

發シ横行亡狀人ヲ殘殺シ身亦之ニ死ス事議院ノ執議スル所ト爲リ兩院共ニ其關係ノ記錄ヲ徵索シテ之ヲ考究ス時ニ下院ニ一動議出テ委員ヲ命シテトト釋免ノ事實ヲ調査センコト言フ該動議者ハ國務尙書ロード、ジョン、ラセルカスノ危險ノ性質アル者ニ對シ慈仁權ヲ施用セシ行事ヲ深斥極駁シタリララセルハ一身ニ在テ之ヲ辯析スルノ辭ヲ尽セシト雖也政府ノ地ニ在テハ委員ノ任命ニ從諾ス委員其ノ采獲セシ所ノ憑據ノ詳細ヲ錄聞スルニ及ンテ該處分ニ關スル政府ノ冤辱自ラ雪白セラルハチ得タリ因テ議論事務此ニ於テ並ニ局ヲ結ヘリ

此ニ次テ今余輩カ尋論セント欲スル者ハ則チ君主チシテ正法ノ本源ト爲リ國家ノ司平者ト爲ラシムルノ王權ナリ

議院ノ贊助

唯タ國家ノ和平ヲ維持スルニ就テ之ヲ言ヘハ之ヲ維持スル爲メニ官吏ヲ任命駕御スルノ事ハ法制之ヲ主トル、法制ヲ施處スルハ內務尙書ノ監視ヲ責任スル所ナリ

所謂正理ノ本源トハ之ヲ創草擬造スルノ謂ニ非ス之ヲ分配スルノ謂ナリ、正理ハ君主ヨリ獲ルノ賜贈ニ非ス君主ハ唯タ公衆ノ爲メニ之ヲ貯藏シテ當ニ賦與スヘキ所ニ賦與スル者タリ、君主ハ湧泉ニ非ス蓄水器ナリ、萬條ノ甯管ヲ以テ萬民ニ權理公道ヲ輸注スル者ナリ、故ニ審廷法院ヲ設置スルハ君主ノ正權ナリト雖也亦タ慣法ヲ離レテ獨リ之ヲ設行スルヲ得ス、民事裁判所ナリ司平裁判所ナリ其他新治權ヲ具スル新法院ナリ凡ソ之ヲ設置セント欲セハ皆ナ必ズ議院ノ贊助ヲ得サル可ラス、且ツ裁判ノ政ヲ施スニ方テ

ヤ其費用ハ一ニ議院議出ノ金ニ頼ラサル可ラス、是ヲ以テ
 一法院ヲ新開スル毎ニ必ス先ツ議院ノ贊助ヲ得議院自ラ
 其支給ヲ辨スルノ義務ヲ負擔スルニ至テ始メテ其ノ設置
 ノ令ヲ定ム、
 蓋シ議院ノ大職ハ法律ヲ保維シテ紛難ヲ解排スルニ在リ、
 嘗テ議院集會ノ時ニ當テエドマンド、バルクノ筆ニ成リタ
 ル公務ノ報告アリ彼ノ才高理深ノ政治家ハ就中大ニ英國
 下院ニ期求シテ曰ク下院ハ當サニ法院審廷ニ注視シ其最
 高ノ者ヨリ最下ノ者ニ至ルマテ之ヲ監督シテ苟モ國家ノ
 律令憲法ニ違ヒ公道長畧實理ニ離ル、ノ行アラシムヘカ
 ラス此其本分ナリ大職ナリト、ウヰリヤム三世第二種十二号
 十三號ノ令及ヒジョージ三世第二十三種一號ノ令ニ於テ獨

法官ニ對スル
處分

リ上下議院ニ法官ノ免職ヲ奏請スルノ權ヲ特授セル者ハ
 其意亦ク裁判事務督察ノ任ヲ以テ議院ニ負ハシムルニ外
 ナラス、サー、ロベルト、ピールノ語ニ曰ク議院ハ唯ク法官ノ
 斥免ヲ奏請ス可キ權理アルノミナラス或ハ其失行アルニ
 遭ヘハ其服職ノ正否ヲ管治シ之カ調査ヲ施スノ權理アリ
 ト、凡ソ法官ハ責ニ其行ニ任スル者ナリ是ヲ以テ苟モ失行
 ノ罪アレハ固ヨリ宜ク上下院ノ檢閱處分ヲ待タサル可カ
 ラス

議院干涉ノ限
界

議院此監督ノ大任ヲ盡スニ當テヤ又自ラ憲法ノ制限ニ從
 ヒ司法權ノ獨立ニ侵入スルヲ戒メサル可ラス、司法權ノ獨
 立ハ英國人民自由ノ天堦壁ナリ、苟モ議院ノ措爲若シ法律
 施用ノ事ニ對シ朋黨ノ勢力ヲ波及セントスルアラハ之ヲ

議院人ヲ指罪ス

鎮壓制御スルハ執政官ノ職任トス即チ特ニ正法ノ純道ヲ保存ス可キ責ニ任スル者ノ務ナリ

議院ハ昭明較著ノ基據アルニ非ンハ決シテ人ヲ指罪スルコトアラス此レ慣行ノ易ハラサル者ナリ若シ基據アリテ人ヲ指罪スルコトアレハ先ツ之ヲ記シテ議場ニ提出シ全院ヲシテ審議セシム其指罪ノ措爲ニ至テハ或ハ之ヲ彈劾シ或ハ之ヲ黜免ヲ論奏シ或ハ又委員ヲ命シテ之ヲ失行ヲ調査セシム失行ヲ調査スルハ被罪者ヲシテ其指罪ニ對辯スルノ機ヲ得セシムル所以ナリ

凡ソ事ノ現ニ法廷ノ審査ヲ受クル者若クハ將ニ之ヲ受ケントスル者ハ其ノ刑事ト民事トヲ問ハテ議院之ヲ討議スルヲ得ス此レ漸クニシテ法廷尋常ノ事務ニ干涉スルノ愆

審判中ノ事

法官ノ行ハ輕々ニ攻非ス可ラス

端ヲ啓ケハナリ此說ヤ上院ニ對シテ殊ニ其切實ナルヲ覺フ夫レ上院ハ己レ既ニ最高審廷ナルノ地ニ立ツ故ニ最モ當サニ他ノ法廷審判中ノ事ヲ豫議先論スルヲ慎戒セザル可ラス或ハ國家ノ政略上之ヲ論議スルヲ要スルノ時ニ遇フモ亦タ審判中ノ事若クハ審判ヲ受ケント欲スルノ事ニ對シテ其書類ヲ徵求スルコトアル可ラス

司法官ノ行爲法廷ノ審決ハ輕々ニ議院ニ訟難スルコトヲ得ズ若シ果メ裁判ノ措爲ニ謬戾アリテ審決ヲ誤リシ者ナラシメバ議院ハ之ヲ君主ニ奏請シテ法官ヲ黜免スルヲ得可シロトド、バトメルストン嘗テ論シテ曰ク下院カ法廷尋常ノ處分ヲ復接スルヲ以テ己レノ務ト爲スニ至レハ裁判ノ政ヲ害スル是ヨリ甚キハナシ唯法官ノ故意私利不才等ノ

賄賂ノ現犯

爲メニ法律ヲ誤濫スルノ大ナル下院ノ干涉ヲ用ヒサル可ラサルヲ致サハ乃チ始テ君主ニ建白シテ法官ノ黜免ヲ請フヘシ是レ下院本分ノ權力ナリト允ナル哉言乎斯ル非常ノ際ニ於テ處スヘキノ方ニ至テハ余輩篤チ易ヘテ將サニ論スルアラントス

ヅクトリヤ第廿九種二十六號第九項ニ據ルニ凡ソ選舉調査委員(下院其憑據ノ印行ヲ命セシ時ノ者)若クハ勅命事務掛カ賄賂屬託ノ事ヲ以テ人ヲ非斥スル時ハ該錄聞チ檢考スルハ檢事長ノ務トス檢事長ハ己レノ審斷ヲ以テ該罪犯者ヲ處分スルノ權アル者ナリ蓋シ議院選舉ニ生スル賄賂等ノ失行ヲ處分スルハ居常下院其始ヲ爲シ檢事長ニ命シテ罪犯者ヲ終罰セシム又法制上檢事長自ラ撰擧ニ係ル罪

議院ニ前陳スヘキ報告

信任ノ通報

犯ヲ懲罰スルノ事アリ此時ニ當リテ下院之ニ干涉シ君王ニ奏白シテ其懲罰ノ宥減ヲ請フヲ得是レ憲法上ノ舊慣ノ許ス所ナリ假トヒ此等議院選舉ヨリ起ルノ獄ニ於テスルモ下院カ自ラ司法事務ノ控訴上告ヲ受容シ若クハ其協意ヲ以テ裁判處分ノ事ニ干涉スルノ權理ナシ苟モ然ラズンハ則チ政治上ノ事ニ就テ司法權ノ措爲ニ侵闖スルノ嫌ヲ免カル、能ハサルノミ

然レモ又議院ハ裁判執行ニ關スル精完ノ報告ヲ徵求スルノ權利アリ之ヲ徵求スルノ勳議起ル時ハ大抵當然ノ事ト爲シテ一切關係ノ書類ヲ交付ス但タ其意法廷ノ施爲ニ對シテ不經違法ノ干涉ヲ爲サントスルニ在ルハ此限ニ非ス司法官ヨリ行政府ニ與フル(或ハ公同ノ團會ニ供スル)法律

先例
王權法院

上ノ意見書ハ上下議院執レヨリモ之カ寫本ヲ請求セサルノ慣行アリ又政府ヨリ之ヲ議院ニ下附スルハ其習例ニ非ス凡ソ此等ノ意見書ハ之ヲ信任通報ト爲ス者ナリ特種ノ獄ニ關シ司法官相互ノ通報一訴件ニ關スル法官ノ記録急死檢察官ノ記録等皆此類ナリ急死檢察使ノ記録トハ檢察使カ裁判上ノ事ニ與カル時ニ際シ自ラ許シテ筆セシムル者ヲ謂フ又議院未決ノ議案ニ對シ裁判官ヨリ政府ニ付スル意見書ハ議院ヲ動カシ若クハ議決ノ考據ト爲サツカ爲メニ提出ス可ラス
裁判執行ノ弊害ニ關スル議院ノ責務ハ左ニ掲タル先例ニ因テ明瞭ナルヲ得ン
千八百二十八年七月十七日ヒューム下院ヨリ一請願書ヲ提

警察官

出ス即チ王權法院ノ濫弊特ニ該院首席判事ノ謬戾汚穢ヲ懣フル者ナリヒュームハ其濫弊ヲ枚擧シ且ツ言テ曰ク今ヲ決スヘキ所ハ議院ノ委員ヲ以テ之ヲ調査セシカ政府自ラ之ヲ審閱センカノ二者ニ在リト議論未タ終ラサルニ際シ此請願ニ關スル攻撃ハ根據不完全ナルヲ明カナリケレハ請願受理ノ動議ハ否決セラル翌日ニ至タリヒューム又タ動議アリ下院之ニ從フテ該法院某月日間ノ俸給収納ノ全額報告ヲ命徴ス以テ該院法官ノ濫弊ノ有無ヲ審定セント欲スルナリ
千八百三十三年六月二十七日倫敦近傍二村ノ人民請願書ヲ下院ニ呈ス即チ京師警察官ノ探偵使用ヲ懣ヘ其患害ノ保護ヲ求ムル者ナリ議院ハ之ヲ撰拔委員ニ託スハ

月三日其録聞ヲ進メ三條ノ決議案ヲ述フ中ニ云ヘルアリ曰ク巡査ボーイナル者最モ譴責ス可キ者ナリ曰ク尋常ノ事ニ探偵ヲ使用スルハ害ノ尤モ甚クシキ者ナリ其物情ヲ盪シ憲法ニ背ク實ニ是ヨリ大ナルハ莫シト千八百三十四年二月十三日ダニール、オ、コンチル下院ニサー、ウヰリヤム、スミスヲ訟難ススミスハ愛蘭財務法院ノ判事ナリ訟意ニ云ク判事ノ席ニ在テ其職ヲ怠リ陪審員ニ對シテ政治ノ事ヲ引論セリト氏ハ下院ノ机上ニ在ル諸報告并ニ該判事ノ申告ヲ抄出シテ斥訴ノ理由ヲ證明シ且ツ宜ク撰抜委員ヲ置テスミスノ行事ヲ調査セシム可シトノ動議ヲ起シテ可決セラル全月廿一日ニ至リ又下院ニ言フ者アリ曰ク未ダ制定法ニ因テスミスヲ免職

ス
バー
ロン
スミ

船獄法

スルニ足ル可キ一目瞭然タル理由ヲ見ス又議院ヨリ之ヲ論スレハ明ニ一法官ノ行事ヲ審査スルハ憲法所定ノ權利ニ非ス唯々其黜免ノ制定法ニ從テ君主ニ奏白スルカ爲メニノミ之ヲ審査スルヲ得可シ苟モ此ノ如クナラズンハ則チ司法席ノ獨立ハ兒戲ニ屬シギョーギ一世一號ノ令ハ廢紙ト爲テ故彼ノ委員設置ノ命ハ之ヲ停メサル可ラスト討論交モ起テ終ニ亦之ヲ可決ス千八百四十一年三月廿三日ロード、マホン決議案ヲ下院ニ提出シテ曰ク本院ノ説ニ依レハ去ル千八百四十一年一月二日發内務尙書ノ達(七年以下ノ追放人ハ成丈ケ内國及ハルミューダノ敗船及ヒ造船場ニ使役ス可キ旨ノ達)ニ從テ追放人ト雖ヒ永久之ヲ大英ノ船獄古廢ノ船ヲ用ヒテ牢獄ト爲

者ニ禁錮シ爲メニ大ニ囚徒ヲ増加スルハ甚タ不利ナリト此決議案ノ意ハ王權ノ及フ所ヲ以テ過當ナリト爲シ法律ノ明文之ヲ許スト雖モ尙ホ之ヲ制限セントスルニ在リ蓋シ内務尙書ノ己カ意見ヲ以テ追放人ヲ内國ニ禁錮スルハ法律ノ許ス所タリ然レモ法律ハ常ニ之ヲ許スニ非ス特別ノ際ニ於テノミ之ヲ許スナリ即チ少幼、老耄、其他事情ノ酌量スヘキ者追放ヲ命セラル、ニ當テ之ヲ内國ニ禁錮スルヲ得可シ船獄法ハ犯人ニ害アルノ徴ヲ見ハセルカ故曾テ千八百三十五年上院委員ハ公然之ヲ斥非シタリキロード、マホンハ船獄法ノ過當ノ擴張ヲ制セント欲シテ該決議案ノ採用ヲ下院ニ求ム殖民部尙書ロード、デヨン、ラッセルハ之ニ答テ船獄法ノ非難ス可キヲ認

承スト雖モ尙ホ下院ノ之ニ關シテ決議スルヲ不可トセリ因テラッセルハ先ツ該案ノ存廢ヲ問フノ動議ヲ發シ討議ノ後チマホンハ斷然之ヲ主張センコトヲ決意ス決ヲ取ルニ及ンテ政府ニ反スル者二十一人ノ多數ヲ獲タリ後チ一月デヨン、ラッセル報告シテ曰ク政府ハ追放ノ刑ノ及フ所ヲ狭フシテ之ヲ存シ且ツ該刑人ニシテ内國ニ置ク者ハ船獄ニ錮セス易ユルニ贖罪金ヲ以テセント欲スト尋テ政府ハ上院ニ前ノ決議案ニ因テ船獄法ヲ廢棄シタル旨ヲ報セリ

千八百四十三年五月十一日ダンコンム下院ニレイセスター州ノ獄囚シヨーンズノ請願書ヲ提出ス請願ノ大意ニ云フ己レ嘯聚ノ罪ヲ以テ法廷ニ出テシ際主任判事

パ
ー
ロ
ン
、
ガ
ル
チ
イ

パーロン、ガルチイノ接遇宜キヲ得ス己レ陪審ニ對シテ
 冤枉ヲ辯證スルノ機會ヲ失ヒタリト斯ル事ニ在テハ法
 律救回ノ道ヲ備ヘサルカ故ダシコシムハ奏議ヲ上テ陸
 下ノ慈仁ヲ求ムルノ議ヲ出セシナリ内務尙書サー、ゼーム
 ス、シラハムハ此ニ答テ曰ク是レ判事ノ行爲ヲ指斥スル
 ノ根據ナキ者ノミ下院ノ爲メニ計ルニ明確ノ根據之ヲ
 要スルノ時ニ非スシテ慈仁權ノ事ニ干涉シ君主關白ニ
 スルハ不利ナリト稍ヤ討議ノ後チ動議者自ラ其說ヲ引
 下ニシテモ動議者ニ對シテハ、
 千八百五十六年二月二十八日下院ニ一動議アリ頃者愛
 蘭法院所決ノ審案ノ寫本及ヒ其關係ノ書類ヲ徵ザント
 欲ス動議者明言シテ曰ク法官不才ニシテ該訟ニ幹スル

愛蘭法官

能ハス爲メニ該訟連類ノ者ヲシテ不幸ノ結果ヲ受ケシ
 メタリトロード、パーメルストン之ニ答テ謂ク該訟ニ在
 テハ下院ノ干涉ヲ容受スル如キノ失法失措アラスト又
 言テ曰ク該審案ハ既ニ上等法院ノ確批スル所ト爲リ今
 ヤ最高控訴院ノ審査中ニ在リト動議終ニ否決セラル
 上例ノ主旨ハ蚤ク千八百三十一年「チーケル」ノ事ニ於
 テ下院ノ定ムル所ト爲レリ初メ「チーケル」ニ不平ヲ地方
 長官ニ抱テ法廷ニ訟フ法廷ノ審決「チーケル」ニ曲トス
 乃チ下院ニ調査委員ノ設置ヲ請願スト雖モ下院ハ之ヲ
 可カス蓋シ既ニ法廷ノ審案ヲ經タル事項ニシテ且ツ上
 等法院ニ控訴スルヲ得可キ事項ヲ調査スルハ舊慣ニ違
 背スレハナリ

千八百四十四年五月六日上院ニ一動議アリ愛蘭ニ於テ
 某氏ヲ有俸地方長官ニ拜任セシコトヲ非斥セント欲ス是
 レ某氏ハ曾テ政治ノ論題ニ就テ詭激ノ說ヲ出板シタル
 ニ因ルナリ該動議ハ亦愛蘭總裁ヲ譴讓スルニ之ヲ任命
 セルヲ以テシ本政府ヲ譴讓スルニ之ヲ承認セルヲ以テ
 大然レモ任職ノ不當ヲ非斥スルノ實據ナシ故ニ動議ハ
 全數ヲ以テ否決セラル

千八百四十四年七月十六日上院ニ動議ヲ出シテアレキ
 サンダー、オードリスコルノ復職ヲ請ハシカ爲メ愛蘭政
 府ニ呈セル建白書ノ寫本ヲ徵求セント欲セル者アリ
 ードリスコルハ始メ治安事務掛ノ職ニ居ル過激不當ノ
 行アリテ罷免サレ未タ六月ナラズ復タ登職ス今之ヲ檢

セント欲スルナリ最初政府ハ動議ヲ不可トシ愛蘭大法
 官ノ隨意之ヲ處分スヘキ權利ヲ辯護ス然レモ討論ノ際
 引據スル實跡ヲ聞クニ皆ナシテオードリスコルノ職ニ
 堪ヘサルヲ證スニ足レルカ故終ニ該書類徵求ノ議ヲ認
 承ス然ルニ上院ハ此後別ニ爲ス所ナクシテ己ミタリ同
 月二十三日下院ニ於テオードリスコルノ免職ヲ奏請ス
 ヘキ旨ノ動議ヲ起セル者アリ政府ハ之ヲ認承セテ曰ク
 此ヲ講究スルハ下院允當ノ事ナリ或ハ時宜ニ由レハ一
 地方長官ヲ治安事務掛ヨリ退クル旨ヲ奏請スルハ之ヲ
 下院ノ職分ト謂フモ可ナリト愛蘭尙書之ヲ駁シテ曰ク
 余惟フニ凡ソ至高ナル司法官カ王權ヲ攝行スルニ當テ
 一議員敢テ此ニ下院ノ干涉ヲ促スハ彼レ必ズ王權攝行

ノ際汚穢謬戾アルコト明證ヲ具スルナル可シト暫時ノ議
 論後動議ハ否決セラル後チ幾クモナクオードリスコル
 再ヒ失行アリ愛蘭大法官之ヲ調査シテ遂ニ其職ヲ逐フ
 千八百六十一年愛蘭地方長官ニ就テ一事起ル議院内外
 世論亦爲メニ紛々トシ激昂シ遂ニ議院ガ人ノ正經ナ
 ル權利ニ干涉スルノ限界ヲ明畫スルニ終レリ初メ愛蘭
 地主ニシテドブチガ州ノ地方長官タルアデイルノ家宰、
 人ノ爲メニ殺サル罪人ヲ索メテ得サリシカ故其小作人
 ノ借地ヲ収復ス愛蘭政府之ヲ聞キ書ヲ遣ハシテ之ヲ詰
 ルアデイル此ヲ以テ其財產生命ヲ保護スルカ爲メ
 處措ト爲シ其正理以外ニ涉ラサルヲ辯テ政府ハ一ヒ之
 ヲ論難スト雖モ終ニ之ヲ以テ法禁ヲ犯サス又地主ノ權

理ヲ度越セザル行爲ト認承セリ愛蘭ノ物情ハ之カ爲メ
 夫ヲ沸騰シテ人ノ小作人ノ不幸ヲ哀レマサル者ナキニ
 至レリ是ニ於テ乎下院ハ内閣ヲ問フニ彼ノ事態ヲ認知
 セルヤ否ヤトアデイル答テ建白スルニ意アルヤ否
 ヤトテ以テス政府之ニ答テ曰ク事ヲ矯激ナルガ余輩既
 ニ之ヲアデイルニ答テタリ之ヲ免黜スルニ至テハ余輩
 未ダ其可ナル所以ヲ知ラス何トナレハアデイル未ダ
 嘗テ其正經ナル權利ヲ踰越セザレハナリト下院ハ此答
 解ヲ不滿トシ六月二十四日一動議ヲ提出ス云ク當
 之ヲ女王ニ奏白シアデイルノ措爲ヲ調査シ以テ其果
 テ陛下ノ委任ニ負カサルヤ否ヤヲ究ムヘシト政府ハ之
 ヲ駁シテ議院職外ノ事ト爲シ又一モ王權ヲ用テ之ヲ罷

免スルヲ得可キ形迹ナシト云ヘリ動議終ニ否決セラレ
 後十數日再ニ動議ヲ起セル者アリ曰ク本院ハ宜ク該措
 爲ニ關スル事情ヲ充分ニ調査スルヲ宜シトスル由テ議
 決ス可シトロイド、パーメルストンハ該事ニ對シテ下院
 ノ意見ヲ覆露セシカ爲メニ之ヲ論議スルノ不可ナキヲ
 認承シタレト尙ホ右ノ動議ニ反對セリ蓋シ之ヲ以テ議
 院カ憲法上ノ大理ヲ許サレル所ニ其權力ヲ使用セシト
 欲スル者ト認定シタレバナリ氏カ言ニ曰ク下院ノ權力
 ナシテ若シ私人正經權内ノ私事ニ干涉セシメハ其弊害
 極大ニシテ危險ナルヘシ私人果シテ法禁ヲ闕テ踏
 平私人果シテ自家權利ノ境ヲ越ヘン乎之ヲ正スニ責ハ
 法ニ在リ政府既ニ其任ニ當ル政府未タ其任ヲ懈ラズ尙

ホ何ソ下院ノ干涉ヲ用ヒシヤト乃チ決ヲ問フ動議ハ大
 多數ヲ以テ否決ス此敗ニ懼レス同僚ノ議論ハ唯々其形
 ヲ變シテ再ヒ起レリ七月五日動議アリ曰ク頃日愛蘭
 他所ニ於テ又々借地收復ノ事アリ宜ク委員ヲ設テ其原
 由形情ヲ調査セシムヘシト蓋シ此収復ハデルクム
 如ク「リッポムズム」ノ嫌疑ニ生セル者ニ非スシテ宗教上ノ
 争ニ起レル者ナリ収復ノ理由ヲ問ヘハ則チ云ク彼レハ
 其兒子ヲ新教ノ學校ニ入ル、ヲ拒ミタリ此レハ新教ヲ
 誓フチ拒ミタリ故ニ皆チ其借地ヲ収復スト時ニ愛蘭尙
 書ハ該動議ニ對シテ敢テ之ヲ條駁セス唯々大体ノ主義
 ナ舉テ之ヲ排撃ス其言ニ曰ク前キニデルクムノ事ニ
 於テ下院ノ干涉ヲ辯斥シタルノ理ハ今マ茲ニ用テ其皆

ナ益々適切ナルヲ見ル此ノ如キノ調査ハ消埃ノ益ヲ成
 サス下院ノ位地ヲ上ケス徒ラコ下院ヲシテ未曾有ノ方
 法ニ由テ裁判所ノ職務ヲ横奪セシム夫レ下院ノ權ニ限
 界ナシ之ヲ限ル者ハ獨リ吾人ノ注意ト前代ノ典故アル
 ノヨ余ハ固ク信ス其分ニ戻ル彼カ如キ其慮ヲ忽ニスル
 彼カ如キ行事ノ典故ハ決シテ下院ノ曾テ見サル所ナル可
 キヲナト是ニ於テ更ラニ討議ヲ費サズ動議ハ否決ス
 千八百六十二年六月廿日動議ヲ下院ニ出ス者アリ曰ク
 頃者タイロトノ臨時會審中其陪審員ニ不經人事アリ當
 ニ調査委員ヲ置テ之ヲ点檢セシム可シト政府ヲ以爲ク
 該高等法官ヲ尤ムルハ可ナリ然レモ動議者未ダ委員選
 命スルニ足ル可キ理由ヲ説カスト動議ハ乃チ否決セラ

陪審員

護身律停止令

千八百六十六年六月十五日決議案ヲ提出シテ下院ノ同
 意ヲ求ムル者アリ其文ニ曰ク「護身律」之囚徒ヲ遇ス
 ルニ護身律停止令ヲ用ユルハ徒ラニ過刻不法ノ處置ニ
 過キス之ヲ禁スルコト政府ノ任ニ在リト下院ハ愛蘭尙書
 ノ説明ヲ得テ之ニ満足シ動議者モ其説ヲ引ケリ
 法律ヲ執行スルニ方テハ時ニ過誤ノ審罪オキ能ハネ又他
 日情狀明白ナルニ至テ初テ無辜ノ民ノ不幸ニモ懲罰セラ
 レタルヲ知ルコトナキ能ハス斯ル人物ヲシテ其冤屈ヲ雪信
 スルヲ得セシムルノ便途ヲ開クハ政府ノ責分ナリ然レモ
 此等ノ人ハ政府若クハ議院ニ對シテ損害ヲ要償スルコトヲ
 得ス

過誤ノ審罪

千八百五十八年ニ於テ頗ル困難ノ事態生ス初メダブリ
 ユー、エーチ、バーバー贖僞ノ罪ヲ以テノーフホルク島ニ配
 流セラレ該島執權者ノ爲メニ異常ノ艱苦ヲ被レリ他日
 ニ及ソテバーバーノ無實ニシテ罪セラレタルヲ明白ナ
 リケレハ直チニ之ヲ放免ス是ニ於テバーバーハ其經歷
 セル艱苦ヲ列叙シ下院ニ損害回復ヲ請願ス千八百五十
 八年六月十五日御允ヲ得テ此請願ヲ選拔委員ニ付シ之
 ヲ救復スヘキカ、之ヲ救復スル何ノ法ヲ以テセンカヲ錄
 聞セシム委員ノ報告ニ曰ク請願書中ノ言フ所トシテ
 實ナラサルハナク其經歷セル所ノ艱難辛苦ハ實ニ人意
 ノ表ニ出ツ政府宜ク之ヲ洞憐哀憫セサルヘカラスト乃
 チ政府ハ五千磅ノ額ヲ豫算表ニ加ヘ之ヲ該紳士ニ與フ

ルノ償金ト爲ス未ク幾クナラス内閣ノ更迭アリ新任執
 政官ハ先職ノ裁定ニ從ヒ此項ヲ以テ依然豫算表中ニ置
 ク下院ヨリシテ是ノ命ヲバーバーニ傳フ然レモ是レ未
 タ其意ニ飲スルニ足ラス尙ホ三千七百磅ノ増額ヲ求ム
 曰ク否シハ則チ冤ヲ法廷ニ証明スルヨリ其本位ニ復ス
 ルニ至ルノ間自家費損ノ額ヲ償フ能ハスト千八百六十
 一年六月十一日曾テ此事ニ下院ノ注意ヲ請フタル某議
 員更ニ一動議ヲ提出シテ曰クバーバーノ君主ノ恩寵ニ
 求望スル所甚ク大ナリ千八百五十八年ニ於ケル委員ノ
 錄聞ハ未ク之ヲ鑿足セシムルニ足ラス近コロ躬ヲ下
 院ニ請願セル所ハ政府ノ當サニ願省スヘキ所ナリト内
 務尙書サー、ジョージ、グレイ之ヲ排シテ曰ク冤枉ノ人ニ對

シテ錢財ノ償ヲ與フルハ下院ノ任ニ非ス政府其要償ヲ容諾スルバーバーノ事ノ如キハ誠ニ異典ト謂フヘシ此レ以テバーバーカ公府ニ千ムル所ノ百求千望ヲ滿タスニ足ルト勳議乃チ否決ス

ビウキック

千八百六十三年四月二十八日ダブルユー、ビウキック下院ニ請願書ヲ呈ス初メビウキックハ故意ニ法官四人ニ發銃シタル旨ヲ告發サレ四年ノ禁錮ニ處セラル後チ該告發者等ノ私計ヲ挾シテ之ヲ誣陷セシ事露ハレテビウキックハ赦免セラレタリ是ノ時ニ當リビウキックノ財産ハ官沒シテ之ヲ競賣ス其釋放ノ日該賣價ヲ返還ス雖モビウキックノ耗亡ヤ實ニ大ナリ加之ナラズ誣陷ノ告發者ヲ却訟シ其罪ヲ正スニ至ルノ間費ス所亦鮮カラズ是レ其今マ下院

ニ請願シテ償復ヲ乞ハント欲スル所以ナリ七月二十一日ニ至リエーチ、パークレー發議シテ曰ク本院ノ意見ヲ以テスレハビウキックノ毀害ハ政府ノ顧省ヲ仰クノ理アル者ナリト内務尙書サー、ジョージ、グレイ之ヲ排シテ曰ク之ニ哀憐ヲ垂レヨト謂ハ、則チ可ナリ之ニ救復ヲ求ムト謂ハ、則チ法律上其路ナシ抑モ國庫ヨリ之ヲ償フノ議ヲ起スニ至テハ此レ濫惡ノ例ヲ布ク者ノミト乃チ決テ問フ二人ノ多數ヲ以テ否決ス翌年四月二十九日、パークレー又ダ君主ニ奏請シテビウキックノ損耗ヲ完償スルキ旨ノ勳議ヲ發シ且ツ本院モ亦之ニ善處セサル可ラサル旨ヲ演フ内務尙書檢事長皆チ之ニ反ス但ダ之ヲ選抜委員ニ託シテビウキックノ損亡果ノ多大ナルカ其事情如何

ヲ調査セシムルニ至テハ政府モ欣然之ヲ諾セリ是ニ於テ議乃チ定マル乃チ委員ニ命ジテ昨年ノ請願ヲ調査セシム六月十七日委員ハ其說ヲ錄聞シテ曰クビウ^{ビウ}ハ決シテ求償ノ資格ヲ具セス何トナレハ其獄法廷ヲ欺罔スル者アルニ成テ法官ノ失措ニ在ラス法官ノ失措ハ未ダ曾テ其證アルヲ見サレハナリト又曰ク茲ニ人ヲ見始ニ依證結案ノ審罪ニ罹リ後ニ事ノ誣陷ナルヲ白ニス此人國庫ニ償復ヲ乞フノ資格アリト謂フノ說ハ余輩ノ與ニスル能ハサル所ナリト然リト雖モ委員ハ亦官沒贖賣ノ其財産ヲ耗亡セシヲ觀ルヤ乃チ斷言シテ曰ク官沒ノ日ニ在ルビウ^{ビウ}ノ財産ノ全價ハ其返還ノ時ニ付シタル競賣ノ直ヲ以テ之ニ回復スルニ足ルヤ否ヤ是レ政府

名譽ノ賜與ニ
關スル王權

ノ須ラフ考察ス可キ所ナリト云々
余輩ノ輪述ス可キ王權ノ次ノ箇條ハ國王ヲ以テ名譽ノ泉源ト爲ス者是ナリト云々
英國臣民ノ勳績功勞ハ英國臣民カ服職スル所ノ英王其人ニアラサレハ以テ判斷シ能ハサルカ故ニ法律ハ品位名譽ヲ許與シ忠臣ヲ賞譽スルノ全權ヲ國王ニ委任セリ蓋シ國王ハ品級賞譽ヲ許與スルニ適セサル者ノ爲メニ此獨權ヲ濫用セサルヲ信スレハナリ此王權モ亦國王諸般ノ他ノ職掌ノ如ク責任宰相ノ議ニ依テ施行セラル、モノタリト云々
上下兩院ハ常ニ此ノ王權ニ干涉ス可ラス何トナレハ若シ世人ヲシ議院ノ懇情推薦ニ因テ名譽品位ヲ得可シトノ思アラシメハ真正ナル諸般ノ責任ハ消滅シ國王ノ稱譽ヲ冀

ハス却テ議院ノ寵愛ヲ求ムルニ至ルヘキ明瞭ナル道理アレハナリ

之ニ關スル議院ノ奏請

然レ此王權ノ施行ニ關シ上下兩院カ勸誘推薦ヲ以テ國王ニ近接スルコト國王ノ寵顧ヲ受ク可キ者ニシテ看過セラレ或ハ輕視セラレタル功勞アル官員ヲ保護スルコトハ之ヲ正事ト見做スノ變例ナキニ非ス

千八百四十五年六月三日ニ於テヒュームハ英國女王ニ上言シテサー、ヘンリー、ポッチンガーノ卓然タル勤勞特ニ支那勤務ノ賞トシテ其適宜ト思考スル養老金ノ許與ヲ請フ可キ旨ヲ開陳セリ大宰相サー、ロベルト、ピールハ下院カ官員ヲ賞譽スヘキ王權ヲ侵シテ賜與シタルノ先例ヲ作ル一疑問ナル旨ヲ陳テ下院ノ干渉說ヲ攻撃セリ然レ

氏ハ其特別ノ變例ナルヲ知レルカ故此勳議ニ抵抗セサルノミナラス且ツ自ラ此高名ナル人ニ對シテ適宜ノ賞譽ヲ許與セラレノコトヲ女王陛下ニ上言スルノ勞ヲ負擔スヘシト明言セリ此議ハ終ニ可決セラレ
千八百五十七年英國政府ハクリミヤノ役ニ尽力セルカ
一、ジョン、ムネイルコロチル、タルロックノ功勞ニ酬ユルニ緩慢ナリシノミナラス二人ニ許與スルニ不充分ノ賞ヲ以テシタルカ故下院ハ二人ノ勳功ヲ熟考シテ英王ヨリ稱譽ノ特別ナル記號ヲ許與スヘシトノ旨ヲ請求スルノ奏議ヲ通過セリ内閣モ亦下院ノ請求ニ從ヒ敢テ奏議ニ抗論セス却テ陛下ニ懇懇スルニ懇篤ナル答辭ヲ附與セラレシコトヲ以テス

千八百六十五年六月十六日ハンバリー、トラシーハ近來「ナルダー、オス、ゼ、パッス」爵ノ授與ニ關シテ軍人社會ニ行ハル、不滿ノ景況ヲ演ヘ且之カ組織變更ニ關スル制規ノ寫ヲ求ムルヲ動議ヲ起シテ下院ノ注意ヲ惹ケリ暫時ノ討論後大宰相ヨリ簡單ナル説明アリテ動議ハ廢棄セラ

下院ノ議長

憲法上ノ慣習ニ依リ下院議長ノ滿期退職ニ當テハ聖恩ノ著明ナル票証ヲ許與セラレテ國王ニ奏請スルヲ常例ナリ此奏請ニ對シ國王ハ議長ヲ舉テ貴族ト爲シ此品位ヲ支持セシメソカ爲メ財錢ノ豫備ヲ爲ス可キ旨ヲ下院ニ通知ス貴族ヲ叙任スルハ國王固有ノ特權ニシテ議院モ之ニ關與スルコト得ズ此特權ヲ羈束スル者ハ唯々責任執政官ノ奏

一代貴族

請ニ依テ之ヲ使用セサル可ラサルノ制規アルノミ
千八百五十五年上院ハ國王カー代貴族ヲ叙任スルノ疑問ヲ精細ニ討論ス千六百八十八年ノ革命以來ハ一代貴族ヲ叙任スル國王ノ特權ト雖モ受任者ノ上院ニ列席發言スルヲ許ス能ハサル憲法ノ慣習ト一致スルニ非サレハ之レヲ使用スル能ハサルニ至レリ先例ヲ按スルニロイド、ウエッスレ、デールハ一代貴族ニ叙セラレタレモ其後問モナク世襲貴族爵ヲ授與サレタル迄ハ上院ニ出席セサリキ
議院ノ慣習ハ兩院カ海陸軍其他ノ官人ノ功勞ニ對シテ謝詞ヲ議決スルコトヲ許ス此種類ノ發言ニ關シテハ種々ノ規則アリ最初ハ總テ斯ノ如キ動議ハ名譽ノ泉源タル國王ニ代テ行政員ヨリ發ス可キ慣例ナリシト雖モ此規則ニハ固

議院ノ謝辭

ヨリ變例ナキニ非ス唯タ在野議員ヨリ發シタル動議ニシテ成功セル者甚タ少ナシ

例ハ千七百九十四年六月廿日國務尙書ダンドスノコルシカ遠征ニ關係セル士官及ヒ其他ノ者ニ謝詞ノ議ヲ發スルヤセリダシハ某々ノ士官ノミニ謝詞ヲ限ルノ修正說ヲ陳ヘタリ然レハ此修正說ハ拒絕セラル千七百九十七年三月三日キーンハサト、ジョン、シュルヴースニ謝詞ヲ贈ルノ議ニ對シテ奏議ヲ上テ聖恩ノ或ル著明ナル票証ヲ許與セラレンヲ請フ可シトノ修正說ヲ起セシト雖モ終ニ自ラ之ヲ引キ去ルノ止ム可ラサルニ至リ千八百三年八月十日ジョリダシカ義勇隊常民隊ノ爲メニ發言シタル謝詞ノ議ハ一同ノ賛成ヲ得タリ千八百廿八年

一月十四日ホップハウスハナハリシ戰爭ニ關係セル官人ニ謝詞ヲ贈ル可シトノ議ヲ提出シタレハ行ハレサリキ大將若クハ水師提督ノ下位ニ列スル者或ヒハ一軍ノ指揮ヲ執ラサル士官ニ各別ニ謝詞ヲ贈ルハ議院ノ慣行ニ反對ススル武官ハ之ヲ集合シテ一齊ニ謝スルヲ多シ印度ノ騷亂鎮定ノ後チ勇氣決心ヲ以テ好テ當時ノ兵務ヲ爲シタル豪氣ナル文官ハ之ヲ集合シテ一通ノ謝詞ヲ贈レリ又千八百五十四年十二月十五日議院ハクリミヤ戰爭ニ際シテ女王陛下ノ陸軍ヲ助援セルセテラル、カンロベルトハ佛蘭西軍兵トニ謝詞ヲ發言シ將軍ロード、ラグランニ請フテ之ヲ通達セシメタリ

議院ハ事ノ終ルヲ待テ謝詞ヲ發言スルヲ例トス假令明亮

ナル功蹟アル者ト雖モ未ダ其事ヲ終ヘス全勝ヲ得サルニ於テハ爲メニ謝詞ヲ發言スルヲナシ謝詞ハ管々奏功者ニノミ贈ル可キ者トス故ニセネラル、ウヰリヤムハカガニスニ於テ豪氣ナル防禦ヲ爲セシト雖モ其堡砦終ニ降レルヲ以テ謝詞ヲ與フルヲ得ス

大英國ノ公然宣戰シタル敵國ニ對シテ得タル勝利ニ非レハ其勝利ハ如何ニ赫灼ナリトモ如何ニ功績アリトモ如何ニ充分ナリトモ議院ハ之カ爲メニ謝詞ヲ與ヘサルナ例トス然レモ近年特ニ印度ノ役ニ於テハ之ヲ主張シタル者ナカキ印度ニ於テ奏シタル勳功ヲ謝スルヒハ唯攻守爭鬪ノ事ノミヲ言テ毫モ戰爭ノ起原ト可否トニ言及セサルヲ例トス是レ獨リ政府ノ責任ヲ負フ可キ所ニシテ軍人ノ

關知セサル所ナレハナリ

謝詞ハ常ニ生存者ニノミ是ヲ贈リ既ニ死シタル官人ノ行爲ニ關シテハ其人ノ位爵勳功ニ拘ハラズ讚美ノ決議案ヲ採用シタル先例ナシ然レモ千八百五十四年クリミヤノ役ニ戰死シタル勇者ニ關シテ稱賛慰撫哀憐ノ決議案ヲ採用セリ

謝詞中ニ記入ス可キ氏名ニシテ偶然之ヲ漏ラシ若クハ謬レル時ハ改正ノ動議ニ依テ之ヲ改ムルヲ得ベク或ヒハ更ニ完全ナル者ヲ採用センガ爲メ前令ヲ廢棄スルヲ得ヘシ千八百四十三年支那駐劄公使ニシテ且特命全權大使ナルサー、ヘンリー、ポッチンガムノ氏名ヲ同國トノ戰爭中ニ奏シタル勳功者ニ對スル謝詞中ニ加ヘンヲ發議セル者アルニ

方リサー、ロベルト、ピール説テ曰ク英國政府ノ外交官ニシテ
 假令緊要ナル一ノ商議或ヒハ英國ノ利害ニ有益ナル一ノ
 條約ニ充分ナル功績ヲ奏セシコトアリトモ未タ議院ノ謝
 詞ヲ受タルノ例証ナシ此等ノ事ニ就テハ嚴ニ先例ヲ遵守
 スルヲ可トス然ラサレハ謝詞中ニ漏レタル人物ハ恰モ議
 責ヲ受クルト同様ノ結果アル可シトロイド、バイメルス
 シハ後チ此主義ヲ説明シ且主張シテ曰ク議院ハ常ニ外交
 官ニ謝詞ヲ贈ルコトヲ避ケタルカ如シ是正當ノ措置ナリ何
 トナレハ外交官ハ其政府ノ命令ヲ受テ働ク所ノ人物ナリ
 ハナリ政府議院ニ多數ヲ得ナカラ其外交官ニ謝詞ヲ發言
 スルカ如キハ其實政府自ラ己ニ謝詞ヲ發言スル者ナリト
 然レモ同年ロイド、ブローハムハ上院ニヒュームハ下院ニ各

々ワシントン條約ノ商議ニ對シ特命全權公使ロイド、アッシュ、
 バルトンニ謝詞ヲ贈ラシコトヲ發議スガリ、ロベルト、ピール
 ハ動議ヲ可認シテ曰ク是レ常法ヲ以テ規ス可キ場合ニ非
 ラス蓋シロイド、アッシュ、バルトント其條約ト非難スル者
 多キ公ハ議院ノ意見ヲ問フテ其行爲ノ可否ヲ定メサルヲ
 得サルニ至リタレハナリト、氏又曰ク此動議ノ先例ナキコ
 疑ヲ容レスト雖モ現在ノ如ク非難ノ動議起レルニ方テ議
 院カ明ニ其意見ヲ陳述センコトヲ主張セル先例ハ甚タ多
 然レモ他ノ場合ニ於テ斯ル先例ヲ設ケ或ヒハ續クルコト
 危険トスル余ノ意見ハ決シテ變セサルナリト動議ハ終ニ
 兩院ノ一致ヲ得テロイド、アッシュ、バルトンノ認承スル所ト爲
 レリ

免許狀ヲ許與スル王權

交社ニ或ル特別權理、特許、納稅免除ニ係ハル免許狀ヲ許與スルハ王權部内ノ事ニシテ樞密院ニ於ケル命令ヲ以テ之レヲ施行ス往時ハ此王權甚ダ廣大ニシテ國王ハ無限ノ立法權ヲ有シ多少國法上ノ性質ヲ備タル自由免許狀ヲ國內并ニ國外ノ人民ニ許與セリ然レモ英國政治上ノ規律ノ發成進歩ハ漸クニシテ斯ル特權ヲ限制シ今日ニ至テハ大英國若クハ其殖民地ニ於テ政權ヲ與フルノ免許狀ハ議院ノ一致ヲ得スシテ許與スル能ハサルコト爲レリ國王ハ法律外ノ權力ヲ有スル所ノ交社ヲ創設スルヲ得ヌ例ハ專賣權若クハ國民ニ課稅スルノ權ヲ有シタル交社ヲ創設スルヲ得ス若シ此ノ如キ特許ヲ有シタル交社ノ創設不可キアラハ王權ノ缺處ヲ補フガ爲メニ立法權ヲ喚起セサル可カラ

ス
地方及ヒ都府ニ結合スル所ノ交社ハ此王權ノ施行ニ關シ法律ヲ以テ定メラレタル手續ニ順フテ之ヲ創設セサル可ラス例ハ住民ノ請願アルニ方リ女王陛下ハ都府交社會ニ依リ樞密院ノ議ヲ以テ結社ノ免許狀ヲ許與スルノ權理ヲ有ス
國王ハ曾テ大學校、中學校、會社、其他ノ公社ヲ准許シ免許狀ヲ以テ國法ト兩立シタル威權特許ヲ許與スルノ王權ヲ施行シタルノミナラス今尙ホ是ヲ施行ス然レモ商業上ノ目的ヲ以テ結社シタル會社ハ通例立法部ニ依テノミ與フルコトヲ得可キ權力ヲ要ス往古國王ノ准許ニ依テ創設シタル英國銀行ノ如キ者ト雖モ他ノ公ケナル會社ト同シシ議院

愛蘭大學校

ノ令ニ依テ近年其特權ヲ得タリ
 千八百六十四年陛下ハ愛蘭大學校ノ免許狀ヲ廢シテ大
 ニ其組織ヲ變更セル所ノ新免許狀ヲ許與セリ是ヲ許與
 スルニ當リ其趣意ヲ豫メ議院ニ通スルコトヲ得セシメサリキ
 校ノ議員ノ外政府ノ意向ヲ知ルコトヲ得セシメサリキ
 千八百六十六年英國政府ハ該大學校ニ其權力ヲ增加ス
 可キ免許狀ヲ許與シ又愛蘭后立中學校ノ組織ニ或ル變
 更ヲ爲サシコトヲ決定ス下院ノ之ヲ質問ケルニ及シテ內
 閣員答テ曰ク愛蘭ノ大學教育ニ關スル其意見ト之ニ關
 シテ陛下ニ奏上ス可キ趣旨トハ法律上議院ニ提出ス可
 キ義務アルト否トヲ問ハスシテ之ヲ議院ニ明示ス可キ
 趣意ナリト又曰ク下院ヲシテ大學改良ニ就テ其意見ヲ

發露スルノ機會ヲ得セシメシメカ爲メ后立中學ヨリノ入
 學志願者ヲ大學ニ入ラシムルニ足ル可キ金額ノ支出ヲ
 下院ニ請求シ以テ疑問ヲ起サント欲スル見込ナリト然
 ルニ政府ハ其言ニ違フテ別様ノ方向ヲ取リ后立大學校
 ニ關スル意見ヲ充分ニ公示シタルニ兩院モ之ニ反對セ
 サリキ是ニ於テ執政官ハ后立大學校ノ議員ヲシテ試験
 ニ及第者ハ其何レノ地ニ於テ學ヘルヲ問ハス悉ク入學
 ヲ許スヲ得セシム可キ追加免許狀ヲ發セントセリ然
 レモ是等ノ變更ニ現立校社ノ同意ヲ得ルニ方テ難事發
 生セルヲ以テ政府ハ該大學校ノ管理ニ付テ陳述シタル
 改良ヲ實行センガ爲メ議案ヲ提出セント欲スル旨ヲ告
 ケタリ此際ラッセル内閣ハ議院改革案ノ下院ニ敗ヲ取リ

シカ爲メ退職シタルハ其辭職ヲ決定シタル後チ二日保
 狀ヲ發シテ新免許狀ニ大璽ヲ鈐サント命ス後チ一週
 日ニシテ大學校ノ議員ニ六人ノ増員ヲ命スル女王ノ手
 書出ツ是レ議員ヲシテ免許狀ヲ領諾セシメシカ爲メナ
 リシニ似タリ然ルニ大學校議員ハ前内閣員ヨリ此事ニ
 關スル其處置ニ附テ説明ヲ得ント欲シ新免許狀ノ商議
 ヲ他日ニ讓レリ是レ議員ノ一人タルサリ、ロベルト、ビー
 ルノ説ニ依テ成レル者トス新内閣組成後下院ノ再召集
 會スルヤサリ、ロベルト、ビールハ直チニ告テ曰ク前内閣
 ハ君主ノ愛蘭ナル大學教育ニ關シテ措施スル所アルニ
 先テ下院ヲシテ政府ノ之ニ關スル政策ヲ論議セシム可
 キ旨ヲ約セリ然ルニ約ニ背テ之ヲ論議ス可キ機會ヲ與

ヘサリキ是レ余ノ怪訝ニ堪ヘサル所ナリ余ハ他日ヲ以
 テ其所以ヲ尋問ス可シト七月十六日ニ至テサリ、ロベ
 ルト、ビールハ新免許狀ノ出タル情狀ヲ論シ且ツ前任執政
 官若シ其行爲ニ付テ満足ナル説明ヲ與ヘスシハ新免許
 狀ノ廢棄ヲ請願スルノ奏議ヲ提出ス可キ旨ヲ陳フ前任
 内閣員サリ、ジョ、クレイ、ラナルテスキュト、グラッドストーン
 等之ニ答テ曰ク余輩ハ既ニ此項ニ關スル政策ト意趣ト
 今充分ニ議院ニ通知セリ是レ將ニ施行セントシタル事
 項ニ付テ豫メ責任ヲ議院ニ分タント欲セルカ爲メニ非
 ス議院ニ若シ其心アラハ充分是ヲ妨クルヲ得セシ
 ム可キ告知ヲ下院ニ與ヘント欲セルカ爲メナリト新任
 檢事サリ、エッチ、ケアルンスハ前任執政官ノ此件ニ就テ下

院ヲ欺ク可キ意趣ナカリシヲ証言シタレハ尙ホ下院
 ハ誤解シ易キ言語ノ爲メニ誤ラントノ説ヲ抱ケリ
 氏又論シテ曰ク前内閣員ハ既ニ辭表ヲ呈シテ其職掌恰
 モ休憩セルニ際シテ免許狀ヲ出シ大學校議員ヲ新任ス
 ルノ權理ナシト出納検査長オスレーリハ愛蘭教育ノ全疑
 問ハ政府當ニ之ヲ審案ス可ク之ニ關スル政府ノ政畧ハ
 好時機ノ至ルヲ待テ議院ニ通知ス可キ旨ヲ陳テ此議論
 ノ局ヲ結ヘリ

國王ハ品級名譽ノ泉源ナルヲミナラス憲法ニ依テ公務ヲ
 行ヒ國威ヲ保持スルニ必用ナル官職ヲ創設スルヲ全權ヲ
 委托セラレ國王ハ此王權憑テ官職ニ任ス可キ者ヲ撰拔シ
 撰拔シタル者ノ各々受ク可キ俸給ヲ決定シ其職別ニ順テ

官職官吏ニ關スル王權

テ是等ノ官人ヲ免職スルノ權理ヲ有スルニモイハレハ
 公務ノ各官職ハ間接或ハ直接ニ其威權ヲ國王ヨリ受テ法
 律上ニ於テ名譽ナルヲト考定セラル何トナレハ卓越シタ
 ル才識ヲ有シ且ツ常ニ官職ニ最モ善ク適シタル者ヲ任ス
 ルトト想像セラルレハナリ官職ハ國王ノ恩賜ナリ何トナ
 レハ英國ノ法律ハ國王ノ如ク其使用スル所ノ官人ノ價值
 性質ヲ善ク判斷スル者ヲシトスレハナリ

國王ノ新官ヲ創設スルヲ得ルハ猶ホ其新爵ヲ創設スルヲ
 得ルカ如シ然レモ有俸ノ新官ヲ作り又舊官ニ新給ヲ添加
 スル能ハサルノ制限アリ蓋シ俸給増加スレハ人民ニ課税
 セサルヲ得スシテ議院ノ令ニ依ラサレハ課税スルヲ得サ
 レハナリ國王議院ノ一致ヲ得ルニ非レハ異例ノ法式ヲ以

賜與權ノ誤用

テ古昔ノ官職ヲ許與スルヲ得ス又憲法ト固立セサル官職
 或ハ仮令無給ナリモ此主意ニ有害ナル官職ヲ創設スルヲ
 得ス又年期ヲ約シテ裁判官ヲ許與スル能ハス然レモ執政
 官職ハ此制規ニ順フヲ要セス
 往時ハ勿論シヨ一ヨ三世ノ如キ近代ト雖モ國王ハ屢々其
 賜與權ヲ誤用シテ單ニ政治上ノ陰謀ノ爲メ任免ヲ恣ニセ
 リ州郡ノ官吏若クハ海陸軍人ノ如キ事務官人ト雖モ議院
 ニ於ケル發言ノ爲メ國王ハ其命令ヲ以テ屢々是ヲ免職セ
 リ又朝廷ニ尽シタル勤勞ニ因テ有俸無職ノ官吏ト秘密ノ
 年金ヲ受クル者トハ大ニ其數ヲ増加シ從テ國王ノ不當ナ
 ル勢力大ニ増加スルニ至レリ然レモト大約財政ノ改良ハ
 エドマンド、バルタカ尽シタル憂國ノ勤勞ニヨリテ此ノ如

政務官事務官

キ弊害ハ是ヲ發露救治セリヨヨミテ三世登位ノ始メニ方
 テ議院ハ散官ヲ廢シ官職ノ許與ヲ整正シ之ト連續セル弊
 害ヲ矯メンカ爲メ數令ヲ通過ス今百年紀ノ初メヨリ恩賜
 ノ配與ニ關スル政府ノ施爲ト輿論ノ風潮トハ著ク進步シ
 今ヤ執政官ハ百年前ニ無罰ヲ以テ行フヲ得タルガ如キ
 所業ニ依テ妄ニ官人ヲ任免スルヲナキニ至レリ天下輿論
 モ亦次第ニ此ノ如キ行政權ノ施用ヲ以テ或ル制規ノ管轄
 ヲ受ク可キ者ト爲スニ至レリ此制規ハ過半不文律ニ依テ
 其力ヲ有スト雖モ實際政府ノ認許スル所ニシテ數多ノ弊
 害ヲ排除セリ

文官ニ關スル近時ノ最モ重要ナル制規ハ之ヲ殊別シテ事
 務政務官ノ二種ト爲セルニ在リ政務官ハ内閣執政官ト他

ノ行政官トナリテ成リ事務官ハ此中ニ筭人サレザル文官
 ナリテ成ル此殊別ナリ爲スノ主意ハ或ル官人カ明ニ政治上
 ノ資格ヲ行フノ義務ヲ有スルト或ハ然ラサルモ國王ニ密
 接シテ聖威ヲ感動セシムルニ特別ノ力アルヲ以テナリ総
 テ斯ノ如キ職員ハ兩院中ノ一員ト爲リ政府ノ政略ヲ補助
 シテ同僚ト相ヒ助援スルヲ要ス是レ一般ノ制規ニシテ
 此等ノ職員ハ内閣ノ更迭ニ際シテ必ス辭職セサルヲ得ス
 事務官ハ兩院中ノ議員ニ選ヒ難キ者ナリ事務官ハ概テ
 成文律ニ依テ下院ノ議員タルヲ禁セラル好シ法律ニ明
 禁ナキモ既ニ國王ヨリ永久官ヲ拜受スレハ間接ニ政治社
 會ノ不合格者ト爲ル英國ノ内閣ハ政黨ノ主義ニ因テ更迭
 スレハナリ行政官ハ同黨員ト爲テ進退スルノ意アルニ非

事務官吏

レハ下院ノ議員タル同僚ト共ニ動クヲ得ス事務官ノ政治
 社外ニ立ツハ其永ク職位ヲ保持スル所以ニシテ惡行ナキ
 間ハ免職セラレトナシ其元來政治上ノ目的ヲ以テ任セ
 ラレタルト否トナシ問ハス議院ニ列席セサル文官ハ國
 王ノ意ニ任シテ進退不可キ者ナリ然レハ實際ニ於テ事務
 官ハ適宜ニ其職掌ヲ尽ス間ハ動カス可ラサキ權理ヲ有ス
 ル者ト思考セラレ此要義ハ世人ノ普ク認許スル所ニシテ
 今日ハ永久官ノ失行ナクシテ免職サレタル者アルヲ聞カ
 ス
 事務官政務官ノ區別ト事務官ヲ以テ善行中ハ其職ニ居ル
 可キ者ト見做シタル慣行ノ確立トハ施政府ノ更迭ヨリ生
 スルノ弊害ヲ減少セリ是等ノ更迭ヲ唯々小數ナル高官ノ

ミヨ限リ官人ノ大多數ヲシテ永久其地位ヲ保タシムルカ
爲メ事務官ハ諸官局ノ事ニ練達シ其公務執行ニ益スル所
淺少ナラス

官吏ノ屢々更迭スル米國政體ノ害

英國ノ此有様ヲ以テ新大統領ノ就職毎ニ數千ノ官職カ一
ノ政黨員ヨリ他ノ政黨員ニ遷移スル所ノ亞米利加合衆國
ニ行ハル、制度ノ結果ニ比較セヨ此ノ如キ慣行ハ合衆國
公共ノ安寧ニ最モ有害ナル勢力ヲ有セシニ非スヤ此ノ如
クシテ米國ノ官人ハ政治上ノ放逸ヲ長シ責任ヲ感情ヲ減
シ官職ノ義務ニ不注意不關係ヲ養成シ隨テ俸給ヲ貪リ求
ルヲ實ニ甚クシ斯ノ如クシテ官人ハ職務上ノ經驗慣行ヲ
利用シテ諸官省ノ事ヲ操ラシムルヲ禁シ才能ノ士ヲシテ
徒ラニ俸給ヲ貪リ來ルノ有様ニ導キ諸官省ノ改良進歩ヲ

妨ケ諸務ヲ一時ニ受續カシメテ以テ常ニ職務ニ慣ル、大
害ヲ及ホスナハ既ニ嚴密ナル注意ヲ喚起シ米國輿論ノ機
關中最モ有力ニシテ尊敬ス可キ者ナラハ共和政治ヲ維持
セント欲セハ大ニ此制度ヲ變更セサル可ラザル旨ヲ論
タリ當時其記者ノ此弊害ノ性質廣狹ヲ指示シテ官人選抜
ノ爲ニハ吾人ニ普通ノ制規ナカル可ラズ職任ハ其善行ニ
屬セサル可ラズ謹厚才器ノ賞トシテハ登用ナカル可ラズ
老年ノ擁護トシテハ養老金ヲ與ヘサル可ラズ是ヲ再言ス
レハ篤實適宜ノ人ヲシテ公務ニ就キ其職ニ止マリ善ク其
職務ヲ執行セシメシメカ爲メニハ或ル引誘物ナカルヘカス
ト説キ官人ニ關シテ英國ノ習慣ヲ採用スルヲ必要ヲ主張
セリ是レ英國制度ノ他ニ勝絶スルヲ証スルニ足レリ

永久官ノ任命

英王ノ下ニ政務官タルヘキ人ノ選抜ニ關スル要義ハ現在ノ論旨ニ不用ナレハ説明ヲ他日ニ讓ル可シ名譽ト利録トヲ受ク可キ劣等官ヲ選拔スルニ方リ現在施政府ハ重大ノ責任ヲ負擔ス往時屢々英國史上ヲ汚辱シタル彼ノ官職賣買ノ如キハ今日ハ輿論ノ許サレ所ナル可シ官吏タル者ハ高下ヲ問ハス皆其職ニ適スルヲ要ス然ラサレハ政府ノ信用ヲ損シ執政官ハ議院ノ扶助信任ヲ失フニ至ル可シ然レ此主意ヲ保存スル間ハ其政友其扶助者ヲ選テ就職セシムルハ施政府ノ特許トシテ認許サルハ所ナリ何トナレハ政府ヲシテ能ク其職掌ヲ行フコトヲ得セシムルノ權力中ニ於テハ報酬ニ勝ルノ必要物ナケレハナリメイ曰ク之ヲ委託セラレタル政黨ノ利益ヲ進メ勢力ヲ確實ナラシメカ爲

政治上ノ賜與

メニ國王ノ賜與權ヲ使用シタルコトヲ言フ己タ選舉セシメメノカ爲メ官職ヲ約スルハ賄賂ノ一方ニシテ立法府ノ此惡弊ヲ杜絶セシメカ爲メ夫尽力セタルコト既ニ久シ然レモ注意シテ法律ニ違犯セザル間ニ執政官ハ往時過去ノ勤勞ニ酬ヒ將來ノ扶持ヲ保スルノ道トシテ制限内ニ於テ國王ノ賜與權ヲ用キタルコトアリ地方官ノ如キハ概テ當時ノ執政官ヲ扶助スル議員ノ手ヲ經テ大藏尙書之ヲ任命ス又地方法ハ陛下ノ恩賜ヲ配與スルヲ以テ其權理ト爲ル公然政治上ノ連絡ヲ固フセシカ爲メニ是ヲ分與シタリ千八百六十五年五月廿四日愛蘭總裁ロード、カ、リ、スルハ該國ノ地方官ヲ任命シタルニ上院其説明ヲ求ム乃チ選拔ヲ不當ナラサルヲ辨解スルニ當リ陳テ曰ク若シ余ヲシテ政府ト政治

事務官ノ任命
寺院

上ノ意見ヲ同フセサル人物ニ依頼スルヲ得セシメハ余ハ
勿論一層適任ノ人物ヲ搜出スルヲ得タル可シ然レモ余ハ
強固ナル反對ノ道理アルニ非スハ余ハ何時高顯ノ地位
ヲ與ヘント欲スルコアリトモ是ヲ女王陛下ノ政府ト政治
上ノ持説ヲ同ウスル者ニ與フルヲ以テ適當ト思考ス是レ
當國普通ノ慣行ナリト氏ニ此説ヲ証セシカ爲メ高尙ナル
種々ノ事例ヲ引ケリ同年六月廿六日下院ニ於テ愛蘭總裁
ハ某職員ヲ命スルニ方テ其任ニ適スルヤ否ヤ未考索セサ
リキトノ決議案ヲ提出セル者アリシカ其無根拠攻撃ナル
事明白ナリシヲ以テ否決セタルニハ然リシ也
吾人ハ今モ夥多ニシテ重要ナル此慣行ノ變例ヲ論議シ
院ノ官職ヲ配與スルニ方テ是ヲ現存政府ノ黨人ニ限

陸海軍

ルハ制規ニ非ズ教正其他寺院ノ高官ハ大宰相ノ推薦ニ因
テ任命スルヲ常例トス大宰相之ヲ推薦スルニ際シテ政
治上或ハ局部ノ利害ニ偏ヒス寺院一般ノ利害ニ注意セサ
ル可ラス寺院ノ劣等官職中大法官ノ權内ニ在ル者甚多
シ大法官ハ宗教上友義上及ヒ政黨上ノ意見ニ從テ之ヲ配
與スルヲ得可シ
陸海軍官ト海軍ノ文局ニ使用セラレ、者トテ任命昇進ス
ルニ方テハ其政治上ニ抱ク所ノ意見ニ因テ區別ヲ宜シル
コトナシ陸海軍ニ於ケル昇進拜命ハ其勤勞ト功績トニ因テ
之ヲ爲サ、ル可ラス是レ國王ノ賜與權ヲ委任セラル、者
ノ義務ニシテ世人ノ普ク認承スル所ナリ執政官若シテ斯ル
場合ニ於テ政治上ノ意見或ハ黨派心ニ因テ刺衝セラレ其

法官

意見ノ已ト合フカ爲メニ劣者ヲ撰フコアラハ必ス汚名ヲ被ル可シ民兵隊ノ昇進ハ年功ヲ以テ舉行スルコト常法ナリ法官ノ任命昇進モ亦此ノ如シ政務官タル大法官ト通常陛下ノ顧問法官ヲシテ之ニ就カシムルコトモ、ブリト大裁判所長「クウキーンズ、ベンチ」裁判所長トテ除クノ外ハ英國ニ於テハ政治上ノ黨與ヲ擧テ法官ト爲ストヲ得ズ愛蘭ニ在テハ斯ク嚴重ナル制規行ハレス千八百五十二年ト千八百五十八年トニ於テデルピ「内閣」反對黨員ヲ擧テ愛蘭ニ法官ニ任セシト雖モ何レハ政府モ同黨員ヲ擧テ愛蘭ニ法官トスル通常ナリ

ロ「ド、パトメ」スト「劣等文官」ノ任用ヲ論シテ曰ク政治上ノ意見ニ關セスシテ之ヲ任用セサル可オカト

文官ノ任用

文官ノ昇進ニ關シテモ亦政府ハ嚴重ナル規律ヲ制定實行シ有司ヲシテ政治上ノ勢力ニ頼テ昇進ヲ得ル能ハサラシム重立タル行政部局ノ長官ハ上下兩院ノ議員ニ回狀ヲ送テ樞密院ニ於ケル命令ヲ示セリ該命令ハ叙任昇進ヲ以テ兩院ノ議員ヲ動スコトヲ嚴禁シ又政治上其他間接ナル勢力ニ因テ昇進ヲ得ント企ツル者ハ之ヲ罰ス可キ旨ヲ明言セラル者ナリ又官吏ニシテ法律上其撰擧權ノ使用ヲ禁セラルタル者甚タ多シ是レ長官ノ不當ナル政治上ノ勢力ニ因テ左右セラレシコトヲ恐ルハ故ナリ撰擧權ニ制限ナキ他ノ場合ニ於テハ干涉ヲ受ケスシテ獨立ノ使用ヲ全フセシム可キ方法ヲ施セリ此等ノ處置ト官吏ヲ任用スルニ方テ用フル試檢法ハ大ニ政黨上ノ目的ヨリ生スル賜與權ノ誤用

君主ノ叙任權
及ヒ其廣狹配
與

ヲ防キタリ
 大英國ニ於テ君主ノ叙任權ハ總計殆ント十萬五千ノ官職
 ニ及フ黨派ノ勢力特ニ僅少ナル數種ノ叙任ヲ除クモ猶ホ
 現任執政官ノ友人及ヒ扶助者中ニ配與スルヲ得ヘキ者數
 多アリ斯類ノ叙任權ハ概テ大藏ノ議院尙書若クハ關係セ
 ル部局ノ政務尙書ノ手ヲ經テ之ヲ施用ス彼ノ試験法ニ依
 テ卑屬ノ官職ニ任用セラル、者ノ如キモ亦此中ニ在リ重
 立タル内閣員ハ之カ爲メ其地位ヲ危フセシメテ恐レテ高
 ク斯カル措置ノ外ニ立ツ然レモ諸官局ノ政府長官ハ假
 各個人ノ任用ニ對シテ責ヲ負ハストスルモ叙任ニ關スル
 大體ノ制規ニ向テハ固ヨリ責任ヲ免ル、能ハス
 叙任權ニ關スル弊害ヲ攘除センカ爲メニ設ケタル競争試

文官ノ競争試

驗

驗法ハ吾人既ニ之ヲ學ビタリ
 文官ノ組織ハ往昔ヨリ樞密院ニ於ケル陛下ノ命令ヲ以テ
 之ヲ整理シタリ近年ニ至テ之カ改革ヲ施行シ千八百五十
 五年五月廿五日ノ樞密院ニ於ケル命令ヲ以テ文官ノ任用
 ニ競争試驗法ヲ設定セリ諸部局ハ漸次此法ヲ採用シテ或
 ハ無限競争法ヲ用フルアリ或ハ候補者ヲ三名ニ限リ所有
 限ノ競争法ヲ用フルアリ印度部ノ文官醫官陛下ノ學務官
 其他二三ノ文局ハ無限競争法ニ因テ之ヲ供給シ以テ執政
 官ニ叙任權ヲ付與セサルニ至レリ然レモ制限競争法ニ行
 ハル、官局ニ在テハ執政官ノ叙任權ヲ減少セスシテ却テ
 之ヲ増加セリ例ハ嚮ニハ劣等官職ニ欠員ヲ生スルニ方
 大藏省ノ叙任尙書ハ現存政府ノ扶助スル議員ノ推薦ニ因

テ叙任權ヲ使用シタレトモ今ハ欠員一名アル毎ニ三名ノ議員ニ指名權ヲ與ヘ或ハ之ヲ一名ノ議員ニ與ヘテ意見通リニ推薦セシムルヲ得ヘシ

千八百六十二年五月廿九日ロードパーメルストンハ文官任用ノ競争試験ニ關スル現制度ヲ説明シテ曰ク候補者ヲ試験スルニハ先ツ缺官ニ必要ナル才藝ノ最少程度ヲ有スルヤ否ヤヲ試験シ然ル後欠員毎ニ三人ノ候補者ヲ撰拔シテ之ヲ競争試験ニ問ヒ其缺所ニ最モ能ク適シタル者ニ其官職ヲ付與スト

官吏任用ノ責任

名ノ過クル者ナシ且ツ格段ナル人物ヲ以テ格段ナル職任ニ適セシムル所ノ資格ハ唯々此人物ヲ知ル者或ハ此人物ノ行爲ト之ヲ判斷ス可キ地位ニ立ツ者ノ具狀トニ依テ此人物ヲ試験判斷スルヲ以テ其業務トスル者ノミ之ヲ認知スルヲ得ヘシトミルハ民會ニ依テ職員指名スルコトヲ贊成スル者ノ意見ヲ駁シテ曰ク官吏任用ノ責任ヲ負擔スルトヲ得ヘキ高官大官ニシテ此等ノ義務ヲ等閑視スル此ノ如クンハ之ヲ負擔スル能ハサル民會ハ當サニ如何ナルヘキ乎今日ト雖モ極惡ノ任用ハ代議會ニ於テ扶助ヲ得抗敵ヲ壓服センカ爲メニスル所ノ者はナリ若シ代議會ニシテ自ラ官吏ヲ任用スルコトアラハ其結果寔ニ如何ンヤ多人數ノ集合体ハ決シテ資格ヲ介意セサルナリ代議會ノ任用ハ

議院ノ役員

若シ常例ノ如ク党派ノ關係一身上ノ私利ニ基カスハ必
 ス浮名虚譽ニ基ケル者ナル可シ浮名虚譽ハ以テ人ノ能否
 チ斷スルニ足ラサルナリト

上下兩院ノ役員奴僕ト雖モ議院ハ自ラ之ヲ任命ス重立タ
 ル官吏ノ場合ニ於ケルガ如ク國王ノ辭令書若クハ錄事議
 院警視官、黒票監吏若クハ議長之ヲ任命ス下院ハ其議長ト
 徴収委員會長トヲ撰任シ上院ハ其委員長ト私議案ノ驗査
 員トヲ撰任ス兩院共同ノ奏議ヲ呈スルニ方テ下院議員ノ
 撰擧ニ行ハルハ弊習ヲ調査セシメンカ爲メ事務掛任命ヲ
 許セル少^サト^リヤ第五十七種十五号十六号ノ布令ハ奏議
 中ニ指名セラレタル人物ヲ以テ事務掛ト爲ス可キ旨ヲ明
 記セリ奏議ハ先ツ之ヲ下院ニ提出シ其中ニ事務掛ヲ指名

諸官局ハ皆代
 表者ヲ議院ニ
 出サ、ル可ラ
 ス

永久官ハ皆政
 務長官ニ服屬
 ス

スルヲ常例トス

文職ヲ政務官事務官ニ殊別シタルトト施政府ノ吏カ悉皆
 ノ劣等官吏ニ勝絶スルコトノ必要ナル結果ニ依テ英國ノ
 議院制度ハ諸官局ヲシテ直接或ヒハ間接ニ上下兩院ニ代
 表セシム常務ノ細目ニ至ル迄施政上ノ行爲ニ關シテ
 責任ヲ負擔スル所ノ政務長官此職任ニ當ル政務長官ハ諸
 部局ヲ管理スルノ全權ヲ握ルカ故職務上ノ行爲ニ向
 テ責任ヲ負擔セサル可ラス其屬官若シ一身上ノ失行アル
 ニ非スハ國務執行ノ方法ニ就テ之ニ罪責ヲ歸スルヲ得
 ス

ロード、グレン、曰ク永久官職ニ居ル者ヲシテ悉ク議院ニ責
 任アル執政官ニ服屬セシムルハ決シテ專恣ナル制規ニ非

ラス何トナレハ是レナケレハ英國政体ノ(議院カ行政諸官局ヲ管理スル)第一義ハ放棄セラル可キ明ナレハナリ然レト後ニ示スカ如ク議院ノ管理ハ大体ニ及フ可キ者ニシテ直接ニ政府ノ属官ノ事ニ干涉スルヲ得ス執政官優長法ノ嚴肅ナルヤ職務上交通ノ正シキ道即チ國務尙書或ヒハ其他勅命ノ執行ヲ司ル官吏ノ手ヲ經ルニ非スンハ兩院ハ何レノ官吏ニモ命令ヲ與フルヲ禁スルニ至ル

君主ハ官吏ヲ免黜スルノ全權ヲ有ス

國王ハ其特權ニ依リ責任宰相ノ議ヲ以テ其官吏ヲ免黜ス可キ全權ヲ有ス宰相ニ與フルニ其公務ヲ輔助スル吏員ヲ統轄スルノ威權ヲ以テセンカ爲メニハ斯ル權力ナカル可ラス宰相ニシテ其属僚ヲ統轄スルノ威權ナケレハ其事務

免黜ハ唯タ無能ト失行トヨリ起ルヲ得可シ

ヲ舉行スルノ方法ニ附キ議院ニ向テ責任ヲ負擔スル能ハサルナリ然レモ善行間其職ニ居ル可キ吏員ニ在テハ此制規モ變例ニ從ハサルヲ得ス彼ノ判事ハ出納管理官會計檢査官其他ノ職員ハ皆此制規以外ニ居ル者ナリ是等ノ職員ハ其地位ヨリシテ一生間在職ス可ク上下兩院ノ奏議ニ依ラサレハ(卑職ナル某官吏ヲ除クノ外)免黜ス可ラサル者ニシテ君主ノ勢力ヨリ獨立ス可キ者トス政府ハ皆ナ固ヨリ何時免職ヲ以テ公務ノ急事ニ必要ト思考スルモ好意ノ間其職ニ居ルヲ得可キ官吏ヲ免黜スルノ權理ヲ有セサル可ラス然レモ無能或ヒハ失行ノ外事務官ニ居ルノ人ヲ免職ス可ラサルハ制規トシテ認承セラル、所ナリ故ニ他ノ源由ヲ以テ免職スルカ如キハ大ニ不可

ナリ況ンヤ政治上ノ考案ヨリ之ヲ免黜スルニ於テヲヤ然
 レモ事務官ニシテ政務ニ干渉スルカ如キヲアラハ之ヲ免
 黜スルニ充分ナル失行ト視做スヲ得可シ總テ斯ノ如キ職
 員ハ嚴正中立ノ地ヲ保テ政治上ノ抗爭ニ關與ス可ラス是
 レ立憲政府ノ通則ニシテ若シ反對ナル慣行ノ流行スルア
 ラハ前政府ト更迭シタル反對黨ハ前内閣ヲ保持シタル者
 ニ復讎スヘシ復讎ノ惡弊一タヒ生スレハ官吏ノ變更スル
 者極テ多ク職務ニ於ケル經驗ノ生長ヲ妨害シ公務ノ功力
 ヲ毀傷スルニ至ラント必セリ

合
 ビールスノ場

千八百六十六年八月大判事アレキサンダー、コックハルン
 ハ急激ナル議院改革ヲ行ハンカ爲メ頗ル政治ニ關與シ
 タリトテミッドルセックス州ノ撰舉人檢査掛エドマンド

ビールスヲ免黜セリ否ナ之ヲ再任セサリキ撰舉人檢査
 掛ハ年々任命ス可キ者ニシテ格段ナル道理アルニ非ス
 ンハ毎年同人ヲ指名スルヲ慣例トス故ニ今ヤ其再任ヲ
 拒メルハ恰モ之ヲ免黜セルニ同シ大判事ハ書ヲビール
 スニ送テ其意趣ヲ説明ス書中云ヘルアリ余ハ決シテ其
 斷然タル政治上ノ意見ヲ保持シ若クハ發露スルカ爲メ
 ニ裁判所ノ役員ヲ以テ撰舉人檢査掛タルノ資格ヲ失フ
 ト思考セサルナリ此等ノ吏員ヲ任用スルニ方テ余ハ唯
 タ候補者ノ其任ニ適スルヤ否ヤヲ觀察シ曾テ其政治上
 ニ如何ナル意見ヲ有セシヤヲ問ヘルコトナシ然レモ世人
 ノ見テ以テ極端ノ意見ト爲ス所ノ者ヲ懷抱シ時ノ政治
 戰ニ拔群ノ位地ヲ占有スル(其何レニ黨スルヲ問ハス)紳

属官ノ忠實

士ヲ擧テ議員ヲ投票ス可キ撰擧人ノ權理ヲ裁斷セシムルハ望マシキ事ニ非ス是レ余カ持説ナリトピールスハ其免黜ヲ不正トシテ頻ニ之ヲ諍フト雖ヒ大判事ノ已ニ對スル厚情友誼ハ之ヲ忘レスシテ認承セリ

凡ソ属官タル者ハ其政治上ニ抱ク意見如何ニ關セス全力ヲ尽シテ長官ヲ扶助シ始終懇篤誠實ニ其職任ヲ遂ケサル可ラス然レヒ此扶助ハ必ス職務上ノ義務ニ限ルヲ要ス其長官ノ爲メニ私説ヲ讓ルヲ要セス又政治上ノ争ニ關與スルヲ許サス單ニ其政治上ノ意見ノ爲メニ属官ヲ貶黜スルノ慣行ハ悉ク有効ナル行政ヲ毀却ス(亞米利加共和ノ實例ヲ以テ之ヲ明証ス可シ)而シテ官吏ヲシテ現存政府ニ活潑ナル抵抗ヲ爲サシムルハ固ヨリ不理ノ事タリ因テ以テ永

フヰツウヰリア
▲ 侯ノ免黜

久官吏ヲ免黜スルヲ得可キ失行ノ區域ハ是ヲ定ムルヲ容易ナラス政治上ニ大激動アル時ハ政府ハ官吏ノ括撥ニ政治ニ干渉スル者ヲ處スル平時ヨリ一層嚴酷ナルヲアル可シ

例ハ千八百十九年黨派ノ感覺正ニ激動セル時ニ方リ忠直ニシテ愛敬ス可キ貴族フヰツウヰリアム侯ハウヰスト、ライオング、ラフ、ヨーシシアノ總裁職ヲ免セラレタリ是ヨリ先キ龍動府ノ奏議ニ對スル攝政太子ノ答詞ヲ非斥ス可キ個條ヲ擧ケ公務ノ現勢ニ關シテ國王ト上下兩院トニ請願書ヲ呈スルカ爲メ地主ノ集會ヲ起スノ企アリ侯之カ爲メニ尽力周旋ス故ニ今マ免黜セラル議院ノ此免黜ヲ查問スルヤ内閣員答テ曰ク是レ適當ニ公務ヲ執行

シ君主威儀ヲ保持スル必要ナル處置ナリ且ツ陛下ノ名譽品格ヲ汚ス可キ意見ヲ保持スルヲ得スト

免職權ノ使用

論者アリ曰ク責任執政官ヲシテ其部下ノ官吏ヲ免職スルニ當テ其權力ヲ誤用セシメサランカ爲メ制定法ヲ以テ劣等官吏ト執政官トノ關係ヲ規定ス可シトロイド、グレイノ言フ所ハ此等ノ說ヲ論破スルヲ得可シ其言ニ曰ク免職權ヲ制限シテ一ニ法廳ニ證明スルヲ得可キ失行ニ止マラシメハ部下ノ官吏ハ執政官ニ抗抵シ又其施政ノ針路ヲ遮斷シ終ニ行政權ヲ萎靡セシムルノ危難ヲ免ル、能ハサル可シ法律ハ執政官ト終身官吏トノ行爲ヲ規定ス可キ充全ノ器械タルニ足ラサル者ノ如シ今日ハ公議輿論ノ勢力能ク此器械ト爲テ法律ニ優ルヲ萬々ナリ今日公議輿論ノ勢力

ノ強大ナルヤ執政官ト雖モ非常ノ失行アルニ非スノハ容易ニ終身官吏ヲ免職セサルニ至レリ然レモ宰相豫メ法律ヲ以テ規定スルヲ得サル失行ニシテ法律上ノ證據ナキモ道義上明確ナル罪狀アリ者ニ免職權ヲ及ホスヲ得スル場合ニ於テハ輿論モ必ズ執政官ノ措置ヲ贊成ス可シト又曰ク官吏ノ進テ其長官ニ抗抵シ或ハ退テ其事ヲ妨クルカ如キハ失行中ノ最モ危險ナル者ナリト雖モ法律ヲ以テ之ヲ抑制防止スルヲ極テ難シ今日斯ル場合ノ實際ニ起ラサルハ畢竟執政官ノ免職權ニ法律上ノ制限ナキニ由レリ若シ制限シテ法律上明文アル失行ノ他ハ免職ス可ラサルト爲サハ執政官ト其屬官ノ爭訟常ニ絶ヘスシテ復タ今日ノ如キ好情ヲ兩者ノ間ニ存スル能ハサル可シ

年金及ヒ退隱料

内治ヲ改良シ國費ヲ節減スルカ爲メ或ル官職ヲ廢スルヲ可トスルコトアレハ常ニ之ニ至當ノ年金若クハ退隱料ヲ支給シ以テ免職者ヲ敬待スルノ慣例アリ曾テ尤費節減ノ事ニ尽力シテ著シキ功績ヲ奏セルエドマンド、バルク云ヘルコトアリ既往ニ遡テ官職ト年金トニ干涉スルハ決シ得策ニ非ス改良ハ總テ將來ヲ期セサル可ラス國家ノ命運ハ人類ノ短命ナルニ比ス可キニ非ス議院ノ懷抱スル目的即チ財政上ノ改良ヲ僅ニ數年早メンカ爲メニ諸人ノ艱苦ト之ニ對スル不正トヲ省ミサルハ不可ナリト其常ニ此高遠ナル主義ニ基ヒテ行動セルハ我カ政府ノ名譽ト云フ可シ議院ハ制定法ヲ以テ國費ヲ節減シ官吏ヲ沙汰スルニ當テ免職者ニ報酬スルノ權力ヲ大藏省ニ附與セリ事若シ制定法ノ

大藏省ニ由テ整理サルヘキ官吏ノ俸給

限外ニ出ルルハ議院ハ之カ爲メ特ニ處置スル所アリ千八百五十七年新ニ離縁及ヒ遺言裁判所ヲ設立スルヤ舊裁判所ニ仕ヘタル檢事ハ皆廢セラレ政府ノ之ニ報酬セル年額ハ毎年十一萬六千磅ノ巨ノ額ニ上レリ
官吏ノ任命及免黜ニ於ケルカ如ク其報酬ニ關シテモ亦全權ヲ政府ニ委任シ以テ公僕ノ等級地位ノ高下ヲ問ハス之ニ附與スヘキ報酬ノ金額ヲ決定セシメサルヘカヲズ王室ニ勤仕スル者ハ其報酬并ニ賞與ヲ直接ニ王室ニ仰カサル可ラス凡ソ國務各部局悉皆ノ官吏(議院ノ決議書ニ由テ其俸給ヲ定メラル、官吏ヲ除ク)ノ俸給并ニ賞與ハ財務委員之ヲ整理シ大藏省ノ布達之ヲ決定ス諸部局ノ長官ハ其屬官ノ俸給ノ變更若クハ増加ヲ大藏省ニ請求スルヲ得然レ

俸給ハ議院之
ヲ決議ス

斯ル請求ハ皆財務上ノ事項ニ於テ他ノ諸部局ヲ管理スル
ノ全權ヲ有スル大藏省ノ精密ナル調査ヲ受ク可キ者トス
公務部局ノ俸給并ニ雜費ハ其豫算書ヲ以テ毎年度下院ノ
檢査ニ附ス而シテ下院ハ各部局ノ費用ヲ支辨スヘキ金額
ヲ逐次ニ決議ス各部局ノ費額豫算書ハ其終ニ於テ費用ノ
記録ヲ掲載ス下院ハ供度委員會ニ於テ或ル格段ナル俸給
若クハ其他ノ費目ヲ削除シテ費額ヲ減スルヲ得ト雖此
權力ヲ施用スルコト稀ニシテ唯々重大急要ノ理由アル時
ノミ之ヲ使用ス上下兩院特ニ下院ハ屬官ニ對スル執政官
ノ行爲ヲ自由ニ檢査論評ス可キ權理ヲ有スルコト固ニナ
リ然レモ明ラカニ不正及ヒ強壓ノ處置ヲ施行セル場合ニ
非スノハ官吏ノ俸給并ニ賞與ヲ整理スルコトニ付キ責任執

財錢上ノ細事
ハ大藏省ニ

政官ノ意見ニ干涉ス可ラズ以テ大藏省ハ悉
悉皆ノ俸給ト各官職ノ類別トハ其批評及ヒ認可ヲ得ンガ
爲メニ毎年度ノ豫算書ヲ以テ之ヲ議院ニ下附スト雖此
例ニ外ツルハモノハ甚々尠少ナリ格別ニシテ且細微ナル
考究ヲナシ以テ俸給ノ割合年度ノ増額并ニ官吏昇進ノ見
込ヲ定ムルハ行政府ト諸部局長官トノ格別ナル職務ナリ
此職務ハ大藏諸大輔ノ執行スル所ニシテ該官ノ自由ナ
ル判斷ニ放任セサル可ラス何トナレハ該官ハ各公務部局
ニ於ケル費用ノ責ニ任ス可キ者ナレハナリ
千八百六十六年二月二十六日ノ日附アル大藏省ノ布達(是
レ前キニ文務諸部局ニ於テ確立セラレタル規律ノ要旨ヲ
包蓄スル者トス)ニ云ハク爾來一般ノ制規トシテ増給若ク

増給ノ請求

ハ養老金ノ加増(若シハ大藏省ノ職權内ニアル官吏昇進ノ
 一)ニ關セル請求ハ即チ請求者ノ附屬セル部局ノ長官ヲ經
 テ通過セラレタルニ非サレハ決シテ大藏省ノ受理スル所
 ト爲ラサルベシ然レモ部局長官ノ斯ル請求ヲ進達スルコ
 チ嫌厭スルニ方リ劣等官請求書ニ添ユルニ長官嫌厭ノ事
 由ヲ以テスルキハ大藏省ハ直接ニ之ヲ劣等官ヨリ受理シ
 以テ其當否ヲ裁定スヘシ
 此布達ハ近來文局ノ屬官カ議員若シハ他ノ有力者ノ手ヲ
 經由シ或ヒハ大藏省ニ對セル直接ノ請願ニ由テ俸給ノ加
 増并ニ昇進等ヲ請求スルノ慣行ヲ生シタルカ爲メ發セル
 モノナリ
 勤務ニ關シ益々嚴密ナル制規ヲ強行スト雖モ大藏省ハ公

禁セラレタル
 政治上ノ勢力

務官カ謹ンテ身上ノ疾苦ニ關スル事項ヲ訟難スルコトヲ妨
 碍スヘキ企望アルニ非ラス、立法府議員ニシテ或ル人物ノ疾
 苦ニ注意ヲ喚起スルヲ以テ其職任ト思考スルコトヲ平
 該議ハ之ヲ議院ニ提出シ若シハ之ヲ大藏省ニ通知スルヲ
 得可シ又官吏ノ報酬其他ノ約束ニ關スル疑問ヲ調査スル
 チ適當ト思考スルコトヲアラン平固ヨリ其意見實行ノ方法ヲ
 施スヲ得可シ大藏省ハ決シテ立法府員ノ最モ自由ナル働
 キヲ障碍スルノ意趣ナキナリ議院ノ代辨ヲシテ成ヘシ輕
 便ナラシメ且ツ此代辨ニ對シテ其不偏ノ注意ヲ與フルハ
 大藏省ノ職任ニシテ亦企望ナリ
 然レモ屬官服從ノ要義ヲ敬重シ文務諸官吏相互ノ關係ヲ
 保持セント欲セハ大藏省ノ將來之カ遵守ヲ主張セサル可

年金給與法

ラサル者アリ何ソ曰ク唯タ請求者其人ノ偏頗ナル陳述ノ
 ミヲ聞テ他ノ意見ヲ聞カサル人物ノ力ニ頼テ劣等官吏カ
 其昇進ヲ要ムルヲ禁スルノ規律是ナリ
 凡ソ公僕ニ給與スヘキ年金并ニ退隱料ハ議院ノ決議ヲ經
 テ支給セサル可ラスト雖モ之ヲ決定スルモノハ大藏諸長
 官ナリ但シ該官ハ其之カ爲メ絶ヘス制定スル所ノ規律ニ
 從テ決定ス可キ者トス往時ハ年金給與ニ一定ノ制規ナク
 其弊害極メテ大ナリシカ故議院ハ該職掌ノ施行ヲ監理限
 制センカ爲メニ其權力ヲ使用セサル可ラサルニ至レリ女
 王安ネノ治世前ニ在テハ至尊ハ王室有ノ財産ヨリ生ス
 ル收入則チ遺傳收入ヨリ年金ヲ支出スルノ權理ヲ執行シ
 且ツ國王ハ法律上其後嗣ヲ之ニ依倣セシムヘキ權力ヲ

年金名簿ノ濫用

保有スルヲ主張シタリ然レモ女王アンチノ即位ニ及ン
 テ遺傳收入ハ其多少ヲ問ハス現王崩御ノ後ニ至ル迄之ヲ
 交付スルヲ禁セル法律ヲ議定シタリザヨージ三世ノ即
 位ニ及ンテ至尊ノ遺傳收入ハ概テ之ヲ王室費ニ引換ヘシ
 カ故從來是等ノ收入中ヨリ支出セル年金ハ爾後王室費ニ
 リ支出スルヲ爲レリ議院ニシテ其需求通りニ王室費ヲ
 議定セル間ハ年金ノ總額ニ限界ナク又一原理ノ其給與ヲ
 制規スル者ナク唯タ之ヲ至尊ト其執政官トノ意見ニ任ス
 ル有様ナリキ
 年金名簿ノ濫用ト動モスレハ不正ノ目的ヲ以テ之ヲ給與
 スルノ弊害トハザヨージ三世ノ在位中屢々議院ノ注意ス
 ル所ト爲リ年金給與ヲ整理センカ爲メ法律ヲ議定シタル

一ニシテ足ラス之ヲ檢査シ又之ニ關シテ至尊ヲ監理スヘキ議院憲法上ノ權理ハ千七百八十二年ハルクノ布告ヲ以テ十分ニ主張確定セラレタリ該布告ハ即チ議院ハ執政官ヲシテ常ニ其責任ヲ避クル能ハサラシメンカ爲メ此王權施用ニ於ケル各例ノ報告ヲ得ヘキ權理ヲ有ストノ原理ヲ以テ秘密年金給與ヲ禁セシモノナリ又該布告ハ年金ハ唯二箇ノ理由ヲ以テ給與ス可キ者ナリトノ原理ヲ認承セリ即チ難澁人ニ對スル王室ノ恩賜若クハ功勞ニ對スル報賞トシテ之ヲ附與ス可キ者トス是レナリ

議院ニ由テ制限セラル

其濫弊ヲ制センカ爲メ議院ハ四世ヨリ四世ヨリウリアム四世ニ至ルノ間絶ヘス年金給與ニ干渉シ今上女王陛下ノ即位ニ及ヒテ終ニ一法ヲ議定シテ王室費以外ノ金額ヲ以

テ給與スルヲ得可キ年金ヲ限テ一年千二百磅ト爲セリ此金額ハ陛下ノ治世間年金支辨ノ爲メニ每歲之ヲ支給ス又此年金ハ千八百三十四年二月十八日ノ下院ノ決議案ニ從テ唯タ下ノ如キ人々ニ附與ス可キ者ト爲レリ即チ王者ノ慈惠ヲ享受スヘキ正當ノ請求權ヲ有スル者及ヒ至尊ニ對セル勤役公共ニ對セル職分ノ執行科學上ノ有益ナル發明文學技藝ノ熟達等ヲ以テ國王ノ敬愛并ニ邦國ノ報謝ヲ受クルニ足ル者はナリ加之ナラス下院ヲシテ其之ヲ希望スルキハ年金給與ニ關シテ意見ヲ陳述スルヲ得セシメンカ爲メ既ニ給與シタル年金名簿ハ常ニ之ヲ議院ニ呈出セサル可ラズ年金給與ヲ陛下ニ奏請ス可キ責任執政官ハ大宰相ニシテ出納檢査長ニ非サルナリ

年金ハ凡テ下院ノ承諾ヲ受ク可キ者トス

年金ノ給與ハ常ニ下院ノ承諾ヲ經サル可ラストハ今日憲法上ノ制規トシテ認承サル、所ナリ養老金給與規則ヲ奉シ確立セル慣行ニ從テ給與シタル年金及ヒ退隱料ノ如キハ議院固ヨリ中道ニシテ之ヲ拒ム等ノ事ナカル可シト雖モ尙ホ年々下院ニ提出シテ其金額ヲ議決セシメサル可ラス養老金給與金規則ト年金給與金規則トハ救助金ヲ(或ル場合ニ於テ其請求權ハ如何ニ鞏固ナリト雖モ)死亡セル文務官ノ寡婦及ヒ家族ニ贈與ス可キ權力ヲ大藏省ニ附與セサルナリ斯ノ如キ年金ハ唯タ王室費ヨリ支出スルヲ得可シト雖モ既ニ記セルカ如ク王室ヨリ支出ス可キ年金ニ定額アリ固ヨリ之ニ超ユルヲ得ス故ニ斯ル救助金ハ格段ナル困苦及ヒ功勞ノ場合ニ於テノミ之ヲ給與シタリ

文務官ノ寡婦並ニ孤子

陸海軍士官ノ寡婦並ニ孤子ハ或ル制度ニ由テ年金ヲ給與セラルト雖モ同様に恩賜ハ民兵隊ノ死亡セル傳令副官及ヒ輜重士官ノ家族ニ及ハス何トナレハ是等ノ士官ハ他ノ士官ノ如ク外役ノ危難ニ遭逢ス可キ恐ナクハナリ余輩ハ今マ官吏ニ關スル王權ノ觀察ヲ全フセリ余輩ハ憲法ハ至尊ニ悉皆ノ官吏善行間ハ其職ニ居ルヲ得可ク上下兩院ノ奏議ニ非スンハ之ヲ免黜スル能ハサル官吏ヲ除キテ任命シ監理シ報賞シ解職スヘキ權理ヲ委托シタルヲ論セリ至尊ハ之ニ由テ官吏ヲ撰任スルニ方テ其威嚴ト獨立トヲ保全シ公務ハ之ニ因テ其功驗ヲ保全ス之ニ反シテ執政官ハ議院ニ對シテ誠實ニ此王權ヲ使用ス可キ責任ヲ負擔ス此責任ハ能ク恩賜ノ配付及ヒ官吏ノ監理解職等

議院カ該王權
ヲ調査スル權
理

ニ於ケル弊害ヲ防制シテ不當ノ事ナカラシム執政官ハ國
家万般ノ公務ヲ適宜ノ狀態ニ保持スルコトニ對シ適任ノ人
物ヲ舉テ悉皆ノ劣等官職ヲ占保セシムルコトニ對シ斯ノ如
キ人物ニ向テ適當ナル報酬ヲ與フルコトニ對シ又此等ノ人
物ヲ保護シテ抑壓若クハ不全不當ナル理由ニ據レル免職
ヲ受ケシメサルコトニ對シテ責任ヲ負擔ス
官吏任命ノ權ヲ操持スル者ハ必ス不忠無能ノ臣僕ヲ罷黜
スルノ權ヲ具ス故ニ臣下ノ才藝俸給ヲ裁定スル者亦此ヨ
リ適セルハ莫シ凡ソ此ノ如キ事項ハ其濫弊汚穢甚々著明
ノ時ニ非ルヨリハ議院ノ干涉ヲ要スルニ至レハ則チ議院
ハ之ヲ調査シテ其事ノ得失ヲ論シ該王權施用ノ當否ヲ言
ヒ或ハ君主ニ奏シテ患害ヲ杜塞セヨトテ請ヒ或ハ自ラ立

該王權ニ關シ
議院カ忠告ス
ル權理

法部ノ令ヲ以テ之ヲ救復スルノ措設ヲ爲ス是レ皆チ憲法
ノ許ス所ナリ
議院カ諸官局ノ現狀ニ於テ是非ノ說ヲ持スルアレハ或ハ
之ヲ奏進シ或ハ之ヲ編錄シ若シ更ラニ行政上ノ効用ヲ增
長スルノ改正策アレハ又々其執行ヲ勸告ス如是ノ事一ニ
評決案ヲ以テ之ヲ爲ス蓋シ憲法上ノ舊慣總テ然ルナリ然
リト雖モ變革ノ較ヤ大本ニ及フ者即チ王權ノ消長屈信ニ
關係スル者若クハ樞密ニ於ケル命令ノ權限ヲ超越スル者
ニ至テハ評決案ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ス必ス正則ノ議案
ニ因テ施設ノ要ヲ提出シ以テ全立法部ノ然諾ヲ得サル可
ラス千七百八十年ハルクノ諸官局財計改正案ヲ通過スル
ヤ即チ此途ニ由レリ

議院カ使用スル所ノ管理

議院ノ官職ヲ管理スルヤ以上諸權理ノ外更ニ間接ニシテ且ツ強健ナル勢力ヲ具ス此勢力ハ政務ヲ執行シ官吏ニ賜給スルノ費用ハ一切皆ナ必ス議院ノ容諾ヲ仰カサル可クサルノミ必要アルニ因テ起ル者ナリ是レ何ヲ以テ能ク王權ノ施用ヲ節制スルト謂フヤ曰ク是レ有レハ則チ責任執政官カ當初自ラ議院特ニ下院ノ贊成ヲ必信スルニ非スンハ漫リニ君主ヲシテ支辨ヲ要スルノ行ヲ爲サ、ラシム新官設立ノ際事ノ急促ナラサル者ハ大抵先ツ議院ノ豫諾ヲ待テ後チ始メテ之ニ從フ是ニ於テ議院ハ實ニ獻替是非ノ大勢ヲ採持スルヲ得ルナリ

臨時費用ニ對スル議院奏議

議院ノ舊慣ヲ按スルニ上下兩院皆チ其自家ノ俸給費用ヲ支辨スルノ資金ヲ君主ニ奏求スルヲ得蓋シ兩院ノ上等官

下院議長

ノ俸給ハ制令以テ之ヲ定メ併用資金以テ之ヲ辨スト雖モ其他ノ吏員胥屬ノ報酬ニ至テハ一切各院自ラ其額ヲ定ムルヲ得往時ニ在テハ下院閉會ノ際ニ於テ其費用支辨ノ資金ノ奏求ヲ議決スルヲ以テ例トセリ然レモ近年ニ及ンテ斯ル費用ハ悉皆之ヲ歲出豫算表ニ記入シ每年供度委員會ニ於テ之ヲ議定ス又供度委員會ヨリ議院ノ某務ヲ成ス者ニ報酬セント欲スルノ建言ヲ呈スルアレハ輒チ政府ハ大抵自ラ擇テ直チ之ニ從行シ其要額ヲ豫算表ニ記入ス必スシモ別ニ下院正則ノ奏求ヲ待タサルナリ
下院ノ議長其職ヲ退クニ遇ヘハ下院ハ必ス常ニ君主ニ奏請シテ曰ク議長是ヨリ職ヲ去ラントス望ラクハ之ニ王寵ノ典章ヲ錫ヘト君主ハ此奏請ニ應シテ以テ該退職議長ヲ

法教師

貴族ニ叙シ且ツ下院ニ勅シテ其品威ヲ保持スルニ足ルノ恩賜金ヲ許與セシム

下院ニ屬スル教法師ノ事亦タ右ノ慣行ニ同シ舊例ニ據ルニ法教師短促ナル服職約期ヲ終ハレハ下院ハ爲メニ之ニ寺院ノ顯位ヲ賜ハンコチ奏請ス議院ノ改選期毎三年タルノ日ニ在テハ法教師ノ服職畧ホ二年半ヲ經ルニ方テ下院此奏請ヲ爲セリ改選期毎七年タルニ及ンテ大抵議長此間一タヒ法教師ヲ代ヘ都テ二人ヲ容ル千八百卅七年以來ハ天子ヨリ寺院ニ賜フ所ノ庇護ノ減殺セルカ故下院ハ復タ寺院ノ顯位ヲ奏請スルノ故道ニ由ラス供度委員ヲシテ法教師ニ年俸ヲ議與セシム是ヨリ先キ千八百卅八年五月三十一日下院ハ法教師ヲ増シテ三人ト爲スノ說ヲ進奏シ然

法教師

レヒ上既ニ記スル所ノ故ヲ以テ曾テ之ニ顯位ヲ賜ハレヌ勅可ヲ得タリ今再ヒ此等ノ情狀ヲ叙述シ前奏求ノ旨趣ヲ反覆セル奏議案ヲ提出スル者アリシニ全院之ヲ可決ス此討議ニ際シ内務尙書ロード、ギモン、ラッセルハ下院ノ所爲ヲ以テ正經ト爲シ政府ハ決シテ其希望ヲ放棄ス可キ意趣ナキ旨ヲ辨セリ然レヒ後チ又論シテ曰ク下院ハ君主ヲシテ其庇護ヲ下賜セシムルヲ得ス但タ其下賜ヲ忠告スルヲ得可キノミト陛下ハ該奏請ニ御答ヲ賜フテ曰ク朕ハ朕ノ忠實ナル下院ノ爲メニ汝等カ意望ヲ實施スルノ方法如何ヲ接裁スヘント此會期中供度委員ハ皆チ法教師ノ年金、往常二百磅ナルヲ増シテ四百磅ト爲スノ說ヲ主張ス因テ出納検査長自ラ之ヲ考定スルコトヲ約シ翌年ニ至リ歲出豫算表

上院ノ俸給等

ニ年金四百磅ノ定額ヲ記入ス爾後恒ニ之ヲ以テ其常俸ト爲シ法教師ハ永久官ト爲レリ

上院ノ俸給ト退隱料トハ上院自ラ之ヲ制定ス大抵上院ノ報給資金ハ之ヲ支辨スルニ足ルト雖ヒ若シ匱乏ヲ告クルニ遭ヘハ主記ヨリ之ヲ大藏省ニ申求シ其額ヲ歲出豫算表ニ編入ス大藏省ハ上院ノ報給資本ト其支辨法トニ容喙スルヲ得ス然レ千八百六十五年該議院主記ニ告クルニ其報給資金ニ關スル事ハ下院執行ノ方法ニ倣フチ便宜トスル旨ヲ以テセリ該資金ハ常ニ先ツ之ヲ併合資金ニ投合シ其支出額ヲ歲出豫算表ニ編入シ毎年議院ノ議決ヲ經ル者ス又上院ノ吏員報給ヲ求ムルアレハ上院自ラ之ヲ裁定ス即チ或ハ直接ニ或ハ選抜委員ノ錄聞ニ因テ之ヲ裁定スルト

下院ノ俸給等

ナリ

下院ノ俸給退隱料其他ノ用度ハ下院吏員ヲ管スルノ事務掛アリテ之ヲ定ム該事務掛ハ制令ニ因テ設置セラル、者ニシテ下院議長出納檢査長國務尙書及ヒ下院議員中ノ役員ヨリ成ル然レモ實際ヲ見レハ議長獨リ其事務ヲ施措ス該掛員ノ集會ニ定制ナク重大ノ事件起レハ乃チ之ヲ召集ス千八百三十六年(是時迄ハ下院ハ吏員俸給ヲ受ケスシテ謝金ヲ受ケタリ)ヨリ千八百四十九年ニ至ルマテ下院吏員ノ俸給ハ下院撰抜委員ノ錄聞ニ從テ數々之ヲ整定セリ下院ノ職員ハ三部ニ分チ一ハ主記一ハ議長一ハ議會ノ監吏之ヲ主理ス各部長ハ其俸給タルト臨時經費タルトヲ問ハス擔任部局ノ諸費目ヲ認許シ其總支出表ハ之ヲ議長ニ呈

議院主記
吏員

シテ認允押署ヲ請フ假シ職員ヲ變更増益セント欲セハ別ニ大藏省ニ謀ルヲ須ヒス議長ノ認允ヲ以テ足レリトス例ヘハ千八百六十五年各々一千磅ヲ給シテ二個ノ議案調査掛ヲ設置スルニ方リ議長ノ認允ヲ以テ之ヲ舉行セリヴトリヤ第七十二種、十二号、十三号ニ據ルニ下院ノ用度ハ議長ノ檢閲ヲ以テ決定ス議長ノ命ハ大藏省カ議院ノ議定ヲ要スル費額ヲ年々ノ經費豫算表ニ記入スルノ狀ナリ大藏省ハ其申告ヲ受テ直チニ豫算表ニ記入シ別ニ復タ之ヲ檢査セス是レ事ノ下院内部ノ經濟ニ屬スル者ナレハナリ然レモ議院用度ノ費目中上下兩院ニ連帶スル者ハ大藏省之ヲ制定ス乃チ委員ニ隨伴スル證人ノ報給傍聽筆記者ノ報金等ニ用ユル費額ノ類是レナリ又下院吏員ノ退隱料ハ養

老金給與規則ニ依テ事務掛之ヲ定ム

以上ノ條項ヲ觀ハ應サニ知ルヘシ下院ハ其役員ニ關スル事項ニ於テハ官吏ノ報給ヲ裁定スヘキ王權ニ侵入スルヲ許サル、フヲ是レ他ノ官吏ニ對シテ用ウルフヲ得サル特許ナリ

抑モ公僕ヲ任免統駁スルハ王者ノ權理ナリ前ニ指論セルカ如キ殊異ノ場合ニ際シ議院ノ職分上之ニ獻替セサル可ラサル時ハ則チ可ナリ苟モ然ラスシテ直接ニ之ニ干涉スレハ憲法ニ違背ス是レ通則ノ易ユ可ラサル者ナリ然レモ上下兩院ハ直接ノ動議ヲ起ス能ハサルニ際シ官吏ノ任免統駁ニ關シテ執政官ニ質問シ或ヒハ不整ノ討議ヲ起スフアリ是レ舊慣ノ無キ所ニ非ラス此ノ如クシテ執政官モ新

ON
 PARLIAMENTARY GOVERNMENT
 IN
 ENGLAND.
 ALPHEUS TODD.

英國議院政治論第五卷

王權篇

二

亞爾彪德度著
 尾崎行雄譯

報知社發兌

議院執政官ニ
 質問ス

聞若クハ社會公衆ノ誣評ヲ受ケタル任用ノ正當ナルヲヲ
 説明辨護スルノ機會ヲ得ルナリ
 以上論スル所ヲ解釋証明シ又往常ノ議院カ此王權ニ干涉
 セシ時ノ情狀ヲ説明センカ爲メ左ニ實迹ヲ掲ク

英國議院
 政治論
 王權篇
 上終

英國議院政治論目次畧

第一卷	總論	(既刻)
第二卷	制度沿革史	(既刻)
第三卷	內閣更迭史	(既刻)
第四卷	至尊一名王室篇	(既刻)
第五卷	王權篇	(著手中) 一ニ迄アリ
第六卷	王權政府諸會議篇	(既刻)
第七卷	議院政府樞密院篇	(既刻)
第八卷	內閣會議篇	(既刻)
第九卷	內閣執政篇	(既刻)
第十卷	職官篇	(近刻)
第十一卷	法官篇 大尾	(近刻)

英國議院政王權篇 二

アルフニス、トッド著

尾崎行雄譯

第一款、官吏ノ任命、免黜、監理ニ係ル王權

千八百七年クレンヅル内閣職ヲ辞シテポートランド侯
未タ之ニ代ラザルニ際シ世間説ヲ爲ス者アリ曰ク國王
ハスペインサ、パースヅルヲ誘フテ新内閣ニ入ラシメン
カ爲メ此卓越ナル政治家ニランカスター侯國ノ總裁職
ヲ與フルノ意趣アリト從來此職ハ御意ノ好マセ給フ間
之ニ居ラシムルヲ以テ常例ト爲セシガ陛下ハパースヅ
ルヲシテ王室ノ爲メニ収入多キ職業ヲ棄テシムルノ報
酬トシテ氏ニ告クルニ終身總裁職ヲ保有ス可キ旨ヲ以

先例

スペインサ、
パースヅル

テス是ニ於テ三月二十五日下院ノ一議員動議ヲ起シテ
曰ク宜ク奏議ヲ上テ該職其他通常終身間許與セズ以テ
其官職ハ御意間(君主ノ好マセ給フ年月間在任ス可キ者
ニ御意間ノ官職ト云ヒ過失ナクハ君主ノ好惡如何内
問ハス終身之ニ居ル可キ者ヲ善行間ノ官職ト云フ)ヲ除
クノ外如何ナル約束ニテモ之ヲ許與セザレザランヨ
請フ可シト此動議ヲ論スルヨ方リバトス文、ハ下院ニ
告テ曰ク陛下ガ余ニ終身間總裁職ヲ與ヘントセ給ヘル
ハ世間傳フル所ノ如シ然レバ余ハ陛下ヲシテ下院ノ上
ル可キ忠告ノ爲ニ羈束セラル、トナカラシメテ欲ス
ルカ故陛下ノ授與ニ乘シテ之ヲ受ケテ官職ノ如何ヲ問
ハスシテ微力ヲ陛下ニ致サントナシテ決心シタリト前政府

先例

ノ重立タル人士ハ皆ナ動議ヲ賛成ス其言ニ曰ク何レノ
職位ニテモ終身之ヲ許與セス絶ヘテ其誠實ナル臣僕ヲ
賞センガ爲メ其手中ニ留ムルハ國王ノ利益ナリ故ニ此
奏議ヲ如キハ王權ヲ制限セント欲スル者ニ非スシテ陛
下ノ便宜ヲ圖ル者ナリト下院ハ大多數ニ因テ奏議ヲ可
決シ議員中席ヲ樞密院ニ占ムル者ヲシテ之ヲ陛下ニ奉
呈セシメ陛下ハ憲法上ノ慣行ニ從テ新内閣ヲ組成後迄
勅答ヲ賜ハサリシカ内閣組成後直チニ次ノ如キ勅答ヲ
下シ給ヘリ其略ニ曰ク陛下ハ細カニ奏議ノ旨趣ヲ考察
セラル可キナリ其誠實ナル下院ニ通知ス之ヲ通知スル
ト同時ニ今ニ許與セントシ給フテハカスヨク度國ノ總
裁職ハ唯々御意間之ヲ許與スルヲ以テ適當ニ考定セラ

レタルヲ通知ス陛下ハ其法律上委托セラレタル或ル官職ヲ終身間許與スルノ權力ヲ使用スルニ方テモ亦爾他悉皆ノ王權ヲ使用スル時ノ如ク常ニ公利公福ヲ以テ其行爲ノ目的トシ給フ可キヲ其誠實ナル下院ニ保証スト出納院長ノ職ヲ以テ新内閣ニ入レルバトスヴルハランカスヲ一侯國ノ總裁ヲ兼スト雖也御意問フ約ヲ以テ之ニ就ケル有俸無職ト稱スルヲ得可キ該職ハ爾來内閣員常ニ之ヲ占ム

千八百九九年下院ハコロチル、ワイドルノ發議ニ依テ大總督ヨーク侯ノ行爲ヲ調査セシム是ヨリ先キ説ヲ爲ス者アリ曰ククラアクト云ヘル婦人ノ利益ヲ謀テ陸軍ノ御用株ヲ賣レル者アリシハ陛下ハ該婦人ト賤ム可キ關係

ヨーク侯

ヲ結ルカ爲メ之ヲ答テス等閑ニ附セリト大宰相ハ「スウ」ルハ修正説ヲ提出シテ陛下ヲ辨護シ終ニ陛下ニクラアクト罪ヲ分ダセルコトヲ明カニスルヲ得タリ然レハ陛下ハ其職ヲ辞セルカ故下院モ亦之ニ關スル措置ヲ中絶スルコトヲ決ス後々二年ヲ經テ千八百十一年五月陛下ノ再ヒ舊職ニ任セラル、ヤ下院ハ之ヲ不可トシ六月六日ヲ以テ罷責ノ動議ヲ起ス執政官ハ之ニ反抗シテ陛下ノ其職ニ適セルト軍中ニ名望アルトテ説キ又下院前回ノ處置ハ陛下ヲ以テ永久其職ヲ避ケシム可キ目的ニ非サリシノミナラス毫モ陛下ノ面目ニ汚點ヲ留メザリシコト論セリ動議ハ大多數ヲ以テ否決セラル

千八百十二年議院ノ開場ニ先ツコト少時執政官ハ攝政太

コロチル、マク

子ニ勸ムルニ其誠實ナル臣僕ヨロシク、マホンノ寡婦救助金支出局長ニ任セラレシヲ以テス其尸位ノ性質アルヤ會計事務掛ハ既ニ千七百八十三年ヲ以テ之カ廢止ス德憲軍事調査事務掛ハ千八百八十年ヲ以テ再ヒ之ヲ德憲ス千八百十年下院ハ悉皆ノ虚職ヲ廢シ更ニ陛下ヲ少シ難道ニ因テ高貴ナル文職ニ居レル者ヲ賞スルヲ得セシムル可キ方法ヲ設クルヲ便宜ニ決定ス執政官ハマホンナル、マホンヲ以テ其勤勞、公賞ヲ受ク可キ者ヲ認メテレテ議院別ニ之カ方法ヲ設カサルカ故止ムヲ得ス寡婦救助金支出局長ニ任セラレシヲ德憲ス然レモ議院若シ該職ヲ改革若シハ廢止セシムル議決セシ其議定ニ從フ可キヲ約セシ千八百十二年一月九日供度委員

會ヲ開クノ動議ヲ中止セシカ爲メ修正説ヲ起スニ方テ下院ハ此事態ニ論及シ長キ討論後修正説ハ遂ニ否決セラル二月廿三日供度委員會ハ修正説ヲ出スルヲ以テマホンノ寡婦ニ許與ス可キ救助金減少セシムル者アリシカ亦十六名ヲ多數ニ因テ否決セラル翌廿三日供度委員會ハ意見ヲ報告スルニ際シ再ヒ前ノ修正説ヲ提出スル者アリシ三名ノ多數ヲ得テ之ヲ可決ス是ニ於テ該職ハ廢止ニ歸シ執政官ハ氏ヲ宮中會計官兼攝政太子ノ私書記ニ任セラレシヲ請フテ其俸給夫大藏省ヨリ支出セシム四月十四日マホンノ君主ノ私書記ヲ置クニ憲法違背ノ事ト爲シ譴責ス決議案ヲ發スルヲ見込テ以テ此任命手續ヲ寫本ヲ求メ動議ハ大多數

砲兵將官

ニ因テ否決セラルト雖モ六月十五日執政官ハ下院ニ告
クルニ攝政太子ハ御手許金ヨリコロチル、マクマホンノ
俸給ヲ支出セラル可キ旨ヲ以テス爾後此任命モ再ヒ下
院ノ非難ヲ受ケス氏ハ終身其職ヲ有テリ
千八百二十三年ヒ、下院ニ動議ヲ起シテ砲兵將官
ノ欠位補充ヲ不可トス嚮ニ勅命事務掛ハ之ヲ不用ノ官
職ト明言セルカ爲メナリ下院中修正説ヲ發シテ撰拔委
員ヲ置テ其職任及ヒ之ヲ廢スルノ便否ヲ調査セシム可
シト論スル者アリシガ修正説ハ忽チ否決セラレ動議モ
亦次テ否決セラル千八百三十年三月二十九日供度委員
會ヲ砲兵部經費豫算ヲ議スルニ方リサ、シエムス、グラ
ハ、砲兵將官ニ支給ス可キ金額丈ケ砲兵部ノ俸給ヲ減ス

殖民部尙書

可シト云ヘル修正説ヲ起ス其意蓋シ該職ヲ廢スルニ在
リ修正説ニ否決セラルト雖モ該職ハ翌年ニ至テ終ニ廢
セラレザリ、
千八百三十三年四月十六日下院ヲシテ殖民部附屬ノ一僧
官ノ爲メニ殖民部尙書ノ措置ニ干涉セシメント企テル
者アリ是ヨリ先キ該尙書ハ議院ノ議定條款ヲ以テ委托
サレタル職權ニ依リ殖民部附屬僧官ノ賜假期限ヲ延ハ
スヲ拒ム是ニ於テ一議員動議ヲ起シテ下院ハ其俸給
ヲ動かサスヲ更ニ六個月間ノ休暇ヲ該僧官ニ與フル
ヲ可トスル旨ヲ決議セシコト望ム殖民部副尙書ハ事實
ヲ舉テ政府ノ該縮土ヲ寬待セルコト既ニ少ナカラサルヲ
証明シ且ツ斯ル事項ニ於テ政府ニ干涉スルハ下院ノ慣

大總督

行ニ戻ルヲ論テ動議是ヨ於テ否決セラル
千八百三十七年ヒトスル大總督ト兵部尙書トノ近時ノ
任命ヲ駁撃セシト欲シ陸軍經費豫算ニ關スル供度委員
ヲ報告ヲ考察スルコ方リ修正説ヲ起シテ此等ノ職員ノ
俸給額次ケ經費ヲ減少セシメテ主張ス憲法ニ熟達セリ
トノ聞ハ高キウツシ之ヲ評シテ曰ク是レ濫漫且テ憲法違
背ノ措置ナリ此修正説ヲ行ハレシメハ其結果ハ大
總督ヲ變更セシメテ該職ヲ廢スルコ至ル可シ動議者ノ
目的ヲ推究スルニ其歸大抵所ノ職員ヲ任命ス可キ王權ニ
不當ノ干涉ヲ及ホスコ過キスト又曰ク陸軍ノ各費目ニ
其適宜ヲ思考スル所ノ費額ヲ配當スルハ當院ノ權理ナ
ルヲ固キヤ疑義容シ大然シ其自的一個人ヲ攻撃スル

内務省附屬狀
師

在野ノ奏議ヲ以テ分明且ツ直接ニ陳述セザル可ラ
ズト修正説ヲ否決セラズル事ヲ期セテ其意ヲ表シ
千八百四十一年下院中新官職則チ内務省附屬狀師ヲ創
設スル事不可トテ斯ル官職ヲ不用ナリトシテ決議案ヲ提
出セシ者アリ之ニ答フル者アリ曰ク斯ル非難ハ該職
員ノ俸給ヲ請求スルコ方リ供度委員會ニ於テ發否可キ
者ナリト是ニ於テ動議者一ヒ其説ヲ引キ經費豫算ノ討
議ニ際マテ再ヒ之ヲ非難ス然レモ政府ハ該事件ヲ審案
ス可キ旨ヲ約セシカ故下院復シ之ニ容喙セザリキ
千八百三十八年ハ其族ノカヲテ太守ニ任セラレ
ヤテ其ナル者ヲ任所ニ伴テ其ハ多年前姦淫ノ罪ニ服
スル雖モ爾後名譽アリ責任アル位地ニ就ケル者ナリ某

テ一某

ノ頗ル法學ニ精ク才力ニ富ムヤ侯之ヲ擧テ其書記官ト
 爲シ行政議會ノ議官ト爲ス侯ノ新任職員名簿ヲ具狀ス
 ルコ及ンテ本國政府ハ某ヲ除テ悉皆ノ任命ヲ認許ス時
 ニ上院ハダレムム侯ノテ「某ヲ就職セシメタリト云ヘ
 ル風説」ノ虚實ヲ調査ス始テ政府ハ之ヲ虚傳トシ上院ニ
 答ヘタレヒカナダ諸新聞紙ノ掲クル所復々疑ヲ可ラキ
 ル者アリシガ故政府モ報ヲ得テ驚キ又悔キタル旨ヲ明
 言ス次テ政府ハダレムム侯ノ措置ヲ責メタルニ侯之ニ
 答テ曰ク悉皆ノ責任ハ余自ラ之ヲ負擔ス政府若シ必ス
 テ「某」ノ任命ヲ取消サシメント欲セハ余先ツ辭職ス可
 シト政府ハ該任命ヲ取消テ主張シテ爲メニ侯ヲ退クル
 可キ欲モス頗ル處措ニ苦ミ時ニ一層重大ナル事件起テ

リ、ビー、メ
 イトランド

侯其職ヲ退キ某モ亦侯ヲ伴フテ英國ヲ還ル然レ此事
 是ヲ止メテ千八百三十九年ダレムム侯ヲ上院ニ出席ス
 ルヤ該院ハ再モ此疑問ヲ提出シ奏議ヲ上テ之ニ關スル
 往復文書ヲ下附テ請フ可シト論ズル者アルコ至リ大宰
 相「コト下」ダレムムホトルン」前記ノ事態ヲ説明シ且ツ告テ
 曰ク該往復文書ハ其性質公書ニ非スシテ寧私書ニ屬
 ス可キ者ナルカ故之ヲ下附シ難シ然レモ彼方如キ人物
 ヲ任用セルハ政府ノ深ク悔ムル所ナリト動議者是ニ於
 テ其説ヲ引ケリ
 千八百三十九年八月十三日上院ニ動議ヲ起セテ「ビー、メ
イトランド」ガヤドラス軍ヲ指揮職シ印度
 議會ヲ議官トシ辭セル文書又下附テ求ムル者アリ執政

海軍省ノ叙任

於ケル命令ヲ以テ免職セラレ、下院中奏議ヲ上テ
 氏カ過失ナキヲ陳述シ更ニ他ノ官職ニ任命セラレシ
 ナ請願ス可シトシテ動議ヲ起セル者アリ説者ノ言ニ曰ク
 英國在テハ終身其位ニ居ラシムルカ故法官能ク獨立
 ノ地ヲ保ツ得テ雖モ殖民地ニ在テハ政府容易ニ之
 ヲ罷免スルヲ得可シ其獨立ヲ保スル者唯ク樞密院ノ委
 員會ニ控訴スルノ法アルニシテ殖民事務局長サ、
 一、ホップハウズハ動議ヲ以テ職員任命ノ王權ニ干渉スル
 者ト爲シ終ニ之ヲ引去セシム此際印度事務局長云ルア
 リ國王若シ當院ノ奏議ニ從テサ、クテアリ、チニ官職ヲ
 與ヘハ誰カ當院ニ對シ此任命ノ責任ヲ負擔スル者ナシ
 千八百五十三年四月十九日ア、ケル、チ、ン内閣ノ就職後

先例

下院議員動議ヲ起シテ倉庫、造船局、其他議員撰舉區ト關
 係セル部局ニ於ケル海軍省ノ勢力并ニ叙任權ノ使用法
 ナ調査セシメシカ爲メ撰拔委員ヲ設置ス可キヲ論ス蓋
 シ前内閣ニ密着ノ關係ヲ有セル吏員ハ政治上ノ目的ヲ
 以テ叙任權ヲ使用シタリト認定セルカ故ナリテルセ
 疾ニ代テ政府ニ入レルアベルギーン内閣ハ此動議ヲ認
 許シテ委員ヲ設置セシム委員ハ五月二十三日諸項目ニ
 附キ一々事跡ヲ掲テ調査ノ結果ヲ報告ス其略ニ曰ク千
 八百四十七年以前ハ倉庫掛ノ役員ヲ叙任登用スルニ方
 テ不當ノ慣行アリシモ全年二月二十七日海軍省ハ回文
 ナテ發シテ役員ヲ任命登用スル惣テ才能功績ヲ以テ其準
 據ト爲ス可キヲ命セリ千八百四十九年再ヒ同様ノ回文

ヲ發シ添ユルニ海軍卿サ、フランシス、パリーリングノ私書ヲ以テス此書ハ倉庫造船局等ノ監督其他重立タル吏員ニ向テ其必ス政治ニ干與セサル可シトノ保証ヲ求ムル者ナリ此等ノ措置ハ能ク功績ヲ奏セシニ似タリ然ルニテルビト内閣ノ政權ヲ執ルニ及ンテ右ノ回文ニ違背シ己カ黨與ヲ舉テ倉庫造船局等ノ吏員ト爲ス此際政治上ノ意見ノ爲メニ任用セラレタル者ハ僅々數名ニ過キスト雖ヒ尙ホ人ノ信任ヲ傾ク政治上ノ勢力ニ因テ人ヲ進退セス勳功ノ有無ニ因テ之ヲ進退ス可シト云ヘル海軍省ノ保証ヲ悉ク破壊スルニ至レリ海軍卿ノ就任スルヤ二三ノ官職ヲ除テ文官叙任權ハ悉ク之ヲ書記官スグフットドニ委託ス故ニ此過アリ近時ニ至テ千八百四十九

年ノ回文ヲ恢復シ且ツ其條款ヲ樞密院ニ於ケル命令中ニ記入シテ頗ル確固ナラシメタリト委員ハ終リニ臨ミ一言ヲ加テ曰ク今日再ヒ整理セラレタル倉庫造船局等ノ吏員任用法ヲ他日ニ及シテ變更スルコアラハ成ル可ク速ニ議院ニ通知セラレタシト千八百五十三年七月五日下院ニ動議ヲ起ス者アリ曰ク當院ノ見ル所ニ依レハ前任海軍會議局ハ政治上ノ目的ヲ以テ造船局ニ係ル叙任權ト其勢力トヲ使用セルヲ其信任ヲ失ヒ其効力ヲ減スルノ甚クシキニ至レリト此過ヲ獨リ前任官ニノミ歸スルヲ欲セステ何レノ海軍省モ多少同様ノ過失ヲ免レスト云ヘル修正説ヲ提出セル者アリ議論暫時ノ後休會ノ動議出テ、勝ヲ制シ爾後再ヒ此件ヲ討議セザリキ

尉官イングレ
デュー

是ヨリ先キ五月三十日下院ハ造船局調査委員ヲシテイ
 ングレデューノ件ヲ考察セシム氏ハ千八百四十年不從順
 ノ廉ヲ以テ海軍中尉ノ職ヲ免セラレタル者ナリ爾後數
 ヲ舊職ニ復サントテ請フト雖モ海軍省ハ常ニ之ヲ拒絶
 ス千八百五十二年十一月三十日再ヒ請願書ヲ呈セルニ
 海軍省ハ十二月廿二日ヲ以テ當省固ヨリ之ヲ聽納セス
 ト雖モ汝若シ請願書ヲ陛下ニ上ラント欲セハ宜ク之ヲ
 上ル可シ當省敢テ異議ヲ唱ヘネト答フ是ニ先キ十一月二
 日デレヒト内閣ハ辭表ヲ呈シ其後任定マル迄假ニ内閣
 ニ居ル旨ヲ報告スイングレデューハ海軍省ノ許可ヲ得テ
 直ニ請願書ヲ上レルニ陛下之ヲ嘉納シ千八百五十三年
 一月四日終ニ氏カ再任ヲ制可シ給フ後十二日再任未タ

先例

全成セキルニ方テ新任海軍卿其職ニ就キイングレデュー
 ノ再任ヲ確定ス後テ幾クモナク下院ハ動議ヲ起シテ此
 件ニ關スル文書ヲ下附テ求ム政府ハ求メニ應ジテ之ヲ
 下附シタルニ該院ハ造船局調査委員ニ附シテ之ヲ考察
 セシム其意蓋シ思ラシ海軍省ノ數々拒メルニモ拘ハラ
 ス終ニイングレデューヲ再任シタルハ必ス政治上不當ノ
 勢力ヲ使用セルガ爲メナル可シト委員ハ之ニ關スル情
 狀ヲ細カニ調査シタル後テ七月二十六日報告書ヲ呈シ
 テイングレデューノ再任ヲ善巧ノ處置ニ非スト云ヘリ委
 員ハ又陳述シテ曰ク再任ノ請願ハ一種特異ノ時際ニ於
 テ允許セラレタルカ故特ニ意ヲ注テ之ヲ調査セリ然レ
 モ政治上其他不當ノ意趣ヨリ之ヲ允許シタル証跡ナカ

デー、エフ、ケ
ンチデー

リキト
千八百五十五年下院ニ勳議ヲ起ス者アリテ森林掛兼樞
密院議官デー、エフ、ケンチデー免職ノ理由ヲ調査セシム
可キ委員ノ設置ヲ主張ス氏ハ官ニ居テ信ナラズ屬官ヲ
遇ノ其當ヲ得ズ政府モ其行爲ニ向テ責任ヲ負擔スル能
ハストテ出納院長グラッドストーンヲ爲メニ免職セラレタ
ル者ナリ時ヨグラッドストーンハ既ニ職ヲ退キタレドモ尙
ホ此勳議ニ反對ノ曰ク是皆タ全ク議院ノ慣行ニ戻リ公務
ノ方途ヲ妨ク可キ處措ナルノヨナラズ又一目瞭然タル
理由ナキ者ナリ千八百八十四年決議ニ從ヒ議院ハ斯ル
調査ヲ爲ス可キ單獨ノ權理ヲ保有ストスルモ法律ニ從
テ起レル免職ト法律上職員ノ行爲ニ對シ責任ヲ負擔ス

先例

可キ者ノ意見ニ依テ行ヘル免職トハ實際之カ調査ヲ拒
ムヲ以テ當院ノ慣行トスト氏ハ此勳議ヲ認テ執政官ノ
最モ重要ナル職務ノ一ニ附テ其在职間ノ行爲ヲ攻撃セ
ント欲スル者ト爲シ余ハ可否ノ投票ヲ見合ス可シト明
言シ精巧ナル演說ヲ爲シ議場ヲ去ル大藏尙書ウヰルソン
ハ免職ヲ辨護ノ曰ク若シ一目瞭然タル不正ノ廉アラハ
之ヲ等閑ニ附ス可ラサルコト固ヨリ辨テ待タスト雖モ今
日ノ如キ場合ニ於テ議院常ニ之ヲ調査スルノ權理ヲ操
執セハ終ニ政府ヲ運轉スル能ハサルコト至ル可シトロ
ド、バトネルストンハケンチデーノ其名譽、信用、性質ヲ毀
傷ス可キ行爲ナカリシコトヲ説キタレドモ尙ホ勳議ヲ以テ
危険ナル先例ヲ置ク者ト爲シ且ツ論シテ曰ク其職任ニ

適セスト考フル所ノ者ヲ免黜スルノ權理ハ常ニ之ヲ執
 政官ニ委托セサル可ラハ當院若シ免黜セラレタル者ヲ
 シテ皆十當院ニ於ケル朋友ニ訴ヘテ免黜ノ當否ニ裁定
 申請ハシムルカ如キ先例ヲ作ラハ職員統御ノ規律ハ忽
 中紊レテ復々如何ヒス可ラサルニ至ル可シト勸議者モ
 クナチチ一ノ名譽ハ毫モ之カ爲メニ毀傷セラレタル所
 ナシトノ一言ヲ以テ満足シ終ニ其說ヲ引ク
 千八百六十年下院ニ勸議ヲ起シテ文書ヲ下附チ求メタ
 ル者アリ蓋シ文官採用事務掛ノ試験ヲ受テ拒絕セラレ
 タル候補人ニ關シ下院ヲシテ該事務掛ノ判決ヲ檢察セ
 シメメカ爲メナリ政府ハ裁判上ノ審査ヲ擔任セル職員
 ニ斯ル干涉ヲ及ホスチ不可トシ之ヲ以テ先例ナク辨明

文官採用事務
掛

タルンブル

ス可ラサル措置ト爲セリ其言ニ曰ク該事務掛ニ荷モ
 政府若クハ當院ノ信任ヲ受クルニ足ラサルノ實ヲ現ハ
 シ或ハ不當ノ行爲アリ或ハ學力其他ノ欠乏ヨリ其任ニ
 堪ヘサルノ証アラハ宜ク罷黜ヲ請フノ奏議ヲ上テ之ニ
 干涉ス可シト勸議ハ否決セラレ後下院ハ其年報ト共
 ニ或ル報告ヲ出版セシメメカ爲メ該事務掛ニ下命スル
 一チ拒ンテ曰ク彼等ハ唯々王室ニ對シテノミ責任ヲ負
 擔スル者ニシテ當院ノ權力ノ得テ支配ス可キ所ニ非ス
 ト
 千八百六十一年三月四日上院ニ勸議ヲ起シ記録局吏員
 タルンブルノ拜命ト辭職トニ關スル情狀ヲ調査ス可キ
 撰拔委員ヲ設置セン一チ主張シタル者アリ政府ノ反對

モザムビック
ノ領事廳

ヲ受テ否決セラル
千八百六十一年七月十五日上院ニ動議ヲ起セル者アリ
亞弗利加東岸ノ奴隸貿易抑壓ニ助力セシメカ爲メ直
チニモザムビックニ領事廳ヲ再置セラレシテ希望スル
旨ヲ決議セント欲ス前回ノ會期ニ於テ上院ハ奏議ヲ上
テ該所ニ領事廳ヲ再置セラレシテ請フト雖モ政府ハ
之ヲ再置セス故ニ今此動議アリ外務副尙書之ヲ駁シテ
曰ク是レ妄ニ行政部ノ職務ニ侵入スル者ニシテ此ノ如
キハ議院ノ干涉ス可キ場合ニ非スト又曰ク昨年ノ奏議
ハ驟驚ニ乘シテ通過セタル者ニシテ執政官ハ其到底決テ
採ルニ至ラザル可キヲ察シテ内閣ノ保助者ノ上院ヲ去
ルコトヲ許セルカ故漸ク通過セラルナリト此等ノ説明後

愛蘭情理解判
所

動議ハ引去セラル
千八百六十五年愛蘭情理解判所ノ組織ヲ改正セシメカ爲
メウイットキイドソ提出セル議案中ニハ某氏ヲ舉テ該法
院ノ某職ニ就カシム可シト云ヘル條款アリ檢事長之ヲ
駁シテ曰ク責任執政官ノ奏請ニ從テ勳ク所ノ至尊ニ職
員任命權ヲ委テスシテ議院ノ議定書中ニ將來設置セラ
ル可キ職員ヲ指名スルノ先例ヲ作ルハ公利ヲ進ムル所
以ニ非ニ想フニ某人物ノ某官職ニ適スルヤ否ヤヲ論シ
テ私身上ノ討議ヲ招ク程忌ム可キ者ハアラフ故ニ余ハ
下院ニ於テ職員ヲ任命スルノ説ニ同意スル能ハスト後
チ少時ニシテ議案ハ引去セラル
第二款八官吏ノ報酬ニ係ル王權

千八百二十八年五月二十日下院ニ動議出テ、王室費
 リ支辨セル年金ノ決算報告ヲ請求ス内閣之ニ反對シテ
 曰ク王室費ハ其在位間至尊ノ爲メニ支出ス可キ者ニシ
 テ之ニ關スル契約ハ決シテ之ヲ破毀スルコトヲ得ス是レ
 動カス可ラサルノ要義ナリ故ニ苟モ議院ニ向テ補助ヲ
 請フノ必要ヲ呈出スルコト非スハ又特ニ濫弊ノ判然タ
 ル者アルニ非スハ議院ハ此類ノ細目ニ論入ス可キ權
 理ナシト決テ舉クルコト及メテ動議廢棄セラル
 此項目ノ下ニ在テ次ニ吾人ノ注意ヲ勞ス可キ場合ハ千
 八百三十年ニ起レル者トス全年ダレハ内閣ノ就職スル
 ヤ委員ヲ設テ上下兩院ニ議席ヲ有スル施政府吏員ニ給
 與ス可キ俸給額ヲ考察セシメテ下院ニ説キ且ツ

約スルニ必ス委員ノ意見ニ從フ可キヲ以テ十二月九
 日出納院長ロイドアルソルズハ委員設置ノ議ヲ起スニ
 方リ該院ニ告テ曰儀式上ヨリ考フルニ發議者タル余カ
 氏名ハ固ヨリ之ヲ委員中ニ加ヘサルヲ得サル可キト雖
 且當院ノ豫メ余カ欠席ヲ認許セラレシコトヲ希望ス何ト
 ナレハ政府ハ該委員ノ全ク獨立ナル議員ヲ以テ組成セ
 ラレ毫モ政府ノ勢力ニ因テ動カサレタリトノ嫌疑ヲ受
 ケサラシムコトヲ冀望スレハナリ彼ノ千八百六年理財ノ實
 況ヲ調査セシム可キ委員ヲ命スルニ方テ時ノ出納院長
 ガ之ニ一人ノ官吏ヲ加ヘサリシカ如キハ先例トシテ準
 據スルヲ得可キ者ナリト此委員ハ千八百卅一年三月三
 十日ヲ以テ大ニ職員ノ俸給ヲ減額セル意見書ヲ呈シ政

府ノ認承スル所ト爲レリ然レモ政府ハ尙ホ此改正ヲ以テ満足セズ千八百五十年四月十二日大藏卿ロイド、ジョン、ラッセル再々同様ノ委員設置説ヲ起シ之ヲシテ外交官ノ俸給並ニ裁判官ノ俸給退隱料ヲ調査セシメント欲スル旨ヲ告テタリ政府ノ經驗ト責任トヲ以テ官吏ノ俸給ヲ決定セズ之ヲ撰拔委員ニ付スルノ發議ハ頗ル議員ノ駁撃ヲ被リシト雖モ終ニ可決セラル執政官ニシテ此委員ニ加ハレル者ハ唯々發議者一人ノミ委員ハ千八百三十一年ノ報告ニ基ケル改正ヲ以テ既ニ充分俸給ヲ減額セル者ト認テタルカ故七月二十五日報告書ヲ呈スト雖モ其官吏ノ俸給ニ關スル箇條ハ僅々ニシテ重要ヲササル者ヲミナリキ然レモ他ノ項目ニ關シテハ重要ヲ意見少

ロイド、ドウグラス

税關吏ノ俸給

ナカラサリモ以テ政府與之ヲ議院ノ机上ニ留メ又出版セシメ次回ノ會期ニ先テ自ラ其責任ヲ負擔シ其判斷ニ從テ報告書中ノ諸種ノ意見ヲ實施ス可キ方法ヲ計畫ス
 千八百三十三年五月八日ヒューヤハ前王ジョージ四世ノロイド、ドウグラスニ賜與セラレタル年金ヲ以テ王室ト議院トノ契約ニ反ル者ト爲シ陛下ノ司法官ヲ以テ該年金ノ當否ヲ審査セシメラレシテ奏請ス可シト云ヘル動議ヲ起シ政府ノ認許ヲ得テ之ヲ通過スルヲ得タリ後テ執政官ハ此賜與ヲ廢止セシカ爲メ、コート、チャ、セツジョン、法院ニ倚頼セント欲スル旨ヲ告ク
 千八百三十四年七月三十日税關吏某等下院ニ請願書ヲ

呈シテ大藏省ノ布達ニ因テ其俸給ヲ減額セラレタルヲ
 ナ認難ス某等モ俸給ノ疑問ハ全ク行政府ノ與カル可キ
 所ニシテ議院ニ提出ス可キ者ニ非サルヲ熟知シタレド
 今日ノ事ハ特例ニシテ非常ノ困難ヲ來セル者ナリト云
 ヘリ出納院長ハ之ヲ評シテ最モ非常特異ナル處置ト云
 ヒ且ツ請願者ハ今日ノ場合ニ於テ訟難ス可キ理由ナキ
 ヲテ説明ス議員ハ概テ皆ナ此類ノ事ヲ下院ニ控訴スル
 ノ極テ不可ナル旨ヲ認承シ彼ノ屈セス燒ヤス常ニ人民
 ノ權理ヲ主張セルヒヨームノ如キスラ尙ホ論シテ曰ク凡
 ソ弊害ヲ大ナルハ當院ノ干涉ス可キ權理ヲ有セサル所
 ニ干涉スルモリ甚クシキハナシ而シテ今回ノ請願ノ如
 キハ當院ヲシテ官吏ニ給與スル所ノ俸給ヲ定ム可キ者

ハノーヴォー
 王ノ年金

ハ立法府ナルカ將テ行政府ナルカノ疑問ヲ判決セシテ
 ノトスル者ナリト請願書終ニ引去セラレ
 千八百三十八年五月一日ヒヨームハ其ハストヴ、ト王タル
 間ハ議院ノ議定書ヲ以テカムベルランド侯殿下ニ許與
 セル年金ノ支給ヲ停止ス可シト云ヘル議案ヲ提出スル
 ノ許可ヲ請フ蓋シ其獨立ナル至尊ト爲リ給ヘル後ニ及
 ブテ英國ノ王子ニ許與セル年金ヲ存續スルノ理ナシト
 思惟セルカ爲メナリ出納院長ター、スプリング、ライス之
 ナ駁シテ曰ク該年金ハ一生間殿下ニ許與シタル者ナリ
 議院ハ之ヲ剝奪スルカ如キ新法ヲ設クルヲ得スト諸議
 員ノ此說ヲ贊成スル者多クシテ動議ハ否決セララルヒョー
 ム千八百四十年三月二十七日ヲ以テ再ヒ同様ノ說ヲ